發驛	著驛	發送期間 自	發送期間 至	品名	使用車數 ワト	使用車數 トム	使用車數 チ	使用車數 チキ	使用車數 計	發送數量
〃	〃	〃	〃	莚黒文字	一				一	一個
〃	〃	〃	〃	萩柴藤蔓	一四				一四	一束
高山村長	島ケ原	〃	〃	莚、藤蔓柴	二四				二四	一束
計					七	一	一		九	
					二四		三		二七	
					九				九	
					九				九	
					四				四	
					六				六	
					五九		四		六三	
					七五二		四七		七九	
							二六		二六	
							八		八	

(二)　饗宴場其ノ他造營材料

饗宴場其ノ他幄舍等ノ造營ハ請負工事ナリシ關係上之ガ建築材料ニシテ鐵道輸送ニ依レルモノハ一部分ニ過ギズ且鐵道輸送セルモノト雖モ果シテ御用材ナルヤ否ヤ不明ナルモノ勘カラザリシモ分明セルモノニ對シテハ貨車ノ配給其ノ他可及的考慮ヲ拂フコトトセリ其ノ輸送數量其ノ他次ノ通

饗宴場其ノ他造營材料輸送數量調

發驛	著驛	發送期間 自	發送期間 至	品名	使用車數 ワト	使用車數 トム	使用車數 チ	使用車數 チキ	使用車數 計	發送數量
新川	二條	七、二六	八、二六	松不工材						
片町	〃	七、二三	一〇、一七	〃	一八	二			二〇	一七一噸
〃	〃	〃	〃	鐵釘	二一	四六	二六	一二	一〇四	一、一九二
計					一				一	八
					三九					
					四八					
					二六					
					一一					
					一二五					
					一、三七一					

第六節　大禮關係用品

第一項　大禮使用自動車

大禮使託送自動車輸送計畫表

輸送番號	発 驛	発 積込 月日	発 積込 開始時刻	発 発送 月日	発 発送 時刻	着 驛	着 到着 月日	着 到着 時刻	着 取卸 月日	着 開始時刻	自動車種類別車数 御料車×	供奉車	特待用車	雑用車	運搬車×	撒水車×	計	所要車 トラ	所要車 バス	計
1	品川	10.30	P 2.00	10.30	P 11.20	梅小路	10.31	P 11.59	11.1	A 8.00				3		2	5	2	3	5
2	〃	11.3	P 2.00	11.4	A 0.35	名古屋	11.5	A 12.13	11.5	A 8.00	2	2					4	2	2	4
3	〃	11.4	P 1.00	11.5	A 11.50	梅小路	11.6	A 6.51	11.6	A 8.00	2	2	28	10	6		48	8	40	48
4	名古屋	11.7	P 3.00	11.7	P 7.05	〃	11.8	A 6.03	11.8	A 8.00	1	2					3	1	2	3
5	〃	11.7	P 3.00	11.7	P 7.05	品川	11.8	P 5.20	11.9	A 8.00	1						1	1		1
6	品川	11.16	P 2.00	11.16	P 5.45	山田	11.18	A 8.21	11.18	A 11.00	2	2					4	2	2	4
7	梅小路	11.20	P 4.00	11	A 8.20	品川	11.22	A 6.32	11.22	A 9.00			4				4		4	4
8	山田	11.22	P 1.00	11.22	P 4.42	名古屋	11.23	A 3.05	11.23	A 8.00	2						2	2		2
9	〃	11.22	P 1.00	11.22	P 4.42	品川	11.24	A 5.31	11.24	A 8.00		2					2		2	2
10	梅小路	11.24	P 4.00	11.24	P 10.05	名古屋	11.25	A 4.34	11.26	正午		2					2		2	2
11	〃	11.24	P 2.00	11.25	A 8.20	品川	11.26	A 6.32	11.26	A 9.00			9				9		9	9
12	〃	11.26	P 1.00	11.26	P 8.30	品川	11.28	A 3.50	11.28	A 8.00	3	4	13	9	6		35	9	26	35
13	熱田	11.27	正午	11.27	P 3.56	〃	11.28	A 6.32	11.28	A 8.00	2	2					4	2	2	4
14	梅小路	11.30	P 3.00	12.1	A 8.20	〃	12.2	A 6.32	12.2	A 8.00				4		2	6	2	4	6

輸送列車	連結位置	記事
品川 69L 梅小路		
品川 95L 沼津 73L 名古屋	最前位	自動車運転手ノ関係ニテ積込ヲ早ムル為ス
品川 ※953L 沼津 ※967L 稲澤 89L 梅小路		自動車運転手少数ノ為メ前日引取回送シ積込ヲ為ス 雑用1ヶ所ズツヒ分ルズ
名古屋 285L 稲澤 87L 梅小路		
名古屋 285L 稲澤 70L 品川		自動車運転手不在ノタメ翌日取卸ヲ為ス
品川 75L 須松 69L 名古屋 151L 亀山 251L 山田	最前位	
梅小路 64L 品川		自動車運転手ノ関係ニテ前日積込ヲ為ス
山田 351L 亀山 152L 名古屋		
山田 351L 亀山 162L 名古屋 259L 稲澤 74L 品川		
梅小路 68L 名古屋		
梅小路 64L 品川		
梅小路 ※974L ※980 稲澤 ※962L 沼津 ※958L 品川		自動車運転手ノ関係ニテ前日積込ヲ為ス
熱田 64L 品川	品川ニテ切離シ積ワフ1ヶ所ニ纏メ最後部ニ連結スルコト	
梅小路 64L 品川		自動車運転手ノ関係ニテ前日積込ヲ為ス

備考
1. ×印ヲ附シタル自動車ハトラニ其他ハバス(ニ枝側總開キ)ニ積載スルモノトス
2. 発業ハ宮内省ニ於テ準備スルモノトス
   但シ取付取外シハ駅員ニテ為スヘシ
3. 覆布及網ハ古キモノハ中ヨリ柔軟ニシテ且ツ破損シ居ラサルモノヲ選定使用スヘシ
4. 覆布及網ノ掛外シハ駅員ニテ為スモノトス

(一) 輸送計畫

大禮使託送自動車ノ輸送方ニ關シテハ昭和三年五月二十五日宮內省主馬寮ヨリノ通知ニ依リ運輸局配車課員出頭種々希望等聽取シタルモ其ノ具體的輸送計畫ニ就テハ明治節ガ東京ニ於テ擧行サルル關係其ノ他ノ都合ニ依リ容易ニ確定ヲ見ザリシガ數次ノ打合ノ結果漸ク十月三日之ガ決定ヲ見タルヲ以テ不取敢關係鐵道局ニ通知スルト共ニ同月二十九日公報大禮關係通報ニ揭載ノ大禮使託送及大禮關係貨物輸送計畫ニ於テ別表ノ如ク輸送方ヲ制定セリ

而シテ右計畫ニ伴フ所要貨車ハ別途準備シタル大禮貨物輸送專用貨車中ヨリ之ヲ指定シ其ノ運用方ヲ別表ノ如ク定メ以テ其ノ散逸ヲ防止シ取扱方ヲ一定シタルモ特ニ御料車、運搬車、撒水車ノ如キ比較的車體ノ長大ナルモノニ對シテハ**トラ**號車ヲ充當シ輸送ノ安全ヲ期スルト共ニ積卸作業ヲシテ容易ナラシムルコトトシタリ

(二) 積卸及取扱方

本自動車ニ對シテハ託送ノ際之ヲ一々監査スルガ如キハ作業ノ遂行上甚ダ面白カラザルヲ以テ豫メ宮內省ト打合セ其ノ重量容積ヲ檢シ昭和三年十月三日禮達第二號大禮使託送貨物運送手續中ニ之ヲ左ノ如ク指定シ受託監査ヲ省略セシメタリ

種類	重量	積容
御料自動車	二、五〇〇斤	七五五立方尺
供奉其ノ他用箱形乘用自動車	二、二七二	五八三
幌形乘用自動車	一、八九五	四八八
運搬自動車	二、五九二	七四二

撒水自動車　三、四八六

而シテ積込ニ要スル歯止メ鎹ノ類ハ宮内省ニ於テ準備シタルモ之ガ取付取外シ及覆布綱ノ掛外シ等ニハ相當ニ熟練ヲ要スルヲ以テ鐵道ニ於テ之ヲ爲スコトトシ其ノ作業ハ馬車類積卸作業ニ支障ヲ及ボサザル限リ專ラ縱**ホーム**ヲ使用セシメタルモ特ニ梅小路驛ニ於テハ宮内省ノ諒解ヲ得同驛設備ノ**オーバーヘツドクレーン**ヲ使用シ一部ノ積卸作業ヲ爲サシメタリ之等積卸作業ニ當リテハ最モ愼重ヲ旨トシ運轉中ニ於ケル動搖等ニ基ク車體外部ノ塗飾ノ磨擦損傷ヲ處レ使用覆布及綱ハ新製品ヲ避ケ相當使ヒ込ミタルモノノ内柔軟ニシテ破損竝雨漏ノ處レナキモノヲ豫メ準備シ使用セシメタル外車臺頂部ニ於ケル飾燈器ノ露出セル部分ニ對シテハ覆布ヲシテ之ニ觸レシメザル樣徐々ニ掛外シヲ爲ス等取扱上細心ノ注意ヲ拂ハシメ且輸送途中ニ對シテモ關係者ヲ添乘セシメ之ガ護衛ニ任ゼシメタリ

(三)　實績

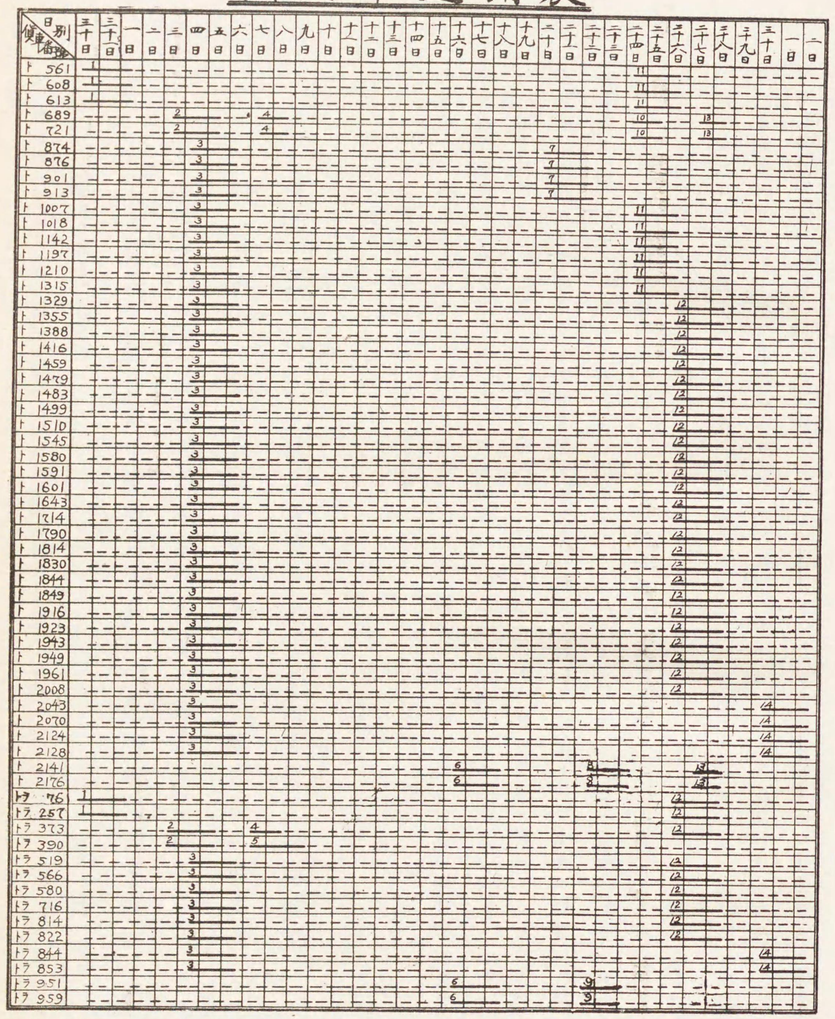
宮内省ヨリノ申出ニ依リ輸送車數其他ニ一部ノ變更ヲ見タル外孰モ計畫通無事輸送ヲ終了セリ

第二項　宮家及諸官廳竝參列諸員用自動車

(一)　輸送計畫

諸官衙及新聞通信社關係竝一般參列者ノ携行使用スル自動車數ハ近時我國ニ於ケル自動車界ノ急激ナル發展ノ跡ニ鑑ミ相當多數ニ上ル豫定ニテ而カモ之ガ輸送ハ他ノ關係貨物輸送期日ト勢ヒ競合スル處レアルヲ以テ携行者ノ利便ト鐵道自營上豫メ之ガ輸送上適當ナル施設ヲ講ジ置ク必要ヲ認メ第一段トシテ比較的集團的輸送ヲ爲スベキ在京各官公衙ニ對シ昭和三年七月以來數次ノ照會ヲ發スルト共ニ各官廳ノ關係準備ノ進捗ヲ俟テ更ニ關係者ヲシテ各官公衙ニ出頭セシメ希望事項ノ打合ヲ爲サシムル等具體的計畫樹立ニ努メ各宮家託送自動車ニ就テハ宮内省ノ都合ニ依リ之ヲ大禮使託送自動車中ニ含メズ別途各宮

無蓋車運用表



備考　1. 本表ノ使車ハ大禮使託送自動車輸送計畫表ニ依ル自動車積ニ專用スルモノハ使用スヘカラス
2. 本表ノ使車ハ大禮使託送自動車輸送計畫ニ對スル輸送終了スル迄一般使物積
3. 實線ハ使用　点線ハ遊泊ヲ　實線上ノ數字ハ大禮使託送自動車輸送計畫ノ輸送番號ヲ示ス

家直接託送トシテ取計ハレタキ希望ナリシモ主馬寮ト打合セ往路輸送ニ限リ主馬寮ニテ便宜上之ヲ取纏メ鐵道ニ申出ズルコトトシ復路輸送ニ對シテハ京都ニ於テ各宮家ヨリ直接鐵道ニ申込ムコトトシタリ

而シテ之ガ積卸作業ハ總テ託送者ノ負擔ニ屬スル關係上、積付其ノ他ニ就テハ多大ノ手數ト熟練トヲ要シ且計畫的作業ノ遂行上短時間内ニ完全ニ多數ノ積卸作業ヲ終了セザレバ累ヲ一般ニ及ボス懸念アルヲ以テ特ニ汐留及品川驛合同運送店ヲシテ比較的低廉ナル料金ヲ以テ一切ノ作業ヲ請負ハシムルト共ニ更ニ希望ノ向ニ對シテハ齒止メ覆布下等附屬品ノ手配ヲ爲サシメタル外梅小路驛合同運送店ト連絡ヲ圖リ復路輸送ニ對スル附屬用具ノ保管其他一切鐵道ト協力シ統一的作業ニ當ラシムル樣協定ヲ遂ゲ次イデ昭和三年十月十九日告示第二三〇號ヲ以テ本自動車ニ對シ所定ノ割增運賃ヲ徵セザルコトニ決定シタルヲ以テ全國參列者ニ對シ以上ノ諸點ト共ニ輸送上ノ諸注意ヲ喚起シ置ク必要アルヲ認メ上述ノ如ク別途打合ヲ爲セル在京官公衙關係ヲ除キ各宮家ヲ始メ全參列者ニ對シ左ノ如キ自動車輸送案内書ヲ發送シ之ニ添付シアル自動車輸送申込書ニ依リ之ヲ取扱ハシムルコトトセリ

肅啓　時下秋爽の候に御座候處愈々御清穆の段慶賀至極に奉存候今般御大禮諸儀に御參列の際京都に於て御使用の自動車を鐵道輸送相成候場合は左記に依り御便宜を相圖り度存候に付御用の向は至急御申聞被下度此段得貴意候

敬具

昭和三年十月　日

鐵道省運輸局長

覽　正太郎

殿

御案内

一、自動車の運賃

十一月一日より同月十五日迄の間に京都（著驛梅小路、二條、向日町）に送らるゝ自動車
十一月十五日より同月三十日迄の間に京都（發驛梅小路、二條、向日町）より送り返さるゝ自動車
の豫め輸送申込をせられたものに對しては容積による割增運賃を戴かない事に致します
割增運賃を戴かない自動車一臺片道の鐵道運賃は次の通りで御座います

東京（汐留驛）	京都（梅小路驛）間	六十二圓四十錢
横濱（東横濱驛）	〃	五十九圓六十錢
仙臺	〃	八十九圓六十錢
金澤	〃	三十二圓八十錢
名古屋	〃	二十七圓二十錢
岡山	〃	三十四圓八十錢
博多	〃	七十六圓八十錢
熊本	〃	八十七圓二十錢

特別大形の自動車であるために容積十五噸の貨車を御使用になる場合は前記の運賃より約九割增となります

二、輸送列車

東京より輸送せらるゝ自動車及京都より各地に輸送せらるゝ自動車が多數ありますので御要求の日時に輸送することが困難な場合がある事と豫想致しまして平素の貨物列車で輸送しきれない場合には東京京都間に臨時貨物列車を運轉し得る樣準備致して居りますが何分多數の事で御座いますから御申込の時日に多少の變更をお願に上る事があるかも知れません尙東京京都間の輸送時間は積込及取卸時間を含めて一日半乃至二日間を要するものと御承知置願ひます

三、積込及取卸

東京よりの自動車は多數で驛構內も混雜致しますし各自で積込取卸をなさる事も御面倒であるために積込及取卸作業を運送店に御依頼になる方が多數であらうと考へまして汐留及品川驛の

合同運送店に對して齒止の製作及取付、雨覆及網掛等の作業を成る可く低廉なる料金で御取扱を致す樣交涉して御座います

四、輸送に必要なる御準備

自動車は無蓋車（屋根のない貨車）で輸送致します關係で鐵道で設備して居ります貨車用の雨覆を掛けます、雨覆は厚い麻布に油を塗つて固めたものであるために自動車に直接觸れしめますと自動車の塗部を剝がす處がありますから自動車に布製の覆ひを準備して戴きたい勿論古毛布の類でも古幕の樣なものでも差支へ御座いません其の外に運轉中車の中で轉々する事を防ぐ爲めに車輪に齒止めを致すことが必要であります齒止めは自動車一輛に付大體四個で充分で御座います

五、發著驛の選定

東京では汐留驛京都では梅小路驛が混雜致しますので東京では品川驛京都では二條、丹波口、向日町驛等に發著せしむる事を御願ひ致す場合もあらうと考へます豫め御含み置きを願ひます

六、輸送用貨車

大抵の乘用自動車は小形貨車で運送し得るのでありますが特に長大の自動車は小形貨車では積卸に非常に困難であるばかりでなく積卸の際に自動車を破損せしむる處が御座いますから長さ十七尺以上の自動車は大形貨車に御積みになる事が安全で御座います

小形貨車　長十七尺九寸　幅六尺九寸　八噸扱

大形貨車　長二十六尺八寸　幅八尺一寸　十五噸扱

七、輸送の御申込

貨車及輸送列車等準備の都合が御座いますので左の用紙で左記の日限迄に御申込を願ひます尙左の用紙に依り豫め御申込のあつた自動車に限り運賃を割引致すことに手配して御座いますから御申込洩れのない樣御注意を願ひます

往路の分　十月二十日迄に發驛長に御申込を願ひます

復路の分　十一月十日迄に梅小路驛長に御申込を願ひます

切取り線

No

自動車鐵道輸送申込書（復路の分）

一、自動車の番號
二、自動車の長さ　尺
三、發　驛
四、著　驛
五、發送御希望月日及時刻　月　日　時
六、到著御希望月日及時刻　月　日　時

No

昭和三年十一月　日

御氏名

No

切取り線

自動車鐵道輸送申込書（往路の分）

一、自動車の番號　　號
二、自動車の長さ　　尺　寸
三、發　驛　　日　時
四、著　驛　　日　時
五、發送御希望月日及時刻　　月　日　時
六、到著御希望月日及時刻　　月　日　時

昭和三年十月　日

御氏名

以上計畫ニ對スル諸準備ノ進捗ヲ俟テ十月二十三日直接關係者タル東京名古屋大阪鐵道局運輸課配車掛長ヲ本省ニ招集シ大禮關係貨物輸送打合會議ヲ開キ自動車輸送方ニ就テモ之ヲ附議シ之ニ依テ往路輸

(往路)

各宮家託送自動車輸送計畫表

輸送番號	御使用ニナル宮家	發 驛	發 持込 月日	發 持込 時刻	發 發送 月日	發 發送 時刻	着 驛	着 到着 月日	着 到着 時刻	着 引取 月日	着 引取 時刻	自動車輛數	所要車	輸送列車	記事
1	賀陽宮	品川	11.2	P3.00	11.2	P11.25	梅小路	11.3	P11.55	11.4	A7.00	1	ト1	品川 69粁 梅小路	
2	閑院宮	〃	11.3	A8.00	11.3	A11.50	〃	11.4	A6.50	11.4	A8.00	2	ト1 ト1	品川 95粁 沼津 96粁 稲沢 89粁 梅小路	
3	梨本宮	〃	11.3	P3.00	11.3	P11.25	〃	11.4	P11.55	11.5	A7.00	1	ト1	品川 69粁 梅小路	
4	朝香宮	〃	11.3	P3.00	11.3	P11.25	〃	11.4	P11.55	11.5	A7.00	1	トラ1	品川 69粁 梅小路	
5	李王家	〃	11.3	P3.00	11.3	P11.25	〃	11.4	P11.55	11.5	A7.00	1	トラ1	品川 69粁 梅小路	
6	高松宮	汐留	11.4	A11.00	11.4	P3.10	〃	11.5	P3.05	11.5	P3.30	2	ト2	汐留 361粁 品川 67粁 梅小路	
7	伏見宮	〃	11.4	A11.00	11.4	P3.10	〃	11.5	P3.05	11.5	P3.30	1	ト1	汐留 361粁 品川 67粁 梅小路	
8	〃	品川	11.5	正午	11.5	P4.00	〃	11.6	P3.05	11.6	P3.30	2	ト2	品川 67粁 梅小路	
9	秩父宮	〃	11.5	P3.00	11.5	P11.25	〃	11.6	P11.55	11.7	A7.00	3	ト2 トラ1	品川 69粁 梅小路	
10	久邇宮	〃	11.2	P3.00	11.2	P11.25	〃	11.3	P11.55	11.4	A1.00	2	ト2	品川 69粁 梅小路	
11	〃	〃	11.5	P3.00	11.5	P11.25	〃	11.6	P11.55	11.7	A7.00	1	ト1	品川 69粁 梅小路	
12	東久邇宮	汐留	11.4	A8.00	11.4	P3.10	〃	11.5	P3.05	11.5	P3.30	1	ト1	汐留 361粁 67粁 梅小路	

備考 1. 齒止ハ各宮家ニ於テ準備ス
2. 覆布及綱ハ古キモノノ内ヨリ柔軟ニシテ且破損セザルモノヲ選定使用スベシ

No

五、發送御希望月日及時刻 月 日 時
六、到著御希望月日及時刻 月 日 時

昭和三年十月 日

御氏名

以上計畫ニ對スル諸準備ノ進捗ヲ俟テ十月二十三日直接關係者タル東京、名古屋、大阪鐵道局運輸課配車掛長ヲ本省ニ招集シ大禮關係貨物輸送打合會議ヲ開キ自動車輸送方ニ就テモ之ヲ附議シ之ニ依テ往路輸

(復路)

各宮家託送自動車輸送計畫表

輸送番號	御使用ニナル宮家	發 發驛	發 持込 月日	發 持込 時刻	發 發送 月日	發 發送 時刻	着 着驛	着 到着 月日	着 到着 時刻	着 引取 月日	着 引取 時刻	自動車輛數	所要車	輸送列車	記事
1	伏見宮	梅小路	11.18	A5.00	11.18	A8.20	品川	11.19	A3.05	11.19	A11.00	1	ト1	梅小路 64k 品川	
2	久通宮	〃	11.18	P3.00	11.19	A4.52	〃	11.20	A3.05	11.20	A8.00	1	ト1	梅小路 52k 品川	
3	伏見宮	〃	11.19	正午	11.19	P4.40	〃	11.20	P3.05	11.21	A8.00	2	ト2	梅小路 66k 品川	
4	李王家	〃	11.19	P3.00	11.20	A3.06	汐留	11.20	P11.58	11.21	A8.00	1	トラ1	梅小路 56k 汐留	
5	高松宮	〃	11.20	P3.00	11.20	P8.50	品川	11.22	A3.40	11.22	A8.00	2	ト2	梅小路 9.44 米原 980k 稲沢 962k 沼津 958k 品川	
6	梨本宮	〃	11.23	P3.00	11.24	A3.06	汐留	11.24	P11.58	11.25	A8.00	1	ト1	梅小路 56k 汐留	
7	秩父宮	〃	11.25	P3.00	11.26	A4.52	品川	11.27	A3.05	11.27	A8.00	1	トラ1	梅小路 52k 品川	
8	閑院宮	〃	11.25	P3.00	11.26	A4.52	〃	11.27	A3.05	11.27	A8.00	2	ト1 トラ1	梅小路 52k 品川	
9	朝香宮	〃	11.26	P3.00	11.27	A4.52	〃	11.28	A3.05	11.28	A8.00	1	トラ1	梅小路 52k 品川	
10	秩父宮	〃	11.27	正午	11.27	P4.40	〃	11.28	P3.05	11.29	A8.00	2	ト2	梅小路 66k 品川	
11	久通宮	〃	11.27	正午	11.27	P4.40	〃	11.28	P3.05	11.29	A8.00	2	ト2	梅小路 66k 品川	
12	賀陽宮	〃	11.25	P5.00	11.26	A4.52	〃	11.27	A3.05	11.27	A8.00	1	ト1	梅小路 52k 品川	
13	東久通宮	〃	11.26	P1.30	11.27	A3.06	汐留	11.27	P11.58	11.28	A8.00	1	ト1	梅小路 56k 汐留	

備考 1. 齒止ハ各宮家ニ於テ準備ス

2. 覆布及綱ハ古キモノノ内ヨリ柔軟ニシテ破損セザルモノヲ選定使用スベシ

送ノ計畫ヲ決定シタルモ尙復路ニ對シテハ當初ヨリ定メ置キ難キ事情アリシヲ以テ京都出張所ニ於テ大阪鐵道局ト協力之ガ計畫ニ當リ十一月十五日同出張所ニ於テ關係鐵道局出張員ト合議之ヲ決定シタリ

各宮家託送自動車輸送計畫　（昭和三年十月二十九日公報通報）

（別表ノ通）

各官公衙新聞社通信社及大禮參列者託送自動車輸送計畫

（昭和三年十月二十九日公報通報）

（往路）

（イ）輸送列車

十一月一日

輸送番號	月日	列車
一	十一月一日	品川ヨリ九五三レ、沼津ヨリ九六七レ稻澤ヨリ八九レ
二	〃 二日	同
三	〃 三日	同
四	〃 四日	同
五	〃 〃	汐留三六一レ品川ヨリ六七レ
六	〃 〃	汐留二九一レ品川ヨリ七七レ稻澤ヨリ九八五レ米原ヨリ九七五レ
七	〃 五日	品川ヨリ九五三レ沼津ヨリ九六七レ稻澤ヨリ八九レ
八	〃 六日	品川ヨリ六一レ沼津ヨリ六三レ
九	〃 七日	品川ヨリ七七レ稻澤九八五レ米原ヨリ九七五レ
一〇	〃 〃	品川ヨリ六九レ

※九五三レ※九六七レ八九レヲ接續シ十一月一日ヨリ十一月五日迄毎日運轉スベシ

（ロ）輸送列車ノ組成

輸送番號	組成順序（前部ヨリ）
一	自動車積車六輛位梅小路以遠行一般貨車
二	自動車積車十五輛位梅小路以遠行一般貨車
三	自動車積車十五輛位梅小路以遠行一般貨車
四	自動車積車十八輛位梅小路以遠行一般貨車儀仗兵二十八輛客車ヲ後部トス
五	儀仗兵三輛品川連結自動車積車五十輛位、特小代用
六	全部自動車積車ニテ組成
七	同
八	自動車積車十六輛位平素ノ組成
九	自動車積車二十三輛位平素ノ組成
一〇	自動車積車平素ノ組成

自動車積車ノ連結車數ヲ列車出發ノ都度東京鐵道局運輸課ヨリ大阪鐵道局運輸課ニ電報スベシ

（復路）

（イ）輸送列車

輸送番號	月日	列車
一	十一月十五日	梅小路ヨリ六四レ
二	〃　十七日	梅小路ヨリ六八レ
三	〃　十八日	梅小路ヨリ六六レ、汐留迄延長運轉

四	〃　十九日	梅小路ヨリ五六レ
五	〃　〃	梅小路ヨリ八二レ、米原ヨリ六四レ
六	〃　〃	梅小路ヨリ六六レ、汐留迄延長運轉
七	〃　〃	梅小路ヨリ九七レ、米原ヨリ九八〇レ、稲澤ヨリ九六二レ、沼津ヨリ九五八レ、汐留迄延長運轉
八	〃　二十日	梅小路ヨリ六四レ
九	〃　〃	梅小路ヨリ六六レ
一〇	〃　〃	梅小路ヨリ九七四レ、米原ヨリ九八〇レ、稲澤ヨリ九六二レ、沼津ヨリ九五八レ、汐留迄延長運轉
一一	〃　廿一日	梅小路ヨリ五六レ
一二	〃　廿二日	梅小路ヨリ五六レ
一三ノ一	〃　〃	梅小路ヨリ六六レ
一三ノ二	〃　〃	梅小路ヨリ六六レ、品川ヨリ五九三レ、大宮ヨリ一五五レ
一四	〃　〃	梅小路ヨリ六八レ
一五	〃　廿三日	梅小路ヨリ五六レ
一六	〃　〃	梅小路ヨリ六四レ
一七	〃　廿二日	宮川ヨリ二五二レ、龜山ヨリ一五二レ、稲澤ヨリ七四レ
一八	〃　廿四日	梅小路ヨリ五六レ
一九	〃　廿五日	梅小路ヨリ六四レ
二〇	〃　廿六日	梅小路ヨリ五六レ
二一	〃　〃	梅小路ヨリ六六レ、沼津ヨリ九五六レ
二二	〃　〃	梅小路ヨリ九七四レ、米原ヨリ九八〇レ、稲澤ヨリ九六二レ、沼津ヨリ九五八レ
二三	〃　廿七日	梅小路ヨリ五六レ
二四	〃　〃	梅小路ヨリ八六レ、稲澤ヨリ七八レ、沼津ヨリ九五二レ

二五	十一月廿八日	梅小路ヨリ五六レ
二六	〃　〃	梅小路ヨリ六六レ
二七	〃　〃	梅小路ヨリ六六レ、山北ヨリ六五六レ、大船ヨリ五五一レ

※九七四レ、※九八〇レ、※九六二レ、※九五八レヲ接續シ梅小路發十一月十九日、二十日及二十六日ノ三日間運轉スベシ
東局ハ十一月十九日、二十日ノ兩日六六レヲ十一月二十一、二十二日ノ兩日※九五八レヲ何レモ品川汐留間延長運轉ヲ爲スベシ

（ロ）輸送列車ノ組成

輸送番號	組成順序（前部ヨリ）
一	自動車積車平素ノ組成
二	同
三	横須賀著自動車（六輛位）、汐留著自動車（十九輛位）、汐留著自動車積車（四輛位）平素ノ組成
四	自動車積車平素ノ組成
五	米原以遠行一般貨車、汐留著自動車積車（十三輛位）、汐留著編成**ワフ**、品川解放一般貨車
六	汐留著自動車積車（十六輛位）、汐留著編成**ワフ**、品川著自動車積車（六輛位）、品川解放一般貨車
七	汐留著自動車積車（十六輛位）、汐留著編成**ワフ**、品川解放一般貨車、品川著自動車積車
八	品川解放一般貨車、品川著自動車積車
九	同　同（十一輛位）
一〇	汐留著**ト**積自動車（二十一輛位）、同上**トラ**積自動車（一輛位）、品川著自動車積車（十六輛位）
一一	自動車積車（十二輛位）平素ノ組成
一二	自動車積車平素ノ組成
一三ノ一	品川解放一般貨車、品川著自動車積車（四輛位）
一三ノ二	自動車積車平素ノ組成
一四	同　上
一五	同　上
一六	同　上
一七	自動車積車ハ稻澤迄平素ノ組成、稻澤ヨリ高島解放急送品汐留著一般貨車、汐留著編成**ワフ**、品川著自動車積車（二輛）、品川解放代用車
一八	自動車積車（五輛位）平素ノ組成
一九	自動車積車（大禮使託送ノ分九輛ヲ後部寄ニ）ハ代用車ノ直前ニ連結
二〇	自動車積車平素ノ組成
二一	自動車ハ儀仗兵輸送車ノ直前ニ連結
二二	品川解放一般貨車、品川著自動車積車（五輛位）、大禮使託送品川著自動車積車（**チキ**積ヲ後部寄リニ）
二三	自動車積車ハ大禮使託送儀裝馬車積車ノ直前ニ連結
二四	品川解放一般貨車、品川著自動車積車（十五輛位）、儀仗兵輸送車
二五	自動車積車平素ノ組成
二六	同　上
二七	自動車積車、品川解放一般貨車

自動車積車ノ連結車數ヲ列車出發ノ都度大阪鐵道局運輸課ヨリ東京及名古屋鐵道局運輸課ニ電報スベシ

（ハ）輸送番號三ノ內汐留到著車（十九輛位）ハ荷卸ノ上、梅小路宛左記列車ニテ廻送スベシ

汐留品川間便**レ**品川ヨリ十一月二十日七一**レ**稻澤ヨリ八五**レ**

（ニ）前記ノ外名門局其ノ他著自動車ニ對シテハ大局ニ於テ關係局ト打合セノ上夫々輸送方手配スベシ

(二)　貨車及貨車附屬品

本自動車輸送用貨車ハ其ノ數多數ニ上リ且集團的輸送ヲナス爲之ニ對シ運轉保安上相當ノ考慮ヲ拂フ必要アルモ當時無蓋貨車ニ對スル空氣制動箱取付ハ未ダ完カラザルモノアリシヲ以テ不取敢昭和三年九月十三日工作局長ニ宛一部無蓋貨車ニ對シ之ガ取付ケ方ヲ通知シ之ヲ實情ニ從ヒ適當ニ按配使用スルコトニ依テ運轉上ノ安全ヲ期スルコトトシ其ノ散逸ヲ防グ運用方ヲ別表ノ如ク指定シタリ

而シテ以上ノ外所要車トシテ三枚側總開キ(ト一號形式貨車ヲ多數準備スル必要アルヲ以テ豫メ東京鐵道局ニ對シ之ガ集中準備方ヲ命ジ十月々初ヨリ所要地帶タル新橋所管ニ於ケル現在數ヲ注視シ更ニ十月下旬頭初ヨリ之ガ所外ヘノ使用竝排出ヲ禁ジ以テ其ノ散逸ヲ防止シ十月二十九日以降十一月二日迄全ク其ノ使用ヲ禁止シテ必要車數ヲ品川及東横濱ニ集中留置ノ手配ヲ取リ漸次往路輸送所要車ニ充當セシメタリ、其ノ他各地方發送ノ分ニ對シテハ車數ノ僅少ナル爲特別ノ手配ヲ爲サズ隨時發送セシメタルモ復路輸送ニ就テハ大阪鐵道局ヲシテ往路到著車ヲ他ニ流動セシメザル樣努メテ適當箇所ニ留置セシメ往路輸送方ニ準ジテ之ヲ使用セシメタリ又覆布網等附屬品ニ就テハ新製品ヲ避ケ特ニ東京方面發送ノ分ニ對シテハ十月中旬ノ交ヨリ東京鐵道局ヲシテ品質良好柔軟ナルモノヲ選擇準備セシメ之ヲ往復路共充當シ自動車車體ノ擦損事故ヲ防止スルコトニ努メタリ

無蓋車運用表

番號	貨車						無蓋車					
	518	535	537	549	565	569	577	593	611	618	626	649	681	694
	700	710	736	739	746	774	780	786	817	835	856	863	899	900
	912	927	928	939	957	1015	1040	1080	1106	1145	1154	1163	1191	1224
	1251	1258	1269	1279	1298	1314	1357	1380	1408	1494	1507	1517	1533	1544
	1546	1549	1560	1572	1595	1667	1705	1708	1720	1739	1750	1751	1757	1806
	1822	1825	1837	1843	1848	1849	1856	1868	1918	1947	1954	1969	1988	2003
	2034	2060	2068	2071	2079	2081	2094	2099	2105	2131	2162	2184	2185	2197
	2202	2204	2211	2421	2441	2560								

備考　1.　本表ノ貨車ハ各宮家託送ノ自動車及大禮ノタメ東京ヨリ京都ニ輸送スル各官廳、新聞社、通信社、大禮參列者ノ自動車運送ニ使用スベシ

2.　本表ノ貨車ニテ不足スル場合ハト一號形式ノ無蓋車ヲ一般運用車中ヨリ選定使用スベシ、但シ特ニ長大ナル自動車ニ對シテハトラ一號形式ノ無蓋車ヲ使用スベシ

3.　一個列車ニ多數自動車ノミヲ連結スル場合ハ本表ノ貨車ヲ適當數混入使用スベシ

4.　本表ノ貨車ハ大禮用自動車ノ輸送ガ終了スル迄一般貨物積ニ使用スベカラズ但シ自動車ノ輸送ニ差支ナキ期間ニ於テ散逸スルコトヲ防ガ方法ニ依リ一般貨物積ニ使用スルコトハ差支ヘナシ

(三)　發著驛ニ於ケル取扱方

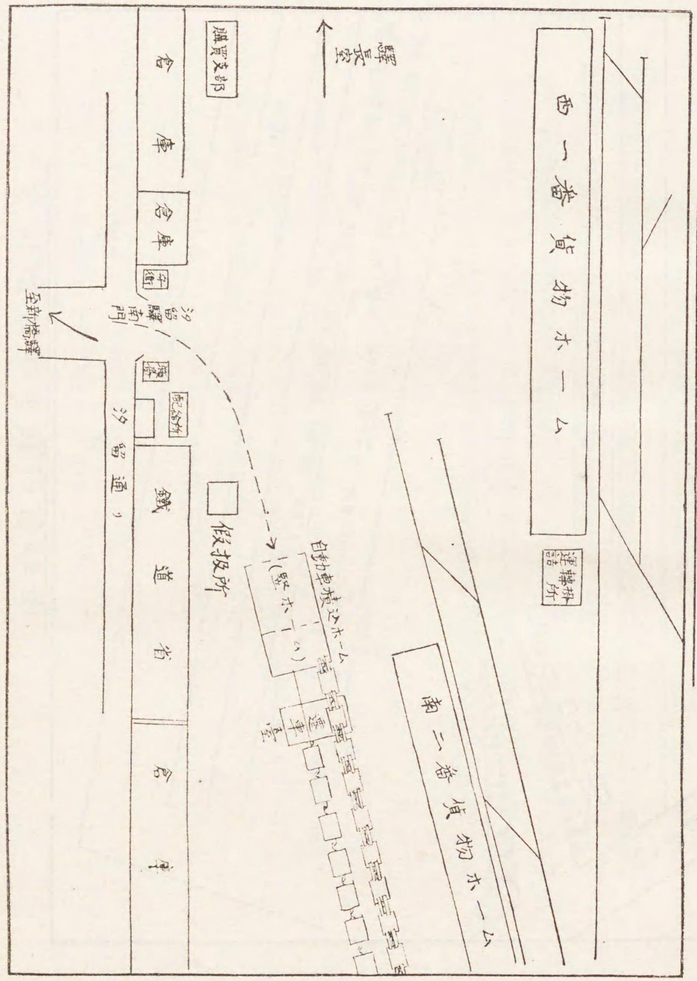
汐留、品川驛

東京方面ヨリ發送スル自動車ニ對シテハ其ノ數量ノ多數ニ應ズル爲取扱驛トシテ汐留品川兩驛ノ外豫備驛トシテ新宿驛實際ハ使用セズ)ヲ指定シ之等各驛ニ對シ積卸場其ノ他種々ノ施設ヲ爲シタル一面積卸作業ノ試驗ヲ行ヒ其ノ取扱方ヲ考究スルト共ニ輸送申込者ニ對シ別紙ノ如キ通知狀ヲ發シ一般的注意ヲ促スト共ニ取扱驛ニ於テハ受付位置ヲ明示シテ搬入ニ便セシメ自動車積込場附近適當箇所ニ專用假扱所ヲ設置シ受付案內ヨリ積込監視發送事務其ノ他縱積ニ對シテハ褄板取扱檢車手及技工三名宛五組及各一

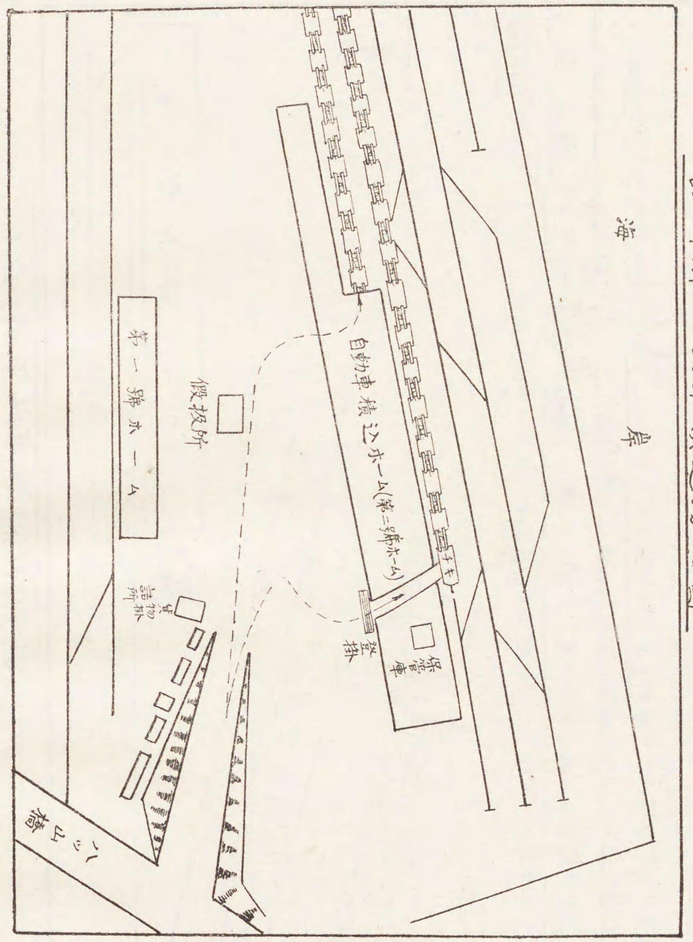
組ニ對シ荷扱手一名宛補助等各事務ノ分擔ヲ定メ、別紙ノ如キ自動車輸送傳票ヲ使用シテ取扱方ノ錯誤ヲ防止スルコトトセリ

而シテ積込作業ハ**トラ**積ニ限リ横積トシ其ノ他ハ努メテ縦積トナシ縦**ホーム**ヲ使用スルノ外作業ノ敏速ヲ計ル爲**チキ**一車ヲ準備シ之ヲ利用スルコトニ依テ縦**ホーム**同様ノ效果ヲ收メシメ別紙略圖ノ要領ニ依リ作業セシメタリ又本作業ハ託送者ノ負擔ニシテ其ノ大部分ハ請負業者汐留品川合同運送店ニ於テ之ヲ爲スモノナルモ特ニ荷扱手一組四名五組ヲ出動シ積付其ノ他整備ノ完全ト作業ノ延滯防止ニ付看視セシメタリ

汐留驛自動車積込場略圖



品川驛自動車積込場略圖



大禮御參列用自動車輸送方に關しては過般來書面又は電話を以て御打合致し候結果別紙自動車輸送傳票所載の通決定致し候條左記に依り御手配被下度得貴意候

追て發送驛及發著日時等は可及的御希望に副ひ度種々考慮致候處輸送列車及發著驛作業の關係等にて餘儀なく一部變更を願ひたる向も有之候間此の點特に御了承相成度尚復路輸送計畫の必要上大阪鐵道局にては之が材料の御提出を乞ふ爲め自動車引渡の際印刷物を御交付する筈に付豫め御了知相成度候

東京鐵道局長　久保田敬一

記

一、自動車輸送傳票ハ一臺ニ付一葉ヲ使用シ太線內ニ所定事項ヲ洩レナク御記入ノ上持込ノ際必ズ運轉手ニ携帶セシメラレタシ但シ官廳名及託送者氏名欄ハ左記ニ依リ御記入下サイ

(イ)官廳又ハ新聞社通信社ニシテ運送業者ニ代理託送セラルヽ場合

、、省、、局、部名（、、社名）代理、、運送株式會社又ハ、、運送店

(ロ)官廳又ハ新聞社直接託送セラルヽ場合

、、省、、局、部名（、、社名）何ノ誰

(ハ)個人ニシテ運送業者ニ代理託送セラルヽ場合

何ノ誰代理、、運送株式會社又ハ、、運送店

(ニ)個人ニシテ直接託送セラル、場合

何ノ誰

二、自動車ヲ御持込ノ際ハ「持込驛及持込日時」(傳票記載ノ通)ヲ間違ナキ樣願マス萬一之ニ相違ガアリマスト一般ノ輸送計畫ニ齟齬ヲ來タシ多數ノ方ニ御迷惑ヲ懸クル處ガアリマスカラ特ニ御注意願マス

三、自動車ノ積込場所ハ別紙略圖ノ通デス

四、自動車ノ長サ十七尺ヲ超ユルモノハ大形貨車ヲ充テル豫定デアリマシタガ特別ノ方法ヲ講ジテ十七尺五寸(十七尺五寸ヲ超ユルモノハ大形貨車)迄ノモノハ小形貨車デ輸送スルコトニ致シマシタ

五、到著驛ニ於テ自動車ノ取卸ヲ開始スル日時ハ傳票面記載ノ通デスカラ當該時刻ニハ必ズ運轉手ヲ御差遣下サイ

	自動車輸送傳票(甲)	自動車輸送傳票(乙)	自動車輸送傳票(丙)
官廳名及託送者氏名			
自動車番號及長サ	長サ　尺　寸	長サ　尺　寸	長サ　尺　寸
持込驛			
持込日時	時迄ニ持込ノコト	時迄ニ持込ノコト	時迄ニ持込ノコト
發送日時	驛發　日　時　分	驛發　日　時　分	驛發　日　時　分
到著日時	驛著　日　時　分	驛著　日　時　分	驛著　日　時　分
貨車番號	ト第　號	ト第　號	ト第　號
覆布番號	綱本數	綱本數	綱本數

(切取線)

◎注意
梅小路驛電話番號下京五八〇、二三番
受取時刻ハ本票ノ到著時刻ヲ御示ノ上著驛ヘ御申出下サイ

到著驛取卸開始時刻　日　時　分

備考
1. 自動車ハ本票記載ノ持込驛日時ニ相違ナク御持込下サイ
2. 積込場所ハ別紙添付ノ圖面ノ通デス
3. 本票各片ノ太線内ニ所定事項ヲ御記入ノ上其ノ儘(切離サズ)御持込ノ際御携帶ヲ願ヒマス
4. 驛デハ他ノ自動車ト區別スル爲御持込ニ當リ本票ヲ拜見ノ上積込場所ノ御案内ヲ致シマス
5. 貨車ニ積込終了後驛員ガ本票ノ御渡シヲ申出デマスカラ其ノ驛員ニ御交付下サイ
6. 該驛員ハ必要事項ヲ記入ノ上本票中甲片丈御返シ致シマスカラ貨物運送状ニ之ヲ添付シテ附近ニ新設シタ假扱所ニ御提出ヲ願ヒマス
7. 假扱所デハ貨物通知書ヲ發行シテ御渡シ致シマス
8. 之デ發送ノ手續全部ガ完了シタコトニナリマスカラ其ノ通知書ヲ到著驛ニ御提出ニナルト自動車ヲ御渡シスルコトニナツテ居リマス
9. 本票ハ一臺一葉ヲ用ユルコト

梅小路驛

A　設備及取扱方

京都ニ向ケ發送セラルル自動車ハ勢ヒ梅小路驛ニ集中サルル關係上本驛ニ於ケル取扱ノ輻輳ヲ

緩和スル爲一部丹波口驛ヲシテ之ヲ援助セシムルコトトシタルモ（實際ハ使用セズ）尙梅小路驛ニ於テハ輸送期間中一定作業場ヲ專用セシメ作業ノ圓滑ヲ期スルコトトシタルガ兎角一般貨物ノ取扱ヲ阻止シ居ル際トテ特ニ之ガ選擇指定ニハ相當ノ考慮ヲ拂ヒ別紙略圖ノ如ク比較的支障少ナキ數ケ所ヲ選ビテ之ニ當ツルト共ニ自動車取扱所ヲ設置シ專任貨物掛ヲ指定シテ之ヲ取扱ハシムル外適當ニ係員ヲ配置シテ各其ノ分擔ヲ定メ積卸作業及整備ノ看視補助等ニ任ゼシメタリ

而シテ其ノ取扱方ハ相當繁雜困難ヲ招キ易キト且引渡ノ際返路輸送ニ對スル連絡ヲ可及的講ジ置ク必要アルヲ以テ合同運送店ト協力シ自動車引渡ノ際引取ノ爲出頭セル者ニ對シ返路輸送ニ關スル左記樣式ノ注意書ヲ交附シ之ニ對スル回答アリタル場合ハ之ニ基キ運輸課派出所ニ於テ輸送計畫ヲ樹テ荷主又ハ代理者ニ別紙ノ如キ返路自動車運送通知ヲ發シ之ニ添付ノ自動車輸送傳票ニ依リ正確ナル輸送ヲ果スコトトシタリ

No.

（控用）（荷主ヨリノ回答ヲ本片ニ貼付シ運輸課派出ニ提出ノコト）

○　○

一、到著　月　日第　列車

二、發驛名　貨車種類別輛數

三、荷主氏名

（取扱運送店名）

參考事項
（割増運賃免除ノ有無）
（割増運賃ヲ徴收セルモノニ對シテハ通知書面ヲ積及其ノ基礎其ノ他）

No.

（荷主交付用）

自動車運送上の御注意

大阪鐵道局運輸課長

遠藤正臣

今回は京都市内に自動車多數入込める關係上、之が返送の場合の鐵道輸送は非常に混雜致しますから、豫め輸送上の計畫を定め、極力圓滑なる輸送を遂行したいと考へて居ります

就ては御多忙中洵に御手數ですが、左記用紙に相當御記入（返送せざる御見込なるときは其の旨）の上、梅小路驛長迄至急御差出を願ひます

尙本輸送上左記の點に特に御配慮を願ひます

一、貴方よりの御通知に基き積込月日、時刻、取卸月日、時刻等

を豫定し當方より御通知致しますから、必ず指定時刻に積卸をなし得る樣御手配を願ひます。積込指定時刻迄に御持込なきときは、順序を變更する關係上、非常に遲延することがあります から御承知を願ひます。尚右指定が御氣に召さぬ場合は、直に京都驛運輸課派出員又は梅小路驛長迄御打合を願ひます

二、運輸局より自動車鐵道運送申込書の送付を受けて居られる方は左記御通知に、右申込書の復路の分を御添付願ひます

三、前號自動車鐵道運送申込書の御提出又は本書に依り御送付を受くる回答等は輸送計畫上の材料で、此の外に託送手續として貨物運送狀（用紙は驛に備付あり）の御提出を要しますから、可成前廣に之を積出驛に御差出を願ひます

四、積卸作業、齒止の準備及付外し、覆布、綱の掛外し等は總て貴方の御負擔ですから御承知を願ひます

No.

自動車運送に關する回答

（※印を附せる事項は運輸局より交付せる自動車鐵道運送申込書復路の分を同時に御差出の場合は本書に御記入に及びませぬ）

※一、自動車の番號（番號の下の括弧内には自動車の長さを記入されたし）　號（尺寸）　號（尺寸）　號（尺寸）

※二、發驛名（積出驛名）　號（尺寸）　號（尺寸）　號（尺寸）

※三、着驛名（宛先驛名）

※四、積出御希望月日時刻　月　日午　時

※五、到着御希望月日時刻　月　日午　時

六、運轉手其他本輸送に關し打合をなすべき人の宿所氏名

七、取扱運送店名

昭和三年十一月　日

御氏名

梅小路驛長宛

No.　　No.

（控　用）

一、本書發送月日　　月　　日

二、宛先人住所氏名

三、所有者氏名

四、發着驛及輛數　　發驛　　着驛　　車種別　輛數

五、持　込　日　時　　月　　日午　　時　　分

六、到　着　日　時　　月　　日午　　時　　分

七、輸送列車其他

（荷主ニ通知用）

自動車運送御通知

大阪鐵道局運輸課長

遠藤正臣

昭和三年十一月　　日

殿

前略御高免被下度候　扨豫て御通知相成候　殿御所有自動車運送方に就ては左の通り取計可申候に付必ず指定月日時刻に御持込相成様御配慮相煩度　尚本件に關し變更を要する場合は直に京都驛當課派出員又は梅小路驛長に其の旨御申出相成度

右御通知旁々得貴意候

敬具

一、持込驛　　自動車輛數

二、持込日時　　月　　日午　　時　　分

三、發送日時　　月　　日午　　時　　分

四、到着日時　　月　　日午　　時　　分

五、其の他

◎**御注意**　本書は左の傳票を附著せる儘積出驛に御差出下さい、積出驛に於ては

左記傳票※印欄を記入し御渡ししますから、積込場所に自動車御廻しの上、赤布腕章を付けた係員に傳票を渡し、其の係員の指示により御積込を願ひます

……殿自動車積込傳票

No.

※一、積込線名（又は場所名）※自動車輛數　輛（所要車　輛）

※二、積込月日時刻　月　日午　時　分

※三、連結豫定列車　月　日第　列車

四、貨車記號番號

五、覆布記號番號

六、綱本數

七、其の他

◎御注意　本票は積込場所に於て赤布の腕章を附せる係員に御渡し下さい

宮家及各官衙新聞社通信社竝參列員託送自動車

梅小路、山田驛到著狀況

齎驛	到齎月日	發驛	十月五日	〃 十五日	〃 十六日	〃 廿一日	〃 廿九日	十一月二日	〃 三日	〃 四日	〃 五日	〃 六日	〃 七日	〃 八日	〃 十一日	〃 十八日	〃 十九日	計
梅小路	東局	汐留	一	一	一		一				宮四五	宮三五						宮四九六
		品川						一〇	宮一三	宮一五	宮二六	宮一七	一四	三	一			宮一四五
		横濱												一				一
		東逗子								一				一				一
		横須賀						一										一
		小計						宮一一	宮一三	宮一五	宮二六	宮一七	一四	三	一			宮一八二九
	名古屋局	名古屋												二				三
		甲府												一				一
		長野							一									一
		金澤								一				一				二
		小計							一	一		一		三				六
	門司局	吳										五						五
		下關										一						一
		小倉								一								一
		博多										一						一
		枝光																一
		佐賀								一								一
		鹿兒島										一						一
		小計								二		八						一〇
	仙臺局	青森								一								一
		秋田										一						一
		新潟								一								一
		黒石																一
		小計								一		一						二
	札幌局	札幌																四
	合計		宮一	宮一	宮一	宮一	宮一	宮一二	宮一三	宮一五	宮二四	宮一六	一七	三	一	一	一	宮一二五
山田小路	品川																	五
	梅小路													二				二
	合計													二				二

備考　（宮）ト、ハ宮家託送自動車其ノ他ハ一般參列員用自動車ヲ示ス　上記ノ內**トラ**積車ハ東京鐵道局發宮家託送三車共他六車計九車ナリ

宮家及各官衙新聞社通信社竝參列員託送自動車梅小路及宮川驛發送狀況

發驛	着局	着驛	十一月十五日	十六日	十七日	十八日	十九日	二十日	廿一日	廿二日	廿三日	廿四日	廿五日	廿六日	廿七日	廿八日	廿九日	三十日	計
梅小路	東局	汐留	—	—	二	一八	一三	宮一 一一	—	五	五	宮一 五	—	三	六	二	—	—	宮二 九〇
		品川	一	—	—	宮一	宮三 二三	宮二 二八	二六	九	三	—	四	宮四 一〇	宮六 二〇	一二	四	一	宮一六 一四一
		橫須賀	—	—	—	六	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	六
		小計	一	—	二	宮一 二四	宮三 三六	宮三 三九	二六	一四	八	宮一 五	四	宮四 一三	宮六 二六	一四	四	一	宮一八 二三七
	名局	名古屋	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一
		福井	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	一	—	二
		金澤	—	—	—	一	—	一	二	—	—	—	—	—	—	—	一	—	五
		富山	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一
		長野	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一
		小計	—	—	—	二	—	二	四	—	—	—	—	—	—	—	二	—	一〇
	大局	岡山	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一
		山田	—	—	二	五	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	八
		鳥取	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		松江	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一
		小計	—	—	二	五	—	—	三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一〇
	門局	吳	—	—	—	五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	五
		山口	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一
		門司	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	一
		枝光	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	一
		博多	—	—	—	—	—	二	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	三
		佐賀	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一
		熊本	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一
		鹿兒島	—	—	—	—	一	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	二
		長崎	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	一	二
		小計	—	—	—	五	二	二	三	一	二	—	—	—	—	—	一	一	一七
	仙局	青森	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	一
		福島	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	一
		秋田	—	—	—	—	—	二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二
		新潟	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一
		黑石	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	一
		小計	—	—	—	—	—	二	一	三	—	—	—	—	—	—	—	—	六
	札局	札幌	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一
	計		一	—	四	宮一 三六	宮三 五八	宮三 四五	三八	一八	一〇	宮一 五	四	宮四 一三	宮六 二六	一四	七	二	宮一八 二八一
宮川		品川	—	—	—	—	—	—	—	三	—	—	—	—	—	—	—	—	三
		梅小路	—	—	—	—	—	—	—	四	—	—	—	—	—	—	—	—	四
		計	—	—	—	—	—	—	—	七	—	—	—	—	—	—	—	—	七

備考　(宮)トハ宮家託送自動車其ノ他ハ一般參列員用自動車ヲ示ス、上記ノ內(**トラ**)積車ハ宮家託送三車其ノ他二車ナ

梅小路驛着發一般參列員用自動車託送者別數量

局別	託送者	車數 到着	車數 發送
東局關係	樞密院	一	一
	同議員	三	三
	內閣官房	一四	一四
	印刷局	一	一
	外務省官房	一〇	九
	內務省官房	一七	一五
	復興局	三	三
	社會局	四	—
	大藏省官房	一〇	一〇
	專賣局	三	三
	營繕管財局	二	二
	海軍省官房	一五	二二
	軍令部	一	一
	橫須賀鎮守府	五	六
	司法省官房	一〇	九
	大審院檢事局其ノ他	五	五
	文部省官房	一一	一一
	直轄學校其ノ他	八	一
	農林省官房	九	九
東局關係	商工省官房	一二	一二
	特許局	一	一
	製鐵所出張所	一	一
	遞信省官房	一五	一五
	貯金局	一	一
	保險局	二	二
	鐵道省官房	一五	一三
	東京鐵道局	一	一
	貴族院	一	一
	同議員	二一	二三
	衆議院	一	二
	同議員	八	九
	朝鮮總督府出張所	二	二
	臺灣總督府出張所	五	二
	關東廳出張所	一	二
	南洋廳出張所	一	一
	警視廳	五	五
	東京府	三	三
	行政裁判所	一	一

局別	區分		
東局關係	地方長官	二	二
	新聞社及通信社	六	六
	其ノ他	一二	八
	小計	二四九	二三七
名局關係	地方長官	二	一
	直轄學校	三	一
	陸軍關係	一	一
	名古屋鐵道局	二	二
	裁判所關係	―	四
	其ノ他	―	一
	小計	八	一〇
大局關係	裁判所關係	―	三
	鐵道省及大阪鐵道局	―	七
	小計	―	一〇
門局關係	鎭守府	五	五
	地方長官	四	七
	門司鐵道局	一	一
	直轄學校	二	二
	其ノ他	一	二
	小計	一三	一七
仙局關係	地方長官	三	五
	衆議院議員	一	一
	小計	四	六
札局關係	直轄學校	一	一
合計		二七五	二八一

B　**クレーン**試用及縦**ホーム**ニ依ル積卸車數

梅小路驛新設縦**ホーム**中三號線先ニ豫テヨリ設備中ノ**オーバーヘツドクレーン**ハ大禮輸送期ニ入ルニ先テ偶々之ガ竣成ヲ見タル爲同縦**ホーム**ニ於テ積卸ス自動車ノ一部ハ希望ニ依リ右**クレーン**ヲ試用シテ積卸スルコトトシ之ニ依リタル車數及一般縦**ホーム**ニ依リ積卸セル車數次ノ如シ

取卸ノ分

日別	縦ホーム取卸 車數 中三號線	縦ホーム取卸 車數 北二、三、四號線	縦ホーム取卸 作業人員 檢車所員	縦ホーム取卸 作業人員 荷扱手	クレーン試用取扱車數
十一月四日	一五	―	一〇	一六	四
〃　五日	二六	―	一三	二四	六
〃　六日	一一	大禮使託送（一五）	二一	二五	五
〃　七日	―	―	―	―	五
〃　八日	一四	―	一六	一九	六

積込ノ分

日別	縦ホーム積込 車數 中三號線	縦ホーム積込 車數 北二、三、四號線	縦ホーム積込 作業人員 檢車所員	縦ホーム積込 作業人員 荷扱手	クレーン試用取扱車數
十一月十八日	―	―	―	―	六
〃　十九日	二六	―	二五	二七	五
〃　二十日	一八	大禮使託送（四）	二二	二二	八
〃　二十一日	―	―	―	―	五
〃　二十二日	―	―	―	―	四
〃　二十四日	―	大禮使託送（一一）	一四	一六	四
〃　二十五日	―	―	―	―	三

十一月二十六日	一九	大禮使託送(一九)	二五	三一	三
〃 二十七日	—	—	—	—	九
〃 二十八日	—	—	—	—	一〇
〃 二十九日	—	—	—	—	七
〃 三十日	—	—	—	—	一

(四) 實績

斯クテ當初ヨリ懸念サレタル自動車ノ集團輸送モ長時日ニ亙ル關係局所ノ周到ナル輸送計畫ト其ノ遂行ニ依テ些細ナル手違モ生ゼズ且一般輸送上ニ大ナル支障モナク極メテ順調ニ之ヲ終了シ幸ヒ宮家並一般託送者ノ希望ニ副フコトヲ得タリ、而シテ其ノ發著狀況其ノ他ハ別表ニ掲示セル通ニテ取扱車數ハ割增運賃ノ免除、輸送列車ノ指定等種々利便ヲ圖リタルモ尙諸種ノ事情ニ阻レテ輸送ヲ見合スルモノ等出デ旁々東京方面ヨリノ輸送車數ハ少シク最初ノ見込ニ達セザルモノアリシ一面汐留品川梅小路等ニ於ケル作業極メテ圓滑ニ推移シタル爲豫備驛トシテ準備シタル新宿、丹波口ノ兩驛ハ之ヲ利用スル迄ニ至ラザリキ其ノ輸送期日ハ早キハ十月中旬ヨリ弗々移動開始ヲ見タルガ最モ頻繁ヲ極メタルハ十一月四日前後ニシテ要スルニ十一月三日明治節ノ東京ニテ擧行サルル關係上之ガ參列ヲ濟シテ後直ニ入洛御著輦ヲ奉迎セント希望シタル結果ニ外ナラズ、亦復路鐵道輸送ノ車數ハ初メハ往路ニ比シ幾分減少ノ氣配ヲ示シ居リシモ偶々天候不良ノ關係及陸走車ノ難澁ト阪神地方ニ於ケル新規買入等トニ因リ漸次增加シ往路輸送以上ノ車數ヲ算スルニ至レリ、而シテ之ガ輸送計畫ハ匆々ノ間ノコトトテ參列員ノ旅程變更、其ノ他ノ事由ニ依リ取纏メ至難ナリシモ關係者努力ノ結果無事輸送ヲ結了セリ

第三項　其ノ他

其ノ他大禮關係用品トシテ輸送サレタルモノハ齋田關係用品、御買上品、獻上品竝饗宴用品、觀兵式式場造營材料等ニシテ取扱ニ當リ一々之ヲ識別スルハ困難ナリシモ其ノ分明セルモノヲ掲示スレバ次ノ如クニシテ其ノ輸送方ニ就テハ特ニ貨車ノ配給、輸送列車ノ選定等ニ配意シ可及的速達ヲ期スルトトモニ齋田用品、獻上品等一部小口扱貨物ニ對シテモ出來得ル限リ一車ヲ使用シ愼重安全ナル輸送ニ努メタリ

其ノ他大禮關係用品輸送數量調

發送所管	託送者	發送 月	發送 日	發驛	着驛	品名	使用車數 ワ	使用車數 ワム	使用車數 ト	使用車數 テ	使用車數 レ	使用車數 計	數量 貸切扱	數量 其ノ他	記事
東局	福島元助	七	八	新町	博多	脱穀機	—	—	—	—	—	—	— 噸	三噸	齋田用
	〃	〃	〃	〃	野洲	〃	—	—	—	—	—	—	—	三噸	〃
	東洋軒	一一	一三	品川	梅小路	食料品	一	—	—	—	—	一	八	—	大饗用
	〃	〃	一五	〃	〃	〃	—	一	—	—	—	一	一三	—	〃
	小計						一	一	—	—	—	二	二一	六噸	
名局	尾上商店	五	七	名古屋	野洲	豆粕粉碎器	—	一	—	—	—	一	—	四七八斤	齋田用
	〃	〃	二六	〃	博多	〃	一	—	—	—	—	一	—	四四九斤	〃
	國益社	八	三	大曾根	野洲	稻扱器	—	一	—	—	—	一	—	七六〇斤	〃
	藤井惣五郎	〃	一四	名古屋	〃	土臼	—	一	—	—	—	一	—	三二九斤	〃
	通運	〃	五	御油	〃	農具	一	—	—	—	—	一	—	四八〇斤	〃
	大禮使 代金子	一一	二七	名古屋	汐留	雜品	—	一	—	—	—	一	—	一噸	
	大禮使	〃	二八	〃	二條	〃	一	—	—	—	—	一	—	九一〇斤	

名古屋局	三菱電氣	自九 至一一	自一六 至二七	大曾根	梅小路	煖爐	|	|	|	|	|	|	|	三噸	
	〃	一一	一〇	〃	山田	〃	|	|	|	|	|	|	|	|	
	大禮使	自〃 至〃	自八 至一三	天龍川	澁谷	杉丸太	|	四	|	|	|	四	六〇	三六八斤	
	小計						三	八	|	|	|	一一	六〇	七噸	
大阪局	安彦運送店	八	五	梅小路	野洲	麻幕	|	|	|	|	|	|	|	三二八斤	齋田用
	〃	〃	〃	〃	博多	〃	|	|	|	|	|	|	|	三三八斤	
	〃	一〇	二八	〃	汐留	椅子其ノ他	一	|	|	|	|	一	八	|	
	〃	一〇	三〇	〃	名古屋	雜品	|	|	|	|	|	|	|	四六〇斤	
	伏見宮	一一	二一	〃	汐留	〃	|	一	|	|	|	一	一三	|	
	大禮使	〃	二九	〃	〃	〃	|	|	|	|	|	|	|	一七六斤	
	橋本	自七 至九	自二八 至七	安土	梅小路	葭	三	|	|	|	|	三	二四	一噸	御買上品
	通運	九	一七	近江八幡	〃	疊表	|	一	|	|	|	一	一三	|	〃
	合同運送店	三	三一	小野濱	博多	道路修理機	|	|	一	|	|	一	八	|	齋田用
	上組	一一	六	神戸	丹波口	バナナ	一	|	|	|	|	一	八	|	供納品
	通運	一〇	二〇	須磨	梅小路	銅火鉢其ノ他	|	|	一	|	|	一	八	|	武庫離宮ヨリ發送
	山戸酒造店	一一	一五	伊賀上野	津	清酒	|	|	|	|	|	|	|	八五八斤	賜饌用
	通運	自九 至一〇	自一一 至二二	名手	二條	藁莚	一	|	|	|	|	一	八	五噸	納入品
	合同運送店	自一〇 至一一	自三〇 至一	岡山	縣下各驛	養老杯	|	|	|	|	|	|	|	二、三一〇斤	
	糸崎運送店	一一	一〇	糸崎	丹波口	鮮魚	|	|	|	|	一	一	九	|	饗宴用品
	〃	〃	一三	〃	〃	〃	|	|	|	|	一	一	八	|	〃
	〃	〃	一四	〃	〃	〃	|	|	|	|	一	一	八	|	〃

大阪局	大藤	〃	一六	〃	汐留	清酒	|	|	|	|	|	|	|	三三四斤	赤坂御所納入品
	出石陶器組合	〃	八	八鹿	神戸	陶器	|	|	|	|	|	|	|	二、七六二斤	御買上品
	〃	〃	〃	〃	姫路	〃	|	|	|	|	|	|	|	四四六斤	〃
	合同運送店	一〇	三〇	鳥取	縣下各驛	養老杯	|	|	|	|	|	|	|	二、一七三斤	
	〃	〃	二四	松江	〃	〃	|	|	|	|	|	|	|	三六七	
	佐渡商會	六	二四	揖屋	箱崎	稻扱機	一	|	|	|	|	一	五	|	主基田用
	合同運送店	一一	三	松江	汐留	瑪瑙玉	|	|	|	|	|	|	|	三一斤	獻上品
	〃	〃	一〇	〃	出雲今市	雜品	|	|	|	|	|	|	|	三七斤	
	野田文治郎	七	一五	鴨川	博多	籾摺機	一	|	|	|	|	一	八	|	
	伊豫水引組合	九	一一	川之江	汐留	水引	|	|	|	|	|	|	|	五〇九斤	
	〃	〃	一六	〃	〃	〃	|	|	|	|	|	|	|	一、七四六斤	
	北村吉之助	三	七	松山	梅小路	青竹	|	|	一	|	|	一	八	|	
	〃	〃	九	〃	〃	〃	|	|	一	|	|	一	八	|	
	〃	〃	一三	〃	〃	〃	|	|	一	|	|	一	八	|	
	小計						八	二	五	|	三	一八	一五二	一四噸	
門司局	西條酒造組合	一一	一一	西條	汐留	清酒	|	|	|	|	|	|	|	八一〇斤	獻上品
	中村勘之助	〃	〃	己斐	〃	〃	|	|	|	|	|	|	|	一七〇斤	〃
	原田新作	〃	一〇	徳山	澁谷	〃	|	|	|	|	|	|	|	二〇〇斤	〃
	加藤辨次	〃	〃	三田尻	〃	〃	|	|	|	|	|	|	|	二二八斤	〃
	小泉米兵衛	〃	一六	己斐	汐留	〃	|	|	|	|	|	|	|	一〇六斤	〃
	福岡市長	〃	二四	博多	〃	博多織其ノ他	|	|	|	|	|	|	|	四〇〇斤	〃

門司局	佐賀縣知事	二	二二	佐賀	汐留	陶器、清酒	一	｜	｜	｜	｜	一	｜	一、五〇〇斤	獻上品
	福岡縣知事	〃	一〇	博多	梅小路	藁、莚、其ノ他	三	｜	｜	｜	｜	三	｜	三噸	〃
	〃	〃	〃	〃	〃	燒鯛其ノ他	一	｜	｜	｜	｜	一	｜	一噸	〃
	合同運送	八	二〇	熊本	博多	農具	一	｜	｜	｜	｜	一	｜	一、五〇〇斤	〃
	宮崎運送店	一一	二七	宮崎	新宿	馬	一	｜	｜	｜	｜	一	五	｜	〃
	高原運送店	〃	〃	高原	〃	〃	一	｜	｜	｜	｜	一	五	｜	〃
	薩摩製糸	七	一六	西鹿兒島	東横濱	生糸其ノ他	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	六〇〇斤	獻上羽二重原料
	内村新助	一二	一	薩摩山崎	鹿兒島	玄米	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	二四一斤	獻上品
	三泥門役場	一〇	二八	宇ノ島	博多	南瓜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	一六四斤	主基供物用
	宮内省	自九 至〃	自一五 至三〇	上有田	梅小路	陶器	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	三、三七三斤	
	〃	九	二四	三河内	〃	〃	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	一、三五七斤	
	〃	一一	一七	〃	汐留	〃	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	二四六斤	
	小計						八	｜	｜	｜	｜	八	一〇	八噸	
札幌局	茨木彌八郎	五	二	小樽	八日市	肥料(鮫粕)	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	四三〇斤	
	長沼村長	一一	九	栗山	岩見澤	鮒ススメ燒	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	七五斤	
	小計						｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	一噸	
合計							二〇	一一	五	｜	三	三九	二四三噸	三六噸	

第七節　官廳關係用品

○制限外小荷物ノ取扱

一　旅客列車ニ依ルモノ

三年八月八日宮内省主馬寮ヨリ電話ニテ神戸**ダンロツプ**會社ヨリ同寮宛御大典儀裝馬車用**タイヤ**一箇ノ斤量七八十斤ヨリ百斤内外ノモノ約二十二箇ヲ數回ニ渉リ小荷物扱トシテ託送方申出アリシニ付同日之ガ特認方ニ付大阪鐵道局運輸課長宛電報セリ

右ノ實例ニ鑑ミ宮内省内閣又ハ各省ト各其ノ京都出張所トノ間ニ運送スル小荷物ニシテ萬一容量制限ヲ超ユルモノアルモ支障ナキ限リ輸送上ノ利便ヲ圖リ之ガ取扱ヲナスコトトシ十一月二日禮達第十六號ヲ以テ左ノ如ク達示セリ

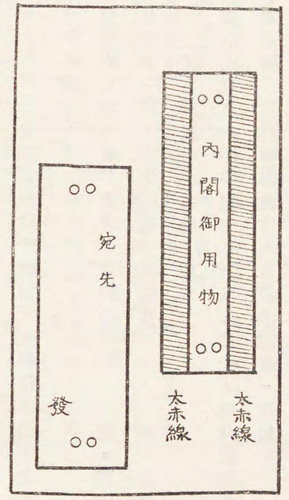
宮内省内閣又ハ各省ト各其ノ京都出張所トノ間ニ運送スル小荷物ハ國有鐵道旅客及荷物運送規則第百五十七條第一號ノ容量制限ヲ超過スルモノト雖モ之ガ取扱ヲ爲スベシ

○諸官廳託送小荷物ノ取扱

京都行幸中在東京内閣書記官ト京都ニ於ケル臨時内閣出張所内ノ内閣書記官トノ間ニ往復スル物品ノ無賃輸送方ニ關シ館内閣書記官ヨリ旅客課長ニ申出アリシモ無賃輸送ハ出來ザルモ出來得ル限リ輸送上ノ便宜ヲ圖ルコトトシ左ノ通リ達示セリ

京都行幸中在京内閣書記官ト京都ニ於ケル臨時内閣出張所内ノ内閣書記官トノ間ニ往復スル小荷物ハ左ノ各號ニ依リ輸送方取計フベシ

一　內容品　書類
二　荷　造　一定ノ箱ニ入レ其ノ上ヲ**ズツク**ニテ包裝シアリ
三　標　記　本品ノ外裝ニハ左ノ如キ標記アリ



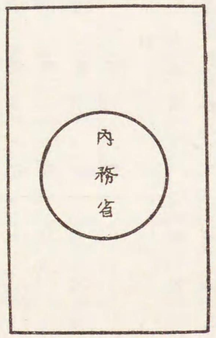
四　扱種別　驛留
五　運　賃　後拂トシ本省經理局ニ於テ內閣ヨリ之ヲ收受ス
六　輸送列車　東京發第一列車、京都發第一六列車但シ時宜ニ依リ變更スルコトアルベシ
七　豫　報　受託驛ニ於テハ著驛ニ向ケ輸送ノ都度左記ニ依リ電報スヘシ

レイタツヽヽゴウコニヽレヽヽコハソ

大禮期間中京都驛ニ於ケル本扱ニ依ル小荷物ノ取扱數量ハ到著九九箇發送五一箇ナリキ
十一月一日內務大臣官房文書課長ヨリ御大禮期間中內務省ニ於テハ京都府廳內ニ出張所ヲ設ケ事務取扱ヲナスコトトナリ右出張所ト本省トノ間ニ於ケル書類其他ノ往復ニ付急ヲ要スル場合ハ小荷物トシテ託送シタキニ付迅速確實ヲ期スル爲相當便宜ヲ供與セラレ度尙警保局圖書課取扱ニシテ毎日午前ハ第九列車午後ハ第一一列車ヲ指定ノ上定期ニ託送スベキニ付特ニ便宜ヲ供與シ尙運賃料金ハ後拂トサレ度旨申出アリシタメ十一月五日禮達第十九號ヲ以テ左ノ如ク通達セリ

大禮期間中內務省ト京都ニ於ケル臨時出張所トノ間ニ往復スル小荷物ハ左ノ各號ニ依リ輸送方取計フヘシ

一　內容品　書類
二　荷　造　澁紙包
三　標　記　本品ノ外裝ニハ左ノ如キ標記アリ



圓形ハ赤色太丸
文字　赤刷

四　扱種別　驛留
五　運　賃　後拂トシ本省經理局ニ於テ內務省ヨリ之ヲ收受ス
六　輸送列車　東京發第九、一一列車、京都發便宜列車

大禮期間中京都驛ニ於ケル本扱小荷物ノ取扱數量ハ到著八四箇發送九六箇ナリキ
其ノ他ノ官衙ニシテ京都出張所トノ間ニ於ケル小荷物輸送方ニ付大正大禮ノ例ニ鑑ミ特別ノ取扱ヲナスベキモノハ豫メ申出ラレ度旨關係官廳ヘ照會セシガ、內閣及內務省以外ハ其ノ必要ナシトノコトナリキ

然ルニ實際ニ於テハ小荷物トシテ託送サレタルモノアリ今京都驛ニ於ケル著發數ノ大要ヲ擧グレバ左ノ如シ

名稱	著筒數	發筒數	計
樞密院	二	二	四
陸軍省	六二	六六	一二八
海軍省	八	一六	二四
司法省	六六	四〇	一〇六
文部省	一六	六	二二
農林省	四	〇	四
商工省	六	〇	六
計	一六四	一三〇	二九四

二　貨物列車ニ依ルモノ

大禮ニ伴フ各官廳用諸品ノ輸送ハ運送業者ヲ介シテ常時ノ如ク輸送シ或ハ京都ニ於テ之ヲ調達納入セシメタルモノ等アリシ爲之等輸送ニ就キ格段ナル手配ヲ鐵道ニ求メタルモノ鮮少ナリシモ其ノ分明セル限リ貨車ノ配給輸送ノ速達等一々關係局所ニ指令シ輸送ノ正確ヲ期シタリ其ノ分明セル數量左ノ通

官廳關係用品輸送數量調

發送所管	託送者	發送月日	發驛	著驛	品名	使用車數量 ワ	ワム	ト	チ	チキ	計	貨切扱	其他
東局	內閣會計課	一二	梅小路	勳章其他									
〃	〃	〃	〃	〃									
〃	近衞歩兵四聯隊	五	汐留	被服		一					一		
〃	鐵道聯隊	一四	品川	〃		一					一		
〃	野戰砲兵學校	二三	千葉	飯田町		二					二		
〃	歩兵學校	二六	四街道	中野		一					一		
〃	〃	〃	千葉	兩國橋		一					一		
小計						六					六	六三	四噸
大局	飛行一聯隊	一一	加古川	飛行機		一					一	一八	四八八斤
〃	第九師團	〃	〃	雜品		一					一	一八	一噸
小計						一					一	一八	一噸
〃	宮內省	一〇	汐留	雜品		一					一	一三	八
〃	警視廳	一一	〃	馬匹		一					一	八	八
〃	伏見宮	二〇	〃	雜品		一					一	一三	八
〃	內閣	二一	〃	〃		一					一	八	八
〃	鐵道省	二八	〃	〃		一					一	八	八
〃	〃	二九	〃	〃		一					一	八	八
〃	〃	三〇	〃	〃		一					一	八	八
〃	大阪鐵道局	〃	大阪	〃		一					一	八	八
小計						八					八	八	八
合計						一五					一五	五八	五噸

第十章　運賃及料金

第一節　旅客運賃

一　特派大使使節
普通列車貸切運賃(東京、京都間ニ限リ急行料金ヲ含ム)
但シ荷物車ハ無賃(別途使用ノモノモ同様)
後拂扱トシ本省經理局ニ於テ收受

二　參列員
普通ノ運賃料金ヲ收受シ別ニ特典ナシ

三　慾紀、主基米ノ護送人
提供車輛ノ定員ニヨリ貸切扱、定員超過シ普通客車ニ混乘セルモノハ普通團體扱關門間ハ現人員ノ運賃ヲ徵スルコトトシ孰モ後拂ニシテ本省經理局ニ於テ收受
主基米輸送扱ニシテ北九州鐵道會社線ニ乘入レタルモノハ車輛貸渡料金ヲ當該會社ヨリ收受

四　縕服　**ナイロフ**一輛提供シ全車貸切(縕服ハ無賃)
麁服　四國線ハ**ナロハ**一輛增結シ**ロ**室貸切
本州線**ナイロ**一輛增結シ**イ**室貸切(麁服ハ無賃)

五　海軍儀仗兵
觀兵式出場部隊
軍事供用令扱、但シ普通客車ニ混乘ノモノ又ハ特別急行列車ニ乘車スルモノハ官用半減扱トシ規定ノ急行料金ヲ收受スルコトトシ孰モ後拂トシ本省經理局ニ於テ陸海軍省ヨリ收受

六　在鄕軍人代表大會ニ參列ノ在鄕軍人
今回ニ限リ特ニ官用半減扱トシ現拂

七　鴛輿丁、皇宮警察部員
普通運賃

八　儀裝馬車附添人
馬積貨車一輛ニ對シ三等一人無賃
其他ハ相當乘車券ヲ購求セシム

第二節　手小荷物運賃及料金

一　小荷物扱御用物
通常小荷物運賃　後拂扱

二　貸切輸送御用物
車輛ノ標記荷重噸數ヲ斤ニ換算シ之レニ對スル通常小荷物運賃　後拂扱

三　御召列車供奉員ノ別途輸送荷物
通常小荷物運賃　後拂扱

四　悠紀主基供納米
　　無賃
五　特派大使使節ノ別途輸送荷物
　　無賃　配達料ハ一個廿錢
　　後拂扱トシ本省經理局ニ於テ大禮使ヨリ收受
六　參列員ノ荷物保管料及配達料
　　保管料　往復共無料
　　配達料　一個廿錢
七　列車ヲ利用セサル參列員ノ手荷物
　　列車ニ乘車スルモノト同一ニ見做シ通常小荷物運賃ヲ徵シ特ニ參列員手荷物ト同一ニ取扱フ
八　內閣內務省託送ノ小荷物
　　通常小荷物運賃ヲ收受　後拂扱

第三節　貨物運賃

第一　大禮使託送貨物運送手續ノ制定

大禮使託送ニ係ル御用物中御羽車ハ現行貨物運賃等級表上ニ該當スル品目ナク運賃計算上疑義ヲ生ズルヲ以テ之ヲ神輿ト解シ一級品トシテ取扱フコトトシ尙大禮使託送ニ係ル御用物ノ取扱方ニ就キ左ノ通運送手續ヲ制定シ取扱上完璧ヲ期シタリ

第一條　大禮使託送貨物ノ運送ハ本手續ニ依ル但シ本手續ニ定メナキ事項ハ一般規程ニ依ルモノトス

第二條　大禮使託送貨物ノ種類ハ左ノ通トス

御羽車
馬車
自動車
馬　匹
其ノ他

（註）一　馬車ニハ次ノ種類アリ
　　特別御料儀裝車
　　御料儀裝車
　　座馭式御料儀裝車
　　儀裝車
　　御料普通車
　　普通車
　　馴車
　　運搬車
　二　自動車ニハ次ノ種類アリ
　　御料車

供奉車
普通乘用車
運搬車
散水車

第三條　大禮使託送貨物ハ其ノ種類ニ應シ左記貨車ニ依リ運送スヘシ

イ　御羽車ハ車運車
ロ　御料馬車(儀裝普通共)及儀裝車ハ車運車
ハ　普通馬車、馴馬車、運搬馬車ハ荷重十噸側板總開キ無蓋車
ニ　御料自動車、運搬自動車、散水自動車ハトラ一號形式無蓋車
ホ　供奉自動車、普通乘用自動車ハ荷重十噸側板總開キ無蓋車
ヘ　馬匹ハワム二〇〇〇〇號形式有蓋車
ト　其他ハ品種形狀ニ從ヒ貨物輸送手續ノ定ムル所ニ依ル

第四條　車運車ニ依リ運送スル馬車ノ積卸作業ハ別ニ定ムル大禮用馬車積卸作業手續ニ依リ之ヲ行フヘシ

第五條　大禮使託送貨物ノ運送ニ使用スル貨車ハ別ニ定ムル方法ニ依リ掃除消毒ヲ爲スヘシ

第六條　馬匹給水驛ハ四斗樽(完全ニ酒氣ヲ拔キタル古物)ニ清水ヲ滿タシ馬匹積車一輛ニ付一個ノ割合トシ馬匹輸送列車到着前ニ適當ノ位置ニ配置スヘシ

前項ノ給水用樽ニハ列車停車時分ノ長短ニ應シ必要ト認ムル人員ヲ附スヘシ

馬匹給水驛ハ運輸局ニ於テ定ムル輸送計畫ヲ以テ指定ス

第七條　大禮使託送貨物ヲ緩急車、代用車又ハ積合車ニ依リ運送スル場合ハ左記ニ依ルヘシ

イ　緩急車又ハ代用車ニ依ルトキハ着驛迄直通スル緩急車又ハ代用車ニ依ルコト
ロ　積合車ニ依ルトキハ一驛發一驛行ニ限ルコト
ハ　代用車ニ大禮使託送貨物ヲ積載スルトキハ其ノ旨當該列車乘務車掌ニ通告スルコト

第八條　大禮使託送貨物ヲ發送シタルトキハ驛長ハ積載貨車ノ記號番號及連結列車ヲ左記ニ電報スヘシ

京都本省派出所(派出所開設期間中ニ限ル)
所管鐵道局運輸課
到着驛所管鐵道局運輸課
到着驛

第九條　御羽車ノ等級ハ神輿ニ準シ一級トス

第十條　御羽車、馬車及自動車ノ重量容積ハ左ノ如シ

種類	重量	容積
御羽車	三一三斤	六〇〇立方尺
特別御料儀裝馬車	二、三一一〃	六九七〃
御料儀裝馬車	一、八七二〃	六九一〃
座馭式御料儀裝馬車	一、八七五〃	七一四〃
儀裝馬車	一、八四四〃	七一〇〃
御料普通馬車	一、二四五〃	五四〇〃
普通馬車	一、二〇〇〃	四八四〃
馴馬車	八七五〃	三七〇〃

運搬馬車	九六三〃
御料自動車	二、五〇〇〃
供奉其他用箱乗用自動車	二、二七二〃
幌乗用自動車	一、八九五〃
運搬自動車	二、五九二〃
散水自動車	三、四八六〃

前項ノ貨物ハ受託ノ際監査ヲ省略スヘシ

第十一條　大禮使託送貨物ヲ貨物通知書甲片ト引換ニ引渡ヲ爲スコトヲ得サルトキハ貨物通知書乙片ニ大禮使職員ノ認印ヲ徴シ引渡ヲ爲スヘシ

（註）認印ヲ以テ貨物ヲ受取ルヘキ大禮使職員ハ豫メ其ノ氏名ヲ貨物到着驛長ニ申出ツル筈ナリ

第十二條　大禮使託送貨物ニハ一車ヲ專用シテ運送スルモノヲ除キ紫地ニ「大禮使」ト白抜キ其ノ下部ニ當該貨物ノ所屬部局名ヲ記載シタル荷票ヲ大禮使ニ於テ附スルモノトス

第十三條　本貨物輸送列車ニ附添人乘用客車ヲ連結シタル場合ノ附添人乘車賃ハ左記ニ依ルヘシ

イ　二等車ニ乘用スル附添人ニ對シテハ現乘人員全部ノ二等乘車券ヲ購入セシム

ロ　三等車ニ乘車スル附添人ニ對シテハ馬匹積車一輛ニ付一人ヲ控除シタル人員ニ對シ三等乘車券ヲ購入セシム

ハ　乘車券ハ貨物運送區間毎ニ發行スルモノトス

第二　運賃割引

（イ）大嘗宮御造營用材料ニ對スル運賃割引

	五〇〇〃
	七五五〃
	五八三〃
	四八八〃
	七四二〃
	一、一三三〃

大禮諸儀用品ニ對スル鐵道運賃ハ原則トシテ普通運賃ニ依ルコトニ大禮委員會ニ於テ決定セラレタルガ大嘗宮ノ御造營材料ハ大禮使ヨリ京都府知事ニ調進方ヲ命ゼラレ其ノ材料ノ大部分ハ町村、青年團、在鄉軍人團等ニヨリ奉仕的ニ提供セラルルモノナルヲ以テ右負擔ヲ輕減スル爲割引方ニ關シ京都府知事ヨリ申出アリ右ハ大正大禮ノ際ニ於ケル先例モアリ相當ニ割引ヲ爲スヲ至當ト認メラレシニ付左記ニヨリ運賃五割ヲ低減セリ

一　發　驛　福知山　綾部　和知　下山　園部　殿田　加茂　島ケ原　河守（北丹）
二　著　驛　梅小路　二條
三　扱種別　貸切扱
四　賃　率　省社線共五割減
五　期　間　自昭和三年八月四日　至同　年九月三十日
六　條　件　本貨物ニ對シテハ貨物運送狀記事欄ニ「大嘗宮御造營材料タルコトヲ證明シタル書類ヲ一口毎ニ貨物運送狀ニ添付スルコトヲ要ス

（ロ）官公衙新聞通信社及大禮參列者用自動車ニ對スル運賃割引

大禮ノ爲京都ニ行幸中ハ宮內省ヲ初メ內閣其ノ他ノ諸官衙ハ孰モ京都ニ臨時出張所ヲ設ケ大禮ニ關スル事項ハ勿論一般事務ヲモ處理スルコトトナリ之等諸官廳間ニ於ケル連絡交涉事項頻繁ヲ極メ從テ自動車ノ需要切ナルモノアリ然ルニ京都市ニハ比較的自動車數尠ク供給意ノ如クナラザル實狀ナルヲ以テ是等諸官廳ニ於テハ各其ノ本廳ヨリ一時京都ニ輸送シ使用ニ充ツルト共ニ新聞通信社及大禮參列者ニ於テ

モ各自用ノモノヲ態々京都ニ輸送セントスル者相當アルモ自動車ノ鐵道運賃ハ濶大貨物トシテ普通運賃ノ外更ニ其ノ十割ヲ加算スルモノナルヲ以テ其ノ運賃額ハ陸路運轉スル費用ニ比シ却テ多額ヲ要スル結果トナリ各方面ヨリ運賃割引方ニ就キ申出アリ自動車ノ貸切扱ハ之ガ積卸作業ハ荷主ガ負擔シ比較的容易ナルノミナラズ著驛タル梅小路驛ニ於ケル之等積卸設備モ略完備シ一般ノ作業上別段支障ヲ見ザルニ至リタルヲ以テ特ニ割增ヲ免除シ左記ニヨリ取扱ヲ爲スコトトセリ而シテ大禮期間中梅小路驛著自動車輛數ハ各宮家輸送ノモノ十八輛ヲ始メトシ其ノ他各官衙、新聞通信社參列員用ノモノ二百七十五輛合計二百九十三輛トス

一　發　驛　往路　省線各驛
　　復路　梅小路　二條　向日町
一　著　驛　往路　梅小路　二條　向日町
　　復路　省線各驛
一　荷送人及荷受人　官公衙、新聞通信社、御大禮參列者
一　扱種別　貸切扱
一　運　賃　國有鐵道貨物運送規則第七十一條所定ノ割增ヲ爲サズ
一　期　間　往路　自　十一月一日
　　　至　昭和三年十一月十五日
　　復路　自　十一月十五日
　　　至　昭和三年十一月三十日
一　條　件　御大禮參列者託送ノ場合ハ別途鐵道省運輸局ヨリ參列者ニ送付セル自動車鐵道運送申込書ヲ豫メ提出シタル者ノ託送スルモノニ限リ適用ス
　　尙此場合ハ貨物運送狀ニ申込書ノ番號及「御大禮參列者用」ト記入スルコト
　　梅小路發又ハ著ノモノハ鐵道ノ都合ニ依リ丹波口ニ於テ受託又ハ引渡ヲ爲スコトアルベシ

第三　運賃後拂扱

(イ) 大禮使託送荷物

大禮使託送ニ係ル車馬物品ノ運賃ハ後拂扱トシ且緊急輸送ヲ要スルモノノミニ對シテハ鐵道ニ於ケル荷物取扱制限外ノモノト雖モ取扱ハレ度旨昭和三年一月十四日付ヲ以テ大禮使調度部長及同車馬部長連署ヲ以テ照會アリ運賃後拂扱ニ就テハ官衙託送荷物ニ對シテハ一般ニ後拂扱ヲ爲シ得ルコトトナリ居レルヲ以テ別段支障ナキモ一方取扱制限ヲ超ユルモノ(主トシテ小荷物扱)ハ當時ノ輸送狀況其ノ他ニヨリ相當手配ヲ要スルモノナルヲ以テ概括的ニ諾否ヲ決定シ得ザル事情アリ依テ取扱制限外荷物ヲ輸送スル場合ハ其ノ都度關係鐵道局ト協議ノ上輸送上便宜ノ處置ヲ講ズルコトトシ其ノ旨回答ヲ爲スト其ニ關係鐵道局ヘ通牒セリ

(ロ) 官公衙用自動車

京都ニ輸送スル官公衙、其ノ他ノ自動車ニ對スル運賃割引方ニ付テハ前項所述ノ如クナルガ官公衙託送ノモノハ其ノ都度現金ノ支拂ヲ爲スハ困難ナル事情アルニ鑑ミ官公衙託送自動車ニ對シテハ左記ニヨリ運賃後拂ノ取扱ヲ爲セリ

一　發著驛　往路　省線各驛發梅小路、二條、向日町著
　　復路　梅小路、二條、向日町發省線各驛著
二　荷送人及荷受人　官公衙
三　期　間　十月十九日ヨリ十二月末日迄
四　取扱方　大正十五年五月二十七日達第四一三號官衙其ノ他ノ託送荷物ノ運賃及料金ニ對スル後拂扱ノ件ニ依ル

第十一章　警備及取締

第一節　警備方針

御召列車ノ運轉ニ伴ヒ沿線竝各驛所其ノ他鐵道所屬諸設備ニ對スル警備ハ主トシテ我國有鐵道ニ於テ擔任スル所ニシテ專ラ綿密周到ナル準備計畫ト直接其ノ任ニ就ク各係員ノ至誠奉公ニ俟タザルベカラザルハ勿論ナルモ他面軍部及地方官憲トノ連繫ヲ密ニシ協力一致些ノ遺漏ナカラシムルヲ期スルノ要アリ卽チ以下述ブル所ノ要綱ニ依リ計畫準備ヲ進メ各員克ク其ノ任ヲ竭シ幸ニ何等ノ事ナクシテ此ノ重責ヲ完フスルコトヲ得タリ

第一項　大禮使警備係及大禮使警備會議

大禮使官制ノ發布ニ依リ長官官房ニ警備係ヲ置キ大禮中ノ警備衞生ニ關スル事項ヲ掌理セラレタルガ警備ノ範圍廣キニ亘リ其ノ關係スル所甚多キヲ以テ各關係官廳間ノ交涉連絡ヲ密ナラシムルノ趣旨ニ依リ大禮使警備係ノ主催スル警備係會議ヲ開カレ警備ニ關スル各般ノ事項ハ同會ニ附議シ打合セヲ爲スコトトセラレタリ之ニ參加スル關係官廳ハ大禮使警備係長官官房典儀部ノ外內務本省警視廳陸軍省近衞師團憲兵司令部ニシテ鐵道省亦之ニ參加シ運輸局總務課長工務局保線課長鐵道醫一名衞生關係此ノ任ニ當レリ

而シテ警備ニ關スル事項ハ省內大禮委員會ニ於テ夫々個々ノ問題ニ付協議セル處ナルモ結局前述警備係會議ニ附議スルノ要アルヲ認メ案ヲ具シ之ヲ同會議ニ提出シ七月二十日警備係第六回會議ニ於テ附議セラルル所トナリ各附記ノ如キ決定ヲ見タリ

一　議　事

鐵道省ノ提案ニ係ル警備上ノ協議項目ニ對シ逐次左ノ通協議ヲ遂ゲタリ

一　停車場踏切道及道路橋ニ於ケル鐵道省ト地方廳トノ警護境界ノ件

從來地方警察ト驛長トノ間ニ於テ協約アリ警護境界ハ明ニセラレ居レリ寫眞撮影ノ拒否等ハ驛長ト協議ノ上警察官ニ於テ行ヒツツアリ改札口內ハ驛長ニ於テ營業法違反ノ取締ニ任ス

鐵道省ニ於テハ踏切道ニハ番人ノ外相當警備員ヲ配置シ又沿線ニハ一哩ニ付十四五人ノ監視者ヲ配置シ前日日沒時ヨリ翌日日出時迄警戒シ一旦警備ヲ解キ更ニ御召列車ノ直前十分前ニ配置シ線路ニ故障アルトキハ赤旗信號發雷信號及赤燈信號等ヲ警備員ニ携帶セシメテ直ニ警告ス暗渠及道路橋ニ對シテハ事前ニ檢査ヲ施行ス

警備責任ノ範圍トシテハ技術的ニ亘ル工作物ノ檢查等ハ鐵道技師ニ俟ツベキモ路線ノ內外ヲ問ハズ警護上ノコトハ警察官ノ責任ナリトス

二　御乘車御停車及御通過驛ノ乘降場ニ於ケル旅客ノ往來制限ノ件

典儀部鐵道警察關係ノ三者ニ於テ具體的ニ更ニ協定スルコトニ定ム

關係各警察部長ヲ列席セシメタキコト(本件ハ各鐵道局ニ於テ警視廳又ハ縣當局ト協議ノ上夫々決定ヲ見タリ)

三　警衞部隊トシテ停車場及線路ニ派遣セラルル警官衞兵憲兵等ノ配置標準ノ件

衞兵ハ御停車驛御昇降驛ハ一小隊ニシテ小隊長以下五十名ヲ配置スル標準ナリ但シ驛ノ大小ニヨリテ多少ノ增減アリ憲兵ハ驛ノ大小ニヨリテ適宜配置ス

警察官ハ東京驛ハ百二十名京都驛ハ六十名御通過驛ハ大體三名宛ニシテ監督者ヲ加ヘ五六名位ナリ

沿線ハ府縣ニヨリテ異ルモ最大密度ハ東京驛附近ノ一哩ニ付八十名次イデ逢坂山ヨリ京都驛間ノ六十名餘ニシテ概シテ人家市街地ニ於テ密ナリ最少限度ハ靜岡縣ニ於ケル一哩平均三名八分位ノモノナリ警察官ノ配置密度ハ以上ノ如クナルモ補助トシテ消防、在鄉軍人等ヲ參加セシムル豫定ナリ

沿線ノ警察官ハ前晩ニ附近ヲ一回檢索スル外當日三四時間前ニ配置シ直前一時間迄ニ周圍ヲ檢索シテ配置ニ就ク筈ナリ

警察官ニシテ沿線ニ故障アルコトヲ發見セルトキハ直ニ鐵道職員ニ報告スルコトトス警察官ト沿線ニアル鐵道職員トノ連絡合圖方法ハ追テ研究スルコト

四　行違列車ニ對スル乘組警察官配置ノ件

鐵道省トシテハ列車ノ各車ニ警察官一名位宛乘車取締ヲ希望ス而シテ東京京都間ノ行違列車數ハ約六十列車位ニシテ一列車ノ車輛ハ約十車宛連結シアリ內務省トシテハ警察官乘込ノコトハ移動警察ノ任務ニシテ未ダ成案ナキモ隣接府縣間ニ於テ打合セヲ爲シ乘組員數ノ分擔ヲ行ヒ決定スベシ

（本件ハ第八回警備會議ニ於テ必要區間ノ列車ニ二、三名宛乘込マシムル旨警視廳側ヨリ說明アリ）

五　鐵道線路ト交叉スル鐵道部外高壓電力線其他工作物ノ取締ニ關スル件

右ハ警察官ト協力シテ行フ積リナルモ地方鐵道ノ交叉ニ就テハ鐵道省ノ監督權ヲ以テ注意ヲ與フル見込ナリ

六　待合室ニ於ケル旅客及公衆取締ノ件

御通過驛及御停車驛ニヨリテ取締方法ヲ異ニセザルベカラザルモ從來鐵道省トシテハ構內ノ整頓ヲ行ハシメ御目障リヲ慮リ構外ニ出サシメザル程度ノ取締ヲ爲シ居レリ右ハ尙警察トシテモ懸案トシテ研究セントス（本件ハ其ノ後別ニ記スル如ク決定ヲ見タリ）

七　驛樓上營業者取締ノ件

東京、名古屋、京都等ノ階上ニ於ケルステーションホテル、ミカド等ノホテル、食堂其他ノ營業者ハ警察官ニ於テ相當取締ルベキモノト認ム（本件ハ警察ニ於テ取締ヲ爲シ鐵道ハ營業者ニ注意スルコトトナレリ）

八　御召列車ノ發著驛及停車驛ノ乘降場ニ於テ拜謁ノ儀ノ有無

大禮使關係ニ非ス行幸主務官ノ意見方針ニ依ルベキモ大體拜謁等ノコトトナカルベシ

御通過驛ニ奉拜者等ヲ入ルル場合御召列車ノ速力ニ就テ幾分考慮願度シトノ意見アリ鐵道省トシテハ御通過驛附近ニ於テ速力ヲ緩ニシ途中時間恢復ノ餘地アラバ幸ナルモ技術者ノ研究ヲ要スルヲ以テ即答致難シ

九　入場資格者ハ大禮使ニ於テ決定セラルルモノカ沿線各驛ニ適用セラルルヤ

大禮使ニ於テ定ムル驛ハ東京、名古屋、京都、桃山、原、宿、舊傍、淺川ノ各驛ニシテ他ハ從來通リ宮內省ニ於テ定メタル慣例ニヨル宇治山田驛ハ公式行幸ニ非ザルヲ以テ大禮使ニ於テ決定セズ

此場合賢所御召列車ノ直前ニ奉拜者ヲ置クコト等ノ制限ハ大禮使ニ於テハ何等意見ナキヲ以テ可然行ハレ度シ

一〇　停車場反對乘降場及御召列車運轉上支障ナキ構內空地ニ在鄉軍人學生其他規律アル團體入場ノ件

右ハ前記ノ各驛ニ付キ後日大禮使ニ於テ決定スル筈ナリ（第八回警備係會議ニ於テ別ニ記スル如ク決定セリ）

一一　新聞通信記者、普通及活動寫眞技師入場制限ノ件

主トシテ大禮使新聞寫眞係ノ主管ナルモ兩陛下御徒歩ノ場合ノ撮影ハ之ヲ許サズ特ニ大禮使ノ寫眞係ニ於テ記錄又ハ貸下等ノ爲ニ撮影スルコトアルベシ

新聞通信記者等ノ入場制限ニ關シテハ何等拒ム理由ナキ如キモ後日決定ノ上鐵道省ヘ通知ス（本件ハ別ニ記スル如ク決定ヲ見タリ）

一二　行違列車ノ客車窓閉鎖ノ件

御警衛上必要ノ有無ニヨリ硝子窓又ハ鎧窓等ヲ閉鎖スルヤ否ヤノ問題ナルモ種々議論アリ更ニ協議ノ上決定セムトス

行違列車ノ便所ノ窓ヲ閉鎖スル必要アル外御召列車側ノ便所ヲ使用セシムルコトハ許サザルヲ可トス

一三　入場資格者新聞通信記者及寫眞技師入場ニ付テハ地方廳ニ於テ確認シ入場許可ヲ決定セラレタシ

入場資格者ニ就テハ地方廳ト鐵道側ト協定スルノ例ナリ

新聞記者寫眞技師ノ入場ハ地方廳ニ於テ確認スル筈ナリ

超エテ九月十八日第八回警備係會議ニ於テ左記事項ヲ附議シ夫々附記ノ通決定ヲ見タリ

一　停車場構內ニ於テ作業スル運送店仲仕雜役人夫、構內營業從業員等ハ如何ナル程度ニ停車場構內ニ置クカ絕體ニ構內ヨリ退出セシムルヤ又ハ目障リトナラザル一定ノ場所ニ集合セシメ差支ナキヤ

イ　御乘降驛ノ場合

ロ　御停車驛ノ場合

ハ　御通過驛ノ場合

御召列車ガ御停車中御召列車ノ見ヘザル地點ニ運送店仲仕及構內從業員等ヲ集合セシメ警官ヲ配置シテ監視セシムルコト但シ雜役人夫ハ構外ニ退場セシムルコトトシタシ

（附）御召列車運轉ノ際不必要ナル鐵道職員ガ乘降場等ニ出場シ居ルニアラズヤ若シ然リトセバ必要數ニ止ムルコトトシ其ノ判別方法トシテ徽章ノ如キモノヲ附着セシムルコトトセバ好都合ナリト警視廳側ヨリ申出アリ

二　御召列車試運轉（第二回試運轉ノ際鐵道ニ於テ或ル程度ノ警備ニ關スル豫行演習ヲ行フ意向ナルガ軍隊警察側ニ於テモ同時ニ實施セラルル意志ナキヤ

右ニ對シテハ兩者孰モ是非參加シタシトノコトナリ

第二項　大禮委員會

大禮ニ關スル諸般ノ事項ハ事ノ大小ヲ問ハズ凡テ大禮委員會ノ決定ニ俟チ又ハ之ニ報告スルノ要アリシヲ以テ警備ニ關スル事項ハ前號ノ如ク大禮使警備係會議ノ決定ヲ見タルモ之ガ實行ヲ期スルニ先チ大禮委員會ニ報告シ其ノ決定ヲ經テ以下記述ノ通リ實行スルニ至リタルモノトス

第二節　御料車竝儀裝馬車ニ對スル警備

第一項　大井工場ニ於ケル警備

御召列車ノ編成及賢所乘御車ハ大井工場ニ於ケル御料車庫內ニ格納セラレ且御料車ノ修繕賢所乘御車ノ補修等ハ總テ同車庫內ニ於テ施行スルモノナルヲ以テ特ニ火氣ニ注意シ防災器具ヲ點檢シテ之ガ完備ヲ圖リ或ハ消防演習ヲ行ヒ非常時ノ訓練ニ努メ給水方法ニ關シテ亦萬全ノ手段ヲ講ジタルガ今工場內外ニ於ケル警備取締ニ付主要ナル點ヲ擧グレバ左ノ如シ

イ　構內巡回度數增加

大禮御召列車編成車輛及豫備車輛ノ警戒及萬一ノ場合遣算ナキヲ期スル爲同工場內東側御料車庫內ニ

之等車輛ヲ全部收容シ該車庫附近竝客車、塗工、縫工及電車職場ヲ特別警戒區域トシ十月四日ヨリ特ニ守衛二名ヲ配置シ一般構內巡邏ノ外一時間一回宛巡回警備ニ當ラシメタリシガ更ニ同月十日ヨリ大禮終了迄守衛ノ勤務ヲ晝間十二名夜間十七名トシ同區域ノ巡回度數ヲ御料車庫附近一時間五回其ノ他ノ區域ハ一時間四回ニ增加シ右巡回度數ノ外副守衛長ヲシテ每夜間三回宛巡回警戒セシメタリ而シテ十一月六日ヨリ同月二十七日迄京都ニ行幸期間中)ハ一時前記非常警戒ヲ解キシモ二十七日御料車ヲ車庫ニ格納スルニ至ルヤ更メテ同日ヨリ十二月四日卽チ大禮特別觀艦式行幸ヲ終ラセ給フ迄前記ノ警戒ニ復シ且每夜十時迄事務主任又ハ庶務主任一名ヲ居殘ラシメ警備上ノ監督ニ當ラシメタリ

ロ　御召列車編成車輛車庫出入ノ際ニ於ケル警備

十一月六日御召列車ヲ編成シ東京驛宛廻送スルニ當リテハ工場長以下關係係員未明ニ出勤シ御料車庫ヨリ大崎驛ニ至ル線路內外ノ警戒ニ任ジ又十一月二十七日右編成車輛ヲ御料車庫ニ格納ノ際ニ於テモ同樣ノ警戒ヲ爲シタリ

ハ　警察官憲トノ連絡

工場內部ノ巡邏及警備ハ以上述ベタル所ナルガ尙附近部落ニ對スル警備ヲ忽ニスベカラザルヲ以テ之等ニ對シテハ左ノ各署ト協議ヲ遂ゲ夫々附記ノ如キ手配ヲ見ルニ至レリ

大井警察署

十月三十一日ヨリ十一月六日朝迄大井工場職員集會所內ニ夜間臨時巡査派出所ヲ設ケ巡査三名ヲ配置シ御料車車庫附近構外ノ警備ニ當レリ

品川警察署

十一月一日ヨリ三ツ木派出所ニ巡査二名ヲ增員シ大井荏原兩警察署ト連絡ヲ採リ工場附近ノ警戒ヲ嚴ニセリ

荏原警察署

人繰ノ都合上警備ノ爲特ニ臨時增員等ヲ爲サザリシモ下蛇窪派出所ニ對シ警告ヲ發シ警戒ヲ怠ラザラシメタリ

第二項　驛ニ於ケル御召列車ノ警備

御召列車ノ運轉ニ關シテハ或ハ沿線ノ警備ニ或ハ關係驛所ノ警備ニ細密周到ヲ期スルハ論ヲ俟タザル所ナルガ御發著驛ニ滯留中ノ御召車及御召列車ノ編成車輛ニ對スル警備モ亦忽諸ニ附スベカラザルモノナルガ故ニ右ニ對シテハ鐵道局ニ通牒シ係員ヲ配置シテ之ガ警備ニ當ラシムルノ外地方廳ト協議シ警察官ノ派遣ヲ求メ監守セシメタリ

第三項　儀裝馬車ニ對スル警備

驛構內停泊中ノ儀裝馬車ニ對シテハ鐵道ニ於テ之ガ警備ニ任ジ其ノ取扱方ハ御召列車警護ニ關スル取扱方ニ準ズルコトトシタルガ爲關係鐵道局ニ於テハ地方官憲ト打合セ發著當日ハ警察官ノ派遣ヲ求メ關係驛長ハ適當ナル從事員ヲ指定シ相協力シテ積卸作業中ハ勿論凡ソ驛構內ニ停泊スル限リ周到ナル監視ヲ拂ヒ作業ノ圓滿ヲ計ルタメ必要ニ應ジ一時一般貨物ノ搬入取扱ヲ停止シ且隣接線路ニ危險品惡臭ヲ發シ或ハ汚穢ナル貨物及荷崩レシ易キ貨物積車ノ停留スルヲ禁止シ尙警備上支障アル地點ニ對シテハ努メテ貨車ノ停泊スルヲ避ケ以テ確實ナル作業ノ遂行ト安全ヲ期スルニ努メタリ更ニ輸送途中ニ於ケル警護ヲ完フスルタメ儀裝馬車輸送列車及之ト行違ヒ又ハ待避ヲ爲ス列車ニハ危險品汚穢ナル貨物又ハ木材其他荷崩レシ易キ貨物等ヲ積載セル貨車ノ連結ヲ停止シテ運轉中ノ萬全ヲ圖リ一方線路關係其他一般警備ノ外別項記載ノ如ク本省員局員竝ニ關係運輸事務所員及受持檢車所員等關係者ヲ添乘セシメテ警備ノ重責ニ當ラシメタリ

以上ノ爲直接關係驛ニ於テ取リタル警備上ノ要項ヲ記セバ次ノ如シ

汐留及飯田町驛關係

昭和三年十月十六日東鐵主催關係地方警察側及軍隊側ト御召列車警護ニ關スル打合會ノ際鐵道側ヨリ儀裝馬車積卸作業其他ニ對シテハ警察側ヨリモ相當人員ノ警官ヲ派遣セラレ度キ旨提議シ其ノ同意ヲ得置キタルヲ以テ之ガ發著當日ハ關係驛タル汐留飯田町驛長ハ一般驛員ヲ繰合セ左ノ通リ適任者ヲ選定シ警察官ト互ニ協調シテ適當ナル位置ニ之ヲ配置シ以テ警備ノ任ニ就カシメタリ

警備人員

汐留驛　驛員　二十五名
　　警官　二十一名(龜戸署)
　　驛員　二十四名
飯田町驛　警官　十七名(麹町署)

名古屋及淺川驛關係

一般警備ニ關スル準備トシテ昭和三年十月三日名鐵主催ニテ名古屋商工會議所ニ於テ內務省ヲ始メ愛知、靜岡、岐阜、滋賀、長野、三重ノ關係各縣及三師團側竝名古屋、金澤憲兵隊ト鐵道關係トシテ本省、名鐵及名古屋、靜岡、甲府ノ各運輸事務所、保線事務所等ノ聯合警備事務協議會ヲ開キ次イデ翌四日名鐵會議室ニ於テ鐵道側ノミニテ前同樣ノ警備事務打合會ヲ催シ其ノ際儀裝馬車ニ對スル警備手配ノ大體方針ヲ次ノ如ク定メ更ニ十月三十日愛知縣警察部長(名古屋驛警備ニ對シ)及警視廳警務部長淺川驛警備ニ對シ兎ニ儀裝馬車積卸當日警察官派遣方ヲ依頼シ兩者協同シテ之ガ警備ヲ爲シタリ

名古屋驛

一　儀裝馬車積貨車取卸線ニ入付後取卸作業開始迄ハ作業員ニ於テ監視及警護ニ任ゼリ

二　儀裝馬車警護ノタメ次ノ通警護員及任務ヲ定メタリ

イ　一般警護員　一八名

馬車入門ヨリ積込終了迄及取卸ヨリ出門迄警護圍內ニ無用ノ者ヲ立入ラシメザル樣取締ヲ爲セリ

ロ　儀裝馬車警護員　四名

馬車入門ヨリ積込迄及取卸ヨリ出門迄儀裝馬車ニ附添ヒ警護ニ任ゼリ

ハ　儀裝馬車積警護員　一名

積込終了ヨリ出發迄及到著ヨリ取卸迄積込貨車留置ノ箇所ニ附添警護ヲ爲セリ

三　派遣警察官愛知縣警察部警部外八名)ハ驛長ト打合セ鐵道警護員ト連絡ヲトリ警備ニ當レリ

淺川驛

一　積卸作業警護員　二名

作業關係者以外ノモノヲシテ絕體ニ積卸場ニ出入セシメザル樣取締ヲ爲セリ

二　儀裝馬車積貨車警護員　三名

警手三名ノ內二名宛循環勤務セシメタリ

三　派遣警察官(淺川村警察官六名)ハ驛長ト打合セ適當ノ位置ニ於テ鐵道警護員ト連絡ヲトリ警備ニ當レリ

梅小路、山田、祇傍及奈良驛關係

昭和三年九月三十日京都驛樓上ニ於テ鐵道關係者集合警備ニ對スル一般方針ノ下打合ヲナシ更ニ十月一日都ホテルニ於テ鐵道及關係府縣警察關係者集合シ之ガ打合ヲ爲シタル際儀裝馬車ニ對スル警備ニ就テハ地方官憲ニ通報シ發著當日ハ警官ノ派遣ヲ求ルムコトトナリシヲ以テ關係驛長ハ之ト連絡ヲ圖リ大體左ノ

通施行シタリ

梅小路驛

一　著發線及操車線

從事驛員ハ他ノ部署ニ服セル者ト雖モ操合付ク限リ集中シ且非番、公休者ヲモ召集シテ作業人員ノ增加ヲ計リ關係入換線路竝轉轍器取扱等ノ監視及傳令等ノ特別任務ニ充テタリ

二　積卸線及取扱場所

イ　直ニ積卸ヲ爲スモノニ對シテハ到著ノ場合ハ取卸線ニ押込ヲナス一時間前ヨリ取卸ヲ終リ構外ニ搬出後三十分ヲ經過スル迄又發送ノ場合ハ持込ヲナス一時間前ヨリ積込ヲ終リ積込線ヲ引上後三十分ヲ經過スル迄左記人員ヲ驛構內ニ於ケル搬出入通路、積卸場及同線路ノ周圍ニ適當ニ配置シ警備セシム

驛員　二十名

警察官　警部外十一名

尙防災關係ヲ考慮シ前記時間中防災組員ヲ防災栓附近ニ、二名防火器具所在個所ニ三名配置シ警備ノ完璧ヲ期セリ

ロ　直ニ積卸作業ヲ開始セズ一時貨車積ノ儘停留セシムルモノニ對シテハ警備上最モ適當ナル線路(貨物北七號線)ニ收容シ警手三名警察官二名ヲ配置シテ間斷ナク警備ス

ハ　以上ノ外一般的ニ防災警備トシテ十一月一日ヨリ同月末日迄每夜八時ヨリ翌朝六時迄梅小路防災組員ヲシテ構內ヲ巡視警備セシム

山田、畝傍及奈良驛

驛長ニ於テ適當ナル驛員ヲ指定シ派遣警察官ト連絡ヲ保持シ當日儀裝馬車著發相當時間前ヨリ適宜ノ警備區域ニ左記人員ヲ配置シ警備ノ萬全ヲ期セリ

	驛員	警察官
山田驛	三名	五名
奈良驛	一〇名	七名
畝傍驛	五名	五名

第三節　驛關係

第一項　警備ノ實行及構內取締

第一節ニ示ス如ク警備方針ノ決定ヲ見タルモ之ガ實行ニ當リテハ關係鐵道局ト親シク協議スルノ必要ヲ認メ九月十七日ヨリ十九日ニ亙リ本省ニ開催シタル鐵道局運輸運轉工務及電氣課長會議ニ於テ警備實行方法ヲ附議シ其ノ意嚮ヲモ參酌シ爰ニ警備方法ヲ確定シ十月二日鐵道次官ヨリ東京、名古屋、大阪各鐵道局長ニ對シ(依命通牒第六章第二節參照)ヲ發シ之ガ實行ヲ命ジタリ今其ノ警備ニ關スル事項ヲ摘錄スレバ左ノ如シ

一　改集札口、乘降場ノ兩端、反對乘降場、跨線橋、地下道ノ昇降口、其ノ他構內一般ノ要所竝高層ナル建物等ニハ所屬長ニ於テ夫々職員ヲ配置シ無用ノ者ノ出入ヲ嚴禁セシメザル樣警戒スルコト尙車寄待合室等ニ對シテモ警察官、憲兵等ト協調シ相當警戒ヲ爲スコト

二　御召列車ノ運轉線路側ノ乘降場ニハ業務上必要ナル者及大禮使又ハ關係地方廳ノ定ムル入場資格者ノ外入場セシメザルコト(大禮使ノ定ムル入場者ハ第七章第一節所載ノ通)

三　御發着驛(東京、名古屋、京都、敢傍、桃山、山田、原宿及東淺川驛ヲ除キタル沿線各驛ニ在リテハ在鄉軍人、學生其ノ他規律アル團體ハ反對側乘降場又ハ御召列車ノ運轉ニ支障ナキ場所ニ入場セシムルコトヲ得ルコト此ノ場合其ノ代表者ヨリ要領ヲ記載シタル申込書ヲ徵シ承認シタルモノニ限リ入場セシムルコト

四　御發着驛ニ入場セシムベキ新聞通信記者、普通寫眞及活動寫眞技師等ハ大禮使ニ於テ組織スル新聞班ニ屬スルモノニシテ大禮使新聞班タル徽章ヲ佩用シ且大禮使新聞班係附添フモノニ對シテハ鐵道係員誘導シテ反對乘降場所定ノ位置ニ入場セシムルコト

五　運送店仲仕、構內營業從事員等ハ御召列車停止位置ヨリ見透シ得ザル一定ノ個所ニ集合セシメ警察官ヲ以テ監視セシムル手配ヲ講ジ又雜役人夫ハ相當時間前ニ驛構外ニ退場セシムルコト

六　待合室ニ於ケル旅客公衆ニ對スル取締ニ付テハ關係地方廳ト協議シ大體左記ニヨルコト

イ　御乘降驛及御停車驛ニ在リテハ待合室ガ御召列車ノ停止位置ニ直面シ又ハ鹵簿ニ近接シ且警護上必要ナル場所ニ在リテハ旅客及公衆ノ入室ヲ禁ズルコト

ロ　御通過驛ニ在リテハ改札口ニ引戸アルモノハ之ヲ閉ヂ又窓硝子ヲ閉ヅルコト

七　御召列車運轉線路ニ接近スル各事務室其ノ他ノ建物ノ窓硝子ヲ閉ヅルコト殊ニ御召列車又ハ鹵簿ヲ見下シ得ル個所ニ對シテハ御召列車通過前相當時刻ヨリ窓掛又ハ覆アルモノハ之ヲ垂レ見透シ得ザル樣手配スルコト但シ信號扱所又ハ列車運轉業務上必要アル箇所ハ此ノ限ニ在ラズ

八　官舍、合宿所、居住者及其ノ家族ハ御召列車運轉ノ際高見又ハ覗視等不敬ノ所爲アルベカラザルハ勿論御召列車ヨリ望見シ得ヘキ棟先又ハ物干場等ニハ見苦シキモノヲ懸ケ置カザルコト

九　驛樓上營業人ノ取締ハ地方廳ニ於テ爲スモ當該驛驛長ハ營業人ニ對シ不敬ノ行爲ナキ樣豫メ注意ヲ與フルコト

十　御召列車ノ運轉スル線路ノ踏切道ハ指導列車通過後御召列車通過完了迄通行ヲ禁止シ警備其ノ他ノ關係上右ニ依リ難キ個所ニ限リ特ニ御召列車通過時刻十五分前迄通行セシムルコトヲ得ルコト

十一　御召列車運轉業務ニ直接關係ナキ從事員ハ指揮者引率ノ下ニ一定ノ場所ニ集合シ奉送迎スルコト

十二　驛舍其ノ他建造物ニ不慮ノ災害ノ起ラザル樣留意スルト共ニ豫メ防災具ノ調整、試演等ヲ爲シ突嗟ノ際違算ナカラシムルコト

十三　警備竝驛構內作業ニ從事スルモノハ「大禮使鐵道部」又ハ「鐵道省」ト記シタル腕章ヲ纏用セシムルコト

鐵道局ニ於テハ以上ノ通牒ニ基キ關係地方廳及軍部官憲ト警備上ノ聯合協議會ヲ開催シ各其ノ警備擔當區域其ノ他ヲ決定シ連繫保持ニ努ムルト共ニ直接又ハ運輸、保線事務所員ヲシテ一々現場ヲ實地調査セシメ或ハ各種ノ事情ヲ綜合シ警備員配置ノ個所、配置個所毎ノ警備員ノ職名、警備區域及警備方法、警備開始及解除時刻等ヲ詳細規定シ當日勤務者ハ勿論非番者ヲモ臨時出勤セシメ尙手不足ノ驛ニハ助勤者ヲ派遣シテ之ニ當タラシメタリ而シテ警備開始時刻及其ノ解除時刻ハ各鐵道局ニ於テ左記ノ通定メ之ヲ實施シタリ尙御召列車運轉區間各驛ニ於ケル警備員配置數ヲ示セバ別表ノ如シ

警備員警備開始及解除時刻

東京鐵道局管內

御乘降及御停車驛ニ在リテハ御召列車出發又ハ到著時刻二時間前御通過驛ニ在リテハ同一時間前ニ警備ヲ開始シ御召列車出發又ハ通過若ハ到著後適當時間ヲ經過シタル後之ヲ解除セリ

名古屋鐵道局管內

御乘降驛ニ在リテハ御召列車出發又ハ到著二時間前其ノ他ノ御停車驛、御通過驛ニ在リテハ停車又ハ通過時刻一時間前ニ警備ヲ開始シ御停車驛ニ在リテハ御召列車發車後五分御通過驛ニ在リテハ同通過後三

分間ヲ經過シタル後又名古屋驛ニ在リテハ一般ノ警戒解除ト同時刻ニ警備ヲ解除セリ

大阪鐵道局管内

御乘降驛ニ在リテハ御召列車出發又ハ到著時刻一時間前御停車驛及御通過驛ニ在リテハ指導列車到著又ハ通過前ヨリ警備ヲ開始シ御召列車出發又ハ通過若ハ到著後適當時間ヲ經過シタル後之ヲ解除セリ

各驛警備員配置表

驛別＼種別	鐵道部内警備員 行幸ノ節 自驛員 當日勤務當番者	行幸ノ節 自驛員 非番者臨時出務	行幸ノ節 助勤者	行幸ノ節 計	還幸ノ節 自驛員 當日勤務當番者	還幸ノ節 自驛員 非番者臨時出務	還幸ノ節 助勤者	還幸ノ節 計	憲兵、警察官及其ノ補助者	記事
東京	一二〇	八〇	｜	二〇〇	一二〇	八〇	｜	二〇〇	二二四	
有樂町	二三	八	｜	三一	一八	一三	｜	三一	一二	
新橋	六八	一五	｜	八三	六八	一五	｜	八三	五三	
汐留	二八	一九	｜	四七	三一	一六	｜	四七	二一	
濱松町	一三	九	｜	二二	一三	九	｜	二二	一三	
田町	二五	二六	｜	五二	二六	二八	｜	五四	二九	
品川	八九	｜	｜	八九	八九	｜	｜	八九	一二一	
大井町	一八	一	｜	一九	一八	一	｜	一九	一六七	（在郷軍人及青年團一五〇）
大森	二三	二〇	｜	四三	三八	二	｜	四〇	六〇	
蒲田	四五	三七	｜	八二	四八	三四	｜	八二	二九一	（在郷軍人、青年團、消防二二六）
川崎	四五	五	｜	五〇	四五	五	｜	五	五	
鶴見	三七	二九	一八	八四	三八	三〇	一八	八六	四五	

驛別	行幸 當番者	行幸 非番者	行幸 助勤者	行幸 計	還幸 當番者	還幸 非番者	還幸 助勤者	還幸 計	憲兵、警察官及其ノ補助者	記事
東神奈川	三五	三〇	｜	六五	三三	三二	｜	六五	四五	
横濱	六九	四七	｜	一一六	六九	四七	｜	一一六	四九	
程ケ谷	三九	二八	｜	六七	四〇	二七	｜	六七	三八	
戸塚	一七	一七	二	三六	一七	一七	｜	三四	二七	
大船	四八	四〇	｜	八八	五二	四四	｜	九四	四〇	
藤澤	三七	二二	｜	五九	三九	二二	｜	六一	二四	
辻堂	一四	九	｜	二三	一四	九	｜	二三	二四	
茅ケ崎	三六	二九	｜	五五	三八	二九	｜	六七	一六	
平塚	六〇	一八	｜	七八	五三	二三	｜	七六	一六	
大磯	一八	一一	｜	二九	一八	一一	｜	二九	一五	
二宮	一八	一三	｜	三一	一八	一三	｜	三一	一四	
國府津	三九	二四	｜	六四	三二	二八	｜	六〇	三七	
下曾我	七	六	三	一六	七	六	三	一六	一四	
松田	二〇	一一	｜	三一	一九	一一	｜	三〇	二五	
山北	六三	五九	｜	一二二	六三	五九	｜	一二二	三五	
谷峨	二	二	｜	四	一	二	一	四	四	
駿河	一一	八	｜	一九	一一	八	｜	一九	一一	
足柄	二	二	｜	四	二	二	｜	四	五	
御殿場	二五	二四	｜	四五	二六	一九	｜	四五	七	
富士岡	二	二	｜	四	二	二	｜	四	四	
岩波	三	二	｜	五	三	二	｜	五	一三	
裾野	九	六	一	一六	九	六	一	一六	三	

	梅橋	掛川	堀ノ内	友田	金谷	島田	青島	藤枝	焼津	用宗	静岡	草薙	江尻	興津	由比	蒲原	岩淵	富士川	鈴原	沼津	三島
一	二	二	一	二	二	一	二	一	一	八	一	五	六	九	八	八	一	四	一	一	二
		三	一		一	九		六	四		六		三				〇	四	二	四	四
二	二	一	二	二	二	一	二	一	一	八	一	五	六	九	八	八	一	四	一	一	二
二	七	八	二	七	一	一	二	九	八	五	八	四	二	六	五	五	六	二	九	一	一
						四							七					六		〇	〇
二	七	八	二	七	一	一	二	九	八	五	八	四	二	六	五	五	六	二	九	一	一
						四															
	一	一				一		二		一		四		一	二	四	一				
四	二	二	四	一	一	三	一	二	二	一	一	一	九	一	一	一	一	七	二	二	三
	〇	〇		八	二	三	四	七	二	四	九	三	〇	六	五	七	七	〇	一	四	四
二	二	二	二	一	一	一	二	一	一	八	一	五	六	九	八	八	一	四	一	一	二
																	〇	一	二	五	四
二	七	八	二	七	一	一	二	九	八	五	八	四	二	六	五	五	六	二	九	一	一
						四							七					六		〇	〇
	一	一				一		二		一		四		一	二	八	一				
四	二	二	四	五	一	三	一	二	二	一	一	一	九	一	一	二	一	六	二	二	三
	〇	〇		一	八	三	四	七	二	四	九	三	〇	六	五	一	七	六	一	四	四
二	二	二	二	一	一	一	二	一	一	八	一	五	六	九	八	八	一	四	一	一	二
																				五	四
二	七	八	二	七	一	一	二	九	八	五	八	四	二	六	五	五	六	二	九	一	一
						四							七					六		〇	〇
	一	一	一			一		一		一		四		一	二	八	一				
四	二	二	〇	五	一	三	一	二	二	一	一	一	九	一	一	二	一	六	二	二	三
			二	八	二	三	四	七	二	四	九	三	〇	六	五	一	七	六	一	四	四
	一	一	一			一		二		一		四		一	二	八	一				
	二	三		八	五		九	八	四	三	五	一	〇	六	五	五	八	六	四	七	一	六

	枇杷島	名古屋	熱田	大高	大府	刈谷	安城	岡崎	幸田	蒲郡	御油	豊橋	二川	鷲津	新居町	舞阪天島	高塚	浜松	天龍川	中泉	袋井
一	一二	三一六	三〇	三	二〇	三四	一〇	二八	五	一六	九	五一	六	一〇	七	五	九	七三	一三	一六	一三
	一二		三一	一〇六	二二	二一	八	一八	五	九	五	三八	五	一六	六	四	七	五二	八	九	七
	二四	三一六	六一	一九	四一	五五	一九	四六	一二	二五	一八	八九	一二	一七	一六	一一	一六	一二五	二三	二八	二〇
	一三	三一六	三〇	三	一三	三五	一〇	二八	九	一六	九	五六	五	九	七	五	九	七一	一四	一六	一二
	一二		三一	六	二八	二一	八	一八	五	九	五	三四	五	六	六	四	七	五三	八	九	七
				一〇			一		一		四		一	一	三	二		一	三		
	二四	三一六	六一	一九	四一	五五	一九	四六	一二	二五	一八	九〇	一二	一六	一六	一一	一六	一二四	二三	二八	一九
	二三	二六七	二八	一九	二〇	四	七	七	四	四	四	一一	四	二	九	四	二	三六	六	一二	一三

稻澤	尾張一ノ宮	木曾川	岐阜	穂積	大垣	荒尾	垂井	關ヶ原	柏原	近江長岡	醒ヶ井	米原	彦根	河瀬	稻枝	能登川	安土	近江八幡	篠原	野洲	守山
八三	四八	三一	四六	｜	四二	｜	｜	｜	｜	一	｜	四九	二六	五	八	五	六	一三	五	六	七
三	二七	四四	四二	四	｜	｜	一〇	七	四	五	四	一五四	一二	七	五	五	六	一二	五	五	六
｜	｜	一〇	｜	六	｜	一	五	六	八	七	一〇	｜	｜	九	七	八	七	三	六	一二	一〇
八六	七五	二〇	一〇	七五	八八	一	一五	一四	一二	一三	一四	二〇三	三八	二一	一七	二四	一九	二八	一六	二二	二三
六	五	四八	三二	二	四八	｜	｜	｜	｜	一	｜	二六	三六	｜	｜	八	六	一三	五	六	七
三	二七	四二	四八	四	｜	｜	一〇	七	四	五	四	一六七	一三	六	八	五	六	一二	五	五	六
｜	｜	一〇	｜	六	｜	一	五	六	八	七	一〇	｜	｜	九	七	七	七	三	六	一一	一〇
八六	七五	二〇	一〇	七五	八八	一	一五	一四	一二	一三	一四	二〇三	三九	二一	一七	二三	一九	二八	一六	二二	二三
二二	二七	五五	四二	二四	六〇	二	一八	一五	九	一四	九	四七	八	五	九	七	九	六	一四	一六	九

草津	手原	石部	雲	貴生川	深川	大原市場	祢植	中在家
二〇	三	五	六	一五	六	一	一五	二
一二	三	三	二	九	二	一	八	二
五	一〇	九	九	｜	八	八	五	一
三七	一六	一七	一七	二四	一六	一〇	二八	五
一九	三	四	六	一四	六	一	一五	二
一二	三	三	二	九	二	一	九	二
七	三	九	九	八	八	一	五	二
三八	一六	一五	一二	一二	一二	一〇	一六	六
一二	二	二	一	一五	一二	一	一二	二
東京都還幸	山田行幸	山田行幸	東京都還幸	山田行幸	東京都還幸	山田行幸	東京都還幸	桃山行幸
一九	三	四	六	一四	六	一	一五	二
一二	三	三	二	九	二	一	九	二
七	三	九	九	八	八	一	五	二
三八	一六	一五	一二	一二	一二	一〇	一六	六
一二	二	二	一	一五	一二	一	一二	二
東京都還幸	山田行幸	山田行幸	東京都還幸	山田行幸	東京都還幸	山田行幸	東京都還幸	啟傍行幸
一九	三	四	六	一四	六	一	一五	二
一二	三	三	二	九	二	一	九	二
七	三	九	九	八	八	一	五	二
三八	一六	一五	一二	一二	一二	一〇	一六	六
一二	二	二	一	一五	一二	一	一二	二
東京都還幸	山田行幸	山田行幸	東京都還幸	山田行幸	東京都還幸	山田行幸	東京都還幸	山田行幸

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
加太	六	六	八	二〇	六	六	八	二〇	九	
關	六	六	八	二〇	六	六	八	二〇	二三	
龜山	二九	八	｜	三七	二七	一〇	｜	三七	四四	
下庄	五	五	一四	二四	五	五	一三	二三	三四	
一身田	六	六	六	一八	六	六	六	一八	二四	
津	一一	六	一七	三四	一〇	七	一七	三四	三四	
河漕	一二	五	｜	一七	一二	六	一	一九	一二	
高茶屋	三	五	九	一七	六	二	八	一六	二六	
六軒	九	二	七	一八	九	二	八	一九	三四	
松阪	一六	六	四	二六	一六	六	四	二六	三一	
德和	四	三	八	一五	七	｜	八	一五	一一	
相可口	一四	七	四	二五	一四	七	三	二四	一七	
田丸	五	三	七	一五	六	二二	七	一五	七	
宮川	六	三	一〇	一九	六	三	七	一六	二〇	
山田上口	八	三	五	一六	八	三	五	一六	七	
山田	二七	九	｜	三六	二七	九	｜	三六	六七	
稻荷	一二	六	八	二六	一二	六	八	二六	一四	畝傍行幸
〃	一二	六	八	二六	一二	六	八	二六	一四	桃山行幸
桃山	九	三	二三	三五	九	三	二三	三五	五三	畝傍行幸
〃	九	三	二三	三五	九	三	二三	三五	一三九	桃山行幸
木幡	四	四	七	一五	四	四	七	一五	一五	
宇治	八	四	七	一九	八	四	七	一九	二二	

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
新田	七	二	九	一八	七	二	九	一八	一七
長池	二	｜	一一	一三	一	一	一一	一三	二八
玉水	六	四	八	一八	六	四	八	一八	一四
棚倉	五	二	八	一五	五	二	八	一五	三五
上狛	七	三	九	一九	七	三	九	一九	二二
木津	一八	二三	｜	四一	二〇	二三	｜	四三	四五
奈良	七七	三九	｜	一一六	七七	三九	｜	一一六	二四
京終	九	七	一	一七	九	七	三	一九	三〇
帶解	五	五	七	一七	五	五	七	一七	二〇
櫟本	七	五	六	一八	七	五	六	一八	三八
丹波市	九	五	一〇	二四	九	五	一〇	二四	三六
長柄	｜	｜	六	六	｜	｜	六	六	七
柳本	六	四	九	一九	六	四	八	一八	一六
三輪	六	三	六	一五	六	三	六	一五	一四
櫻井	一三	七	三	二三	一三	七	三	二三	三七
香久山	一	二	二	五	一	二	二	五	八
畝傍	三	二	一八	二三	三	二	一八	二三	三一
原宿	一九	一三	九	四一	一九	一三	九	四一	三八
代々木	一七	五	｜	二二	一七	五	｜	二二	九
新宿	一四〇	一二	｜	一五二	一四〇	一二	｜	一五二	一七〇
大久保	一八	四	｜	二二	一八	四	｜	二二	二〇
東中野	二五	七	｜	三二	二五	七	｜	三二	四六

中野	四八	一八	—	六六	四八	一八	—	六六	二三
高圓寺	二〇	四	—	二四	二〇	四	—	二四	一六
阿佐ケ谷	一五	一三	—	二八	一五	一三	—	二八	一四
荻窪	二三	一六	一	四〇	二三	一六	一	四〇	一四
西荻窪	一一	五	—	一六	一一	五	—	一六	八
吉祥寺	二二	一四	—	三六	二二	一四	—	三六	一九
武藏境	一三	八	二	二三	一三	八	二	二三	一八
武藏小金井	六	五	—	一一	六	五	—	一一	一八
國分寺	四〇	二五	—	六五	四〇	二五	—	六五	一一
國立	六	六	二	一四	六	六	二	一四	八
立川	四二	一三	—	五五	四二	一三	—	五五	二七
日野	五	四	八	一七	五	四	八	一七	一七
豐田	七	五	一四	二六	七	五	一四	二六	三四
八王子	三九	二六	—	六五	三九	二六	—	六五	七五
東淺川	—	—	二二	二二	—	—	二二	二二	五五
計	三、九四一	二、二七八	六三七	六、八五六	三、九五一	二、二八七	六三三	六、八七一	四、四七八

備考　憲兵、警察官及其ノ補助者ノ警備員數ハ本表中行幸ノ節及還幸ノ節ニ區別記載シタルモノノ外總テ同人數トス

第二項　御召列車試運轉ノ際ニ於ケル警備豫行

警備方針及其ノ準備等ニ關シテハ前述ノ通ナルモ之ガ萬全ヲ期センガ爲ニハ其ノ豫行ノ必要ヲ認メ第八回警備係會議ニ於テモ關係官署ノ同意ヲ得共ニ一齊ニ之ヲ行フコトトナリタルヲ以テ御召列車試運轉施行ト同時ニ警備計畫ニ基キ左記ニ依リ各鐵道局ニ於テ停車場ニ於ケル警備ノ豫行ヲ實施セリ殊ニ第二回試運轉施行ノ際ハ構內營業人運送店仲仕等ニ對シテハ御召列車運轉當日ト同樣乘降場其ノ他列車運轉上必要ナル場所ニ立入ラシメザルコトトセリ

東京鐵道局管內

第一回試運轉ノ際ハ關係各驛即チ東京沼津間原宿豐田間各驛ニ於テ警備員ヲ他驛ヨリ助勤セシメズ專ラ自驛員ヲ以テ人繰ヲ爲シ御召列車運轉當日ト同樣ノ警備員ヲ配置シ人員不足ノ爲配置シ得ザル箇所ニハ適當ノ目標ヲ建テ其ノ位置ヲ表示セシムルコトトセリ尤モ御召列車ト行違ヲ爲ス列車電車及運轉途中ニ於テ御召列車ニ追越サルル列車ニ對スル車內ノ警備豫行ハ之ヲ行ハザルコトトセリ

第二回試運轉施行ニ當リテハ行違列車ニ對スル車內警備豫行ヲ除キ關係各驛ニ於テ御召列車運轉當日ノ如ク警備所要員ヲ配置シ完全ナル豫行ヲ行ヒタリ(必要ノ驛ニハ助勤者ヲ派遣セリ)

名古屋鐵道局管內

第一回及第二回試運轉ノ際共關係全區間各驛ニ亘リ警備ノ豫行ヲ爲シタルガ就中左記區間各驛ニ於テハ御召列車運轉當日ト同樣ニ警備員ヲ配置シタリ尤モ之ガ爲自驛々員ノミヲ以テシテハ警備豫行上不充分ナル驛ニ在リテハ宿泊ヲ要セザル範圍ニ於テ他驛ヨリ助勤セシムルノ手配ヲ爲セリ而シテ其ノ他ノ各驛ニ於テ警備員ノ配置ヲ缺ク箇所ニハ白色旗ヲ以テ其ノ位置ヲ表示スルノ方法ニ出デタリ

關ケ原米原間　第一回試運轉當日(十月十四日)
島田堀ノ內間　同　(十月十九日)
鷲津豐橋間　第二回試運轉當日(十月二十二日)
名古屋米原間　同　(十月二十三日)

原　熱田間　同　（十月二十八日）
八王子　東淺川間　同　（十一月一日）

大阪鐵道局管内

第一回及第二回試運轉ノ際共大體一運輸事務所管内一箇所ヲ運輸事務所長ニ於テ選定シ宿泊ヲ要セザル範圍内ニ於テ必要ノ箇所ニ助勤者ヲ派遣シ御召列車運轉當日ト同樣警備員ヲ配置シ其ノ他ノ各驛ニ於テハ自驛々員ノミヲ以テ警備員ニ當テ配置員ヲ缺ク箇所ニハ他鐵道局ト同樣適當ノ目標ヲ以テ其ノ位置ヲ表示セリ

第四節　保線關係

第一項　警備員配置

御召列車運轉區間全線ニ亘リ御召列車御通過三時間前ヨリ約二〇〇米毎ニ警備員ヲ配置スルコトトセルモ踏切道又ハ橋梁附近ニ接近シテ配置セラルルモノハ努メテ之ヲ橋梁踏切位置ニ配置セリ而シテ其ノ佇立位置ハ透視上其ノ他特殊ノ事情アル場合ヲ除キ御召列車進行方向ノ左側トシ各驛、事務所境界等ニハ雇員以上ノ保線關係員ヲ適當ニ配置シ各分擔區域ノ警備監督竝連絡ニ便セシメタリ

隧道、橋梁及特ニ必要ト認ムル建造物竝工事現場等ニ對シテハ前夜ヨリ警備員ヲ配置シ之ヲ監視セシメタリ

配置圖添附

第二項　警備員執務方

線路警備員ハ御召列車御通過三時間前ヨリ所定ノ位置ニ就カシメ隣接警備員トノ連絡ニ注意シ赤色信號旗及線路用器具各種ノモノヲ適當ニ携帶セシメ器具ハ御召列車御通過前佇立位置附近ニ整置シ赤色信號旗ハ捲キタルママ把持シ隧道内ニ於テハ手信號燈ヲ携帶セシムル又信號用雷管ハ携帶セシメザルコトトセリ從ツテ御召列車御通過三時間前ヨリ御通過迄ノ間萬一事故アル場合ト雖信號用雷管ハ絶對ニ使用セザルコトトナセリ

雨天ノ際ハ御通過三十分前迄ハ雨衣着用差支ナキモ其ノ以後ハ之ヲ脫シ適當ニ取片付置クコトトセリ

御召列車御通過ノ際ハ線路ニ直面直立シ目迎目送セシメタリ

第三項　線路ノ夜巡廻

御召列車運轉十日前ヨリ當日迄別表ノ通毎夜線路夜巡廻ヲナセリ

第四項　工事現場ノ取締

改良費作業費支辨工事ヲ通ジ軌條更換及枕木更換ハ九月末日迄ニ工事ヲ打切リ殘部ハ大禮終了後ニ行フコトトシ砂利撒布ハ十月末日迄ニ工事ヲ終了セリ

其ノ他ノ工事ニシテ線路附近ニテ施行中ノモノハ前日夕刻迄ニ取片付ヲ了シ當日ハ全然中止セシメタリ

工事現場ハ工事現場員ニ於テ警戒ニ任ジ勞働者ノ數ハ豫メ取調置キ警察官ノ監視ニ委ネタリ

火藥類取締ニ關シ左記ノ通局所へ通牒ヲナセリ

火藥類取締ニ關スル件

今秋擧行セラルベキ御大典ニ關シテハ各般ニ亘リ萬遺漏ナク御手配中ト存候處尙直轄直營又ハ請負ノ別ナク凡テ工事ニ使用スル火藥類ノ取締ニ就テハ貴局所ニ於テ一定ノ取締手續ヲ制定スル等特ニ嚴重ナル方法ヲ以テ絶對ニ火藥事故ヲ生ゼザル樣十分御配慮相成度

第五項　御召列車試運轉ノ際警備豫行

線路警備ニ關シテハ各鐵道局ニテ關係地方廳、師團司令部及憲兵隊ト打合セノ上警備員ノ配置ヲ決定シタルヲ以テ御召列車試運轉ノ際之ニ基キ豫行演習ヲ行ヒ警備員ノ配置服裝、姿勢等ニ於テ良好ナルヲ認メタリ只警官、在鄉軍人青年團等ノ佇立位置其ノ他ニシテ適當ナラザルモノアリタルニ付關係當事者ト打合セノ上萬遺漏ナキヲ期セリ

第五節　電氣關係

第一項　通信、信號、保安設備ニ關スル警備

第一　警備方法

(イ)　一般事項

關係各鐵道局共通ニ行フベキ警備事項トシテ本省ニ於テ電氣局長ヲ始メ電氣局各課長竝關係各鐵道局電氣課長會議ヲ催シ協議ノ結果本省ヨリ通牒シタル警備事項次ノ如シ

御召列車警護ニ關スル通信信號關係打合要項

一　通信係員ノ警備

(一)　自動ノ閉塞信號機ニハ看守ノタメ閉塞機手閉塞機助手ヲ含ム以下同ジ又ハ通信工手一名宛ヲ配置スルコト

(二)　通票閉塞器電氣轉轍器及電氣ニヨル第一種聯動裝置ヲ設備シタル驛ニハ各驛ニ其ノ他ハ少クモ一驛隔ニ閉塞機助手一名宛ヲ配置シ警備セシムルコト

(三)　電話交換機五座席以內ノ驛ニハ通信工手二名宛、六座席以上ノ驛ニハ同三名宛ヲ配置シ警備セシムルコト

(四)　京都御所、宮內省其ノ他重要ナル電話機設置箇所及隣接電話交換機設置驛相互間二十哩以上ナルトキハ二十哩每ニ中間適當ノ驛ニ通信工手一名宛ヲ配置シ警備セシムルコト

(五)　通信區及通信區助役詰所ニハ閉塞機手及通信工手若干名ヲ配置シ警備セシムルコト

(六)　搬送式電話裝置ノ端局及中繼局裝置箇所ニハ適任者一名宛ヲ配置シ警備セシムルコト

(七)　各保線事務所所在驛ニハ通信回線試驗員一名宛ヲ配置シ警備セシムルコト

(八)　現場助役ハ御召列車ガ受持區內ノ運轉三時間前ヨリ次ノ通信區助役受持區域內ノ運轉ヲ終ル迄助役詰所ニ在リテ係員ヲ監督シ萬一事故發生シタル場合ニハ其手配ニ遺憾ナカラシムルコト

(九)　通信區主任ハ御召列車ガ受持區內ノ運轉三時間前ヨリ次ノ通信區管內ノ運轉ヲ終ルマデ所定ノ場所ニ在リテ係員ヲ監督シ萬一事故發生シタル場合ニハ其手配ニ遺憾ナカラシムルコト

(一〇)　通信區助役又ハ技術員ヲ指定シ適當ナル列車ニ乘込マシメ指導列車ガ各助役受持區間ノ運轉一時間前迄ニ其受持沿線ノ電氣通信信號保安設備及其警備ノ狀況ヲ監察セシムルコト

(一一)　指導列車ニ乘務スル助役ハ自動信號關係ノ本區助役ヲ以テ充ルコト

(一二)　御召列車ニ乘務スル通信工手ハ一保線事務所管內ヲ通ジテ乘務シ指導列車及特別儀裝馬車輸送列車ニ乘務スル通信工手ハ一通信區管內ヲ通ジテ乘務スルコト

二　御召列車乘務通信工手警備心得

(一三)　御召列車ニ乘務スル通信工手ハ左記各號ニヨリ警備スルコト

(一四)　通信工手ハ携帶電話機、ペンチ竝當該區間ノ電話回線圖、電話呼出符號表及電話線架涉位置圖ヲ携帶シ電話線路ノ位置等ヲ熟知シ置クコト

(一五)　通信工手ノ携帶スル電話機ニ對シ當日出發前自身ニ於テ通話試驗ヲナシ置クコト

(一六) 通信工手ノ乘込位置ハ別ニ定ムル所ニヨリ服裝ハ法被ヲ着用セザルコト

(一七) 電話機ヲ接續スル必要起リタルトキハ先ヅ携帶電話機ヲ車室内ニ裝置シ之ヲ兩隣接驛ヲ呼出スニ適當ナル回線ニ接續スルコト

(一八) 前項ノ外局長又ハ運輸事務所長ノ命アルトキハ前項ノ携帶電話機ヲ他ノ適當ナル電話回線ニ切換フル等必要ナル手配ヲナスコト

(一九) 前二項ニ使用スル**ラバー**線ハ車電手保管ノモノヲ使用スルコト

(二〇) 通信工手ハ電話機ノ接續ヲ了リタルトキハ常ニ電話機ニ附添ヒ障碍ヲ起サザル樣手當ヲナスト共ニ呼出又ハ應答ノ任ニ當リ電話機ヲ有效ニ使用セシムル樣努力スルコト

三　指導列車及特別儀裝馬車輸送列車乘務通信工手警備心得

(二一) 指導列車及特別儀裝馬車輸送列車ニ乘務スル通信工手ハ左記各項ニヨリ警備スルコト

(二二) 通信工手ハ携帶電話機電話用二子撚**ラバー**線(二百尺ヲ附ス)**ベンチ**竝ニ當該區間ノ電話回線圖、電話呼出符號表及電話線架渉位置圖ヲ携帶シ電話線路ノ位置ヲ熟知シ置クコト

(二三) 通信工手ハ法被ヲ着用スルコト

(二四) 其他ハ御召列車ニ乘車スル通信工手ニ準ジ警備スルコト

四　自動信號機看守者ノ警護心得

(二五) 自動閉塞信號機ニ看守者トシテ配置サレタル通信係員ハ左記各項ニヨリ警備スルコト

(二六) 看守者ハ綠色手信號旗、携帶電話機(接續用導線ヲ附ス)**ラユーズ**、綿**テープ**、**ベンチ**、**スパナー**、警備者配置表、御召列車指導列車其ノ他關係列車ノ發著時刻表、關係電話呼出符號表及鞄ヲ携帶スルコト

携帶電話機ハ當日出發前自身ニ於テ通話試驗ヲナナシ置クコト

(二七) 看守ニ當ル閉塞機手ハ制服卷脚袢ヲ附スルコト

通信工手ハ法被ヲ着用スルコト

(二八) 看守者ハ御召列車ノ通過約三時間前ニ現場ニ到著シ關係電氣信號設備ニ異狀ナキヤ否ヤヲ點檢シ指導列車ニ先發スル二個列車ニ對シ信號機動作ノ正當ナルコトヲ確認スルコト但シ繼電器箱ハ鎖錠シ置クコト

(二九) 看守者指定地ニ到著シタル後豫メ定メタル時刻ニ携帶電話機ヲ接續シ所要電話回線ノ通話試驗ヲナシ置クコト

(三〇) 看守者ハ指導列車ニ先發スル直前ノ列車ノ少クモ後方停車場出發又ハ通過時刻ノ十分前迄ニ次項ノ指定位置ニ就クコト

(三一) 看守者ハ信號機ノ存在スル側ニ在リテ其前面信號機ノ高サニ等シキ距離ヲ隔テ列車ノ通過スル線路ニ向テ顏面ヲ信號機ニ向ケ之ヲ注視シ居ルコト　但シ運轉通報其ノ他ノ爲メ必要ナル場合ハ此限ニアラズ

信號建設位置ガ高所ニ在ルトキハ差支ナキ限リ低所又ハ後方ニ在リテ看守スルコト

(三二) 看守者ハ前項ノ位置ニ在ル間其携帶セル電話機ハ右側足許ニ置キ**フユーズ**、**ベンチ**及**スパナー**ハ之ヲ鞄ニ納メ信號機ノ蔭ニ置キ手信號旗ハ之ヲ捲キ左手ヲ以テ竿ヲ水平ニ柄ヲ前ニシテ把持シ手信號現示ノ必要アルトキハ右手ヲ以テ現示スルコト

(三三) 御召列車接近シ來タルトキハ看守者ハ姿勢ヲ正シ機關車ガ該信號機ヲ通過シタル後顏ヲ列車ノ方ニ向ケテ目送スルコト

(三四) 看守者ハ御召列車、指導列車及指導列車ニ先發スル直前ノ列車ガ受持ノ信號機ヲ無事通過シ終

リタルトキハ該信號機ガ停止現示トナレルコトヲ確認シタル後之ヲ次ノ後方ノ看守者又ハ信號掛ニ通報スルコト此場合自己ノ信號機番號ヲ通知シ對手者ノ信號機番號又ハ驛名ヲ確メ且ツ復唱ヲ求ムルコト

前項ノ通知ヲ終リタル後看守者ハ受話機ヲ其儘耳ニアテ前方信號機看守者ヨリ通報ヲ待ツコト

(三五) 前第一項ノ列車ガ次ノ前方ノ信號機ヲ通過スベキ豫定ノ時刻ヲ經過スルモ前方ノ看守者又ハ信號掛ヨリ何等ノ通知ナキトキハ之ヲ問合ハスルコト若シ應答ナキトキハ其ノ次ノ看守者ニ問合ハスルコト

(三六) 列車ガ無事通過シ終リタルコトノ通報ヲ受ケタル後方ノ看守者ハ受持ノ信號機ガ停止信號現示ノ儘ナルトキハ後續スル前記指定ノ列車ニ對シ信號機不能ノ取扱トシテ該箇所ニ於テ進行手信號ヲ現示スルコト但シ指導列車ガ受持ノ信號機ノ正當現示ニヨリテ通過シタル後前方ノ看守者ヨリ同列車無事通過ノ通報ヲ受ケタル場合ニ於テ受持ノ信號機ガ停止信號現示ノ儘ナルトキハ停電ニヨルコト明ナル場合ヲ除クノ外御召列車ニ對シ代用ノ手信號ヲ現示セザルコト

(三七) 看守者ハ急ヲ要スル報告其他打合セノ爲メ他ノ警備員ヨリ電話ノ使用ヲ要求セラレタルトキハ支障ナキ限リ之ニ應ジ其便ヲ計ルコト

(三八) 看守者ハ指定セラレタル者ノ外鐵道器函ヲ開カザルコト若シ開箱ノ必要起リタルトキハ指定者ニ通報スルコト

(三九) 看守者ハ外套ノ類ヲ着用セザルコト但シ降雨又ハ降雪甚シキ場合ニハ指定ノ雨衣ヲ着用スルヲ得ルモ御召列車通過ノ際ハ之ヲ脫スルコト

(四〇) 看守者ハ御召列車ガ前方停車場又ハ信號所通過後主任ノ指定シタル驛ニ引揚ゲ他ノ警備員ト共ニ警備スルコト

五　各驛所ニ警備スル通信係員ハ左記各項ニヨリ警備スルコト

(四一) 第二項第三項第五項ニヨリ驛所ニ警備スル通信係員ハ左記各項ニヨリ警備心得

(四二) 閉塞機手及通信工手ハ携帶電話機接續用導線ヲ附ス)應急修理器具材料、警備者配置表、御召列車、指導列車及指導列車ニ先發スル直前ノ列車ノ著發時刻表及關係電話呼出符號表等ヲ携帶スルコト

携帶電話機ハ當日出發前自身ニ於テ通話試驗ヲナシ置クコト

(四三) 驛所警備者ハ制服又ハ法被ヲ着用スルコト

(四四) 驛所警備者ハ御召列車通過ノ約三時間前ニ指定ノ驛所ニ到著シ關係電氣通信信號保安設備ニ異狀ナキヤ否ヤヲ點檢シ整備シ置クコト

(四五) 驛所警備者ハ指導列車通過ノ十分前ヨリ御召列車ノ通過シ終ルマデ夫々指定セラレタル信號扱所内閉塞機ノ附近又ハ電話交換室ニ居ルコト

(四六) 驛所警備者ハ御召列車接近シ來タルトキハ姿勢ヲ正シ居ルコト

(四七) 構内ノ電氣通信信號保安設備ニ故障アルコトヲ知リタルトキハ之レガ修理ニ努力スルコト但シ御召列車ニ支障スル故障間ニ於テ故障アルコトヲ知リタルトキハ直ニ之ヲ修理シ隣接又ハ其中ニアラザルトキハ作業ヲ中止シ指導列車ヨリ御召列車通過マデ前項ノ位置ニ就クコト若シ其位置ニ到著シ能ハザルトキハ適當ノ位置ニ在リテ姿勢ヲ正シ居ルコト

(四八) 驛所警備員ハ電氣通信信號保安設備ニ故障アルコトヲ知リタルトキハ受持ノ如何ヲ問ハズ各關係者ト協力シ最善ノ努力ヲ拂ヒ復舊ニ努ムルコト

(四九) 驛所警備者ハ御召列車ガ次ノ助役受持區域内運轉ヲ終ルマデ其驛所ニ在リテ警備シ其後主任

ノ指定スル驛ニ引キ上グルコト

六　其他警備者ノ警備心得

（五〇）第四及第六項ニヨリ驛所ニ警備スル通信係員ハ左記各項ニヨリ警備スルコト

（五一）各助役詰所ニハ携帯電話器若干箇及應急修理ニ要スル機械器具材料ヲ非常用トシテ準備シ置クコト

（五二）主任ノ必要ト認メタル警備者ニハ警備者配置表、御召列車、指導列車及指導列車ニ先發スル直前ノ列車ノ著發時刻表其ノ他必要ト認ムルモノヲ携帯セシムルコト

（五三）警備者ハ御召列車通過又ハ助役受持區域内運轉三時間前ニ指定ノ場所ニ到著スルコト

（五四）警備者ハ指導列車通過ノ十分前ヨリ御召列車ガ通過シ終ルマデ夫々指定セラレタル驛所又ハ詰所内ニ居ルコト

（五五）御召列車接近シ來ルトキハ姿勢ヲ正シ居ルコト

（五六）第四項ノ警備者ハ主任及助役ノ命ニヨリ何時ニテモ出動シ得ル様準備シ居ルコト

（五七）警備者ハ御召列車ガ次ノ助役受持區域内ノ運轉ヲ終ルマデ其驛所又ハ詰所内ニアリテ警備シ其後主任ノ指定スル驛ニ引キ揚グルコト

（五八）省外通信線路ニ對シテモ關係箇所ニ照會シ整備ニ關シ遺憾ナカラシムルコト

（五九）通信係員ハ御大禮期間中ハ特ニ電氣通信信號保安設備ノ完全ヲ期スル爲メ何時ニテモ應召シ得ル様心掛クベシ

七　御召列車警護自動信號打合電話標準圖

御召列車警護自動信號打合電話標準圖

驛長室又ハ信號扱所	自動閉塞信號機	場内信號機	自動閉塞信號機
（右回線ニ同）			（左回線ニ同）

合線ニ手合不ヨ圖可能ノ場ノ電話他合打回

（ロ）東鐵ニ於ケル通信信號關係警備事項附圖電第六圖參照）

東京鐵道局管内ニ於ケル通信信號關係ノ警備方法其ノ他ニ就テハ本省ヨリ通牒セラレタル警備指示事項ニ基キ局電氣課ニ於テ之ヲ定メ關係保線事務所通信區等ニ於テハ特別ノ警備心得ノ如キモノヲ制定セズ

一　通信係員ノ警備方法

（一）擔當區域ヲ有スル助役ハ御召列車ガ受持區域ヲ運轉スル三時間前ヨリ次ノ通信區助役受持區域内ノ運轉ヲ終ルマデ助役詰所ニ在リテ係員ヲ監督シ萬一事故發生シタル場合ニハ其手配ヲ遺憾ナ

カラシムルコト

(一)　通信區主任ハ御召列車ガ受持區域内ヲ運轉スル三時間前ヨリ次ノ通信區管内ノ運轉ヲ終ルマデ通信區ニ在リテ係員ヲ監督シ萬一事故發生シタル場合ニハ其ノ手配ニ遺憾ナカラシムルコト

(二)　適當ナル列車ニ保線事務所電氣掛員及關係本區助役又ハ技術員各一名ヲ乘込マシメ指導列車ガ各助役受持區間ノ運轉一時間前マデニ其沿線ノ電氣通信信號保安設備及其警備ノ狀況ヲ監察セシムルコト

(四)　指導列車ニハ自動閉塞式施行區間ニ限リ一通信區管内ヲ通ジテ一名宛信號關係ノ本區助役ヲ乘務セシムルコト

(五)　御召列車ニハ一保線事務所管内ヲ通ジテ一名宛通信工手ヲ乘務セシメ指導列車及特別儀裝馬車輸送列車ハ一通信區管内ヲ通ジテ通信工手一名宛乘務セシムルコト

二　御召列車乘務通信工手ノ警備方法

(六)　御召列車ニ乘務スル通信工手ハ左記各項ニヨリ警備スルコト

(七)　通信工手ノ乘込位置ハ別ニ定ムル所ニヨリ服裝ハ法被ヲ着用セザルコト

(八)　通信工手携帶電話機、**ペンチ**、捻子廻シ竝當該區間ノ電話回線圖電話呼出符號表及電話線架涉位置圖ヲ携帶シ電話線路ノ位置等ヲ熟知シ置クコト

(九)　通信工手ハ携帶スル電話機ニ對シ當日出發前自身ニ於テ通話試驗ヲナシ置クコト

(一〇)　電話機ヲ接續スル必要起リタルトキハ先ヅ携帶電話機ヲ車室内ニ裝置シ之ヲ兩隣接驛ヲ呼出シ得ルニ適當ナル回線ニ接續スルコト

(一一)　前項ノ外局長及運輸事務所長ノ命アルトキハ前項ノ携帶電話機ヲ他ノ適當ナル電話回線ニ切換フル等其ノ他必要ナル手配ヲナスコト

(一二)　前二項ニ使用スル**ラバー**線ハ車電手保管ノモノヲ使用スルコト

(一三)　通信工手ハ電話機ノ使用ヲ了リタルトキハ常ニ電話機ニ附添ヒ障碍ヲ起サヌ樣手當ヲナスト共ニ呼出又ハ應答ノ任ニ當リ電話機ヲ有効ニ使用セシムル樣努力スルコト

三　指導列車及特別儀裝馬車輸送列車乘務通信工手ノ警備方法

(一四)　指導列車特別儀裝馬車輸送列車ニ乘務スル通信工手ハ左記各項ニヨリ警備スルコト

(一五)　通信工手ノ乘込位置ハ別ニ定ムル所ニヨリ服裝ハ法被ヲ着用セザルコト

(一六)　通信工手ハ携帶電話機(電話用二子撚**ラバー**線六十米ヲ附ス)**ペンチ**、捻子廻シ竝當該區間ノ電話回線圖電話呼出符號表及電話線架涉位置圖ヲ携帶シ電話線路ノ位置等ヲ熟知シ置クコト

(一七)　其ノ他ハ御召列車ニ乘務スル通信工手ニ準ジ警備スルコト

四　自動閉塞信號機看守者ノ警備方法

(一八)　自動閉塞信號機ニ看守者トシテ配置セラレタル通信係員ハ左記各項ニヨリ警備スルコト

(一九)　看守ニ當ル閉塞機手ハ制服及卷脚袢ヲ附スルコト通信工手ハ法被ヲ着用スルコト

(二〇)　看守者ハ綠色手信號旗携帶電話機接續用導線ヲ附ス)

フユーズ綿**テープ**、**ペンチ**、**スパナー**、捻子廻シ、警備者配置表(御召列車、指導列車、其ノ他關係列車ノ著發時刻表關係電話呼出符號表及鞄ヲ携帶スルコト

携帶電話機ハ當日出發前自身ニ於テ通話試驗ヲナシ置クコト

(二一)　御召列車運轉當日ハ器具函及信號燈函ヲ鎖錠シ置クコト但シ障碍ノ爲機器ノ修理點檢ノ必要

ヲ認メタル場合ハ指導列車ニ先發スル直前ノ列車ノ通過前迄ニ限リ指定セラレタルモノニ於テ開扉ノ上適當ノ處置ヲ講ジ該列車通過後ハ開扉セザルコト

(二二)　看守者ハ御召列車通過ノ約三時間前ニ現場ニ到著シ關係電氣信號設備ニ異狀ナキヤ否ヤヲ點檢シ指導列車ニ先發スル二箇列車ニ對シ信號機動作ノ正當ナルコトヲ確認スルコト

(二三)　看守者指定地ニ到著シタル後豫メ定メタル時刻ニ携帶電話機ヲ接續シ所用電話回線ノ通話試驗ヲナシ置クコト

(二四)　看守者ハ指導列車ニ先發スル直前ノ列車ノ少クモ後方停車場出發又ハ通過時刻十分前ニ次項ノ指定位置ニ著クコト

(二五)　看守者ハ信號機ノ存在スル側ニ在リテ其前面信號機ノ高サニ等シキ距離ヲ隔テ列車ノ通過スル線路ニ向ツテ直立シ顏面ヲ信號機ニ向ケ之ヲ注視シ居ルコト但シ運轉通報其ノ他ノ爲メ必要ナル場合ハ此限リニアラズ

(二六)　看守者ハ前項ノ位置ニアル間其携帶セル電話機ハ右側足許ニ置キ**フユーズ、綿テープ、ペンチ、ス**

パナー捻子廻シハ之ヲ鞄ニ納メ信號機ノ蔭ニ置キ手信號旗ハ之ヲ巻キ左手ヲ以テ竿ヲ水平ニ柄ヲ前ニシテ把持シ手信號現示ノ必要アルトキハ右手ヲ以テ現示スルコト

(二七)　御召列車接近シ來ルトキハ看守者ハ姿勢ヲ正シ機關車ガ該信號機ヲ通過シタル後顏ヲ列車ノ方ニ向ケテ目送スルコト

(二八)　看守者ハ指導列車ニ先發スル直前ノ列車、指導列車及御召列車ガ受持ノ信號機ヲ無事通過シ終リタルトキハ該信號機ガ停止信號ヲ現示セルコトヲ確認シタル後之ヲ次ノ後方ノ看守者又ハ信號掛ニ通報スルコト此場合自己ノ信號機番號ヲ通知シ對手者ノ信號機番號又ハ驛名ヲ確メ且ツ復唱ヲ求ムルコト

前項ノ通知ヲ終リタル後看守者ハ電話機ヲ其儘耳ニアテ前方信號機看守者又ハ信號掛ヨリノ通報ヲ待ツコト

○註　場内及出發信號機ニ關スル通報ハ信號掛トノ間ニ於テ行フモノトス

(二九)　前項列車ガ次ノ前方ノ信號機ヲ通過スベキ豫定時刻ヲ經過スルモ前方ノ看守又ハ信號掛ヨリ何等ノ通知ナキトキハ之ヲ問合スコト若シ應答ナキトキハ通話設備ナキ場合ヲ除クノ外其次ノ看守者又ハ信號掛ニ問合スコト

(三〇)　看守者ハ前方看守者ヨリ先行列車ガ無事通過シ終リタルコトノ通報ヲ受ケタルトキ受持信號機ガ停止信號現示ノ儘ナル場合ニハ後續スル指導列車又ハ御召列車ニ對シ信號機不良ノ取扱トシテ該箇所ニ於テ進行手信號ヲ現示スルコト但シ指導列車ガ受持ノ信號機ノ正當現示ニヨリテ通過シタル後前方ノ看守者ヨリ同列車無事通過ノ通報ヲ受ケタル場合ニ於テ受持信號機ガ停電等ノ原因ニ依リ滅燈セルコト明カナル場合ヲ除クノ外御召列車ニ對シ代用ノ手信號ヲ現示セザルコト

(三一)　看守者ハ急ヲ要スル報告其ノ他打合セノ爲メ他ノ警備員ヨリ電話ノ使用ヲ要求セラレタルトキハ支障ナキ限リ之ニ應ジ其便ヲ計ルコト

(三二)　看守者外套ノ類ヲ着用セザルコト但シ降雨又ハ降雪甚シキ場合ニハ指定ノ雨衣ヲ着用スルヲ得ルモ御召列車通過ノ十分前ヨリ之ヲ脫シテ折疊シ信號機ノ蔭鞄ノ下ニ置クコト

(三三)　看守者ハ御召列車ガ前方停車場通過後主任ノ指定シタル驛所ニ引キ揚ゲ其警備員ト共ニ警備スルコト

五　各驛所ニ警備スル通信係員ノ警備方法

(三四) 御召列車運轉ニ關係アル信號扱所、電話交換機設置驛、宮内省内(鐵道電話設置箇所)竝ニ主要驛、搬送式電話機設置箇所ニ警備スル通信係員ハ左記各項ニ依リテ警備スルコト

(三五) 驛所警備者ハ制服又ハ法被ヲ着用スルコト

(三六) 閉塞機手及通信工手ハ**フユーズ**、綿**テープ**、**スパナー**、**ペンチ**、**プレキシブルジヨイント**線、捻子廻シ等應急修理器具材料、警備者配置表、御召列車、指導列車及指導列車ニ先發スル直前ノ列車ノ著發時刻表及關係電話呼出符號表等ヲ携帶スルコト

(三七) 驛所警備者ハ左記ニヨリ驛所ニ到著シ關係電氣通信信號保安設備ニ異狀ナキヤ否ヤヲ點檢シ指導列車通過十分前ヨリ指定ノ位置ニ著キ御召列車運轉ニ支障スル障碍修理ノ場合ノ外乘降場ニ入リ又ハ指定ノ位置ヨリ離ルベカラズ

(一) 御召列車運轉ニ關係アル信號扱所ノ警備者　御召列車ノ通過ノ約三時間前

(二) 電話交換機設置驛、宮内省内鐵道電話設置箇所、搬送式電話器設置箇所ノ警備者　御召列車ガ受持區域内運轉約三時間前

(三八) 御召列車運轉ニ關係アル信號扱所ノ警備者ハ指導列車ニ先發スル直前ノ列車ガ少クモ後方停車場出發又ハ通過時刻ノ十分前迄ニ聯動機又ハ閉塞機ノ附近ニ居ルコト

(三九) 驛所警備者ハ御召列車接近シ來ルトキハ姿勢ヲ正シ其位置ニ在ルコト

(四〇) 驛所警備者ハ左記時間中其驛所ニ在リテ警備シ其後ハ主任ノ指定スル驛所ニ居ルコト

(一) 第三七項第一號ノ警備者　御召列車ガ前方停車場通過後迄

(二) 第三七項第二號ノ警備者　御召列車ガ當該通信區管内ノ運轉ヲ終ル迄

(四一) 御召列車ヲ運轉スル線路ノ電氣轉轍機ハ指導列車運轉時刻ノ十分前ヨリ御召列車通過後マデ爲念電動機回路ヲ遮斷シ置クコト

(四二) 構内ノ電氣通信信號保安設備ニ故障アルコトヲ知リタルトキハ直ニ之ヲ修理シ隣接又ハ其中間ニ於テ故障アルコトヲ知リタルトキハ之ガ修理ニ努力スルコト、但シ御召列車ニ支障スル故障ニアラザルトキハ指導列車ニ先發スル直前ノ列車通過前ニ作業ヲ中止シ指導列車ヨリ御召列車通過マデ第三七項ノ位置ニ著クコト又信號現示ニ關スルモノハ第二一項ニヨルコト

(四三) 驛所警備者ハ電氣通信信號保安設備ニ故障アルコトヲ知リタルトキハ受持ノ如何ヲ問ハズ各關係者ト協力シ最善ノ努力ヲ拂ヒ復舊ニ努ムルコト

六　其ノ他警備者ノ警備方法

(四四) 通信區助役閉塞機手及通信工手ノ各詰所竝ニ東京通信所、新宿横濱、國府津各交換室ニ警備スルコト

(四五) 主任ノ必要ト認メタル警備者ニハ警備者配置表、御召列車、指導列車及指導列車ニ先發スル直前ノ列車ノ著發時刻表、關係電話呼出符號表其ノ他必要ト認メタルモノヲ携帶セシムルコト

(四六) 警備者ハ御召列車ガ助役受持區域内運轉三時間前ニ指定ノ場所ニ到著シ御召列車運轉ニ支障スル障碍修理ノ場合ノ外指導列車通過ノ十分前ヨリ指定ノ詰所又ハ驛所内ニ詰メ乘降場ニ入リ又ハ詰所外ニ出ツベカラズ

(四七) 警備者ハ御召列車ガ當該通信區管内ノ運轉ヲ終ルマデ其驛所内ニアリテ警備シ其後主任ノ指定スル驛所ニ居ルコト

(四八) 御召列車接近シ來ルトキハ姿勢ヲ正シ其位置ニ在ルコト

(四九) 通信區助役閉塞機手及通信工手ノ各詰所ノ警備者ハ主任及助役ノ命ニヨリ何時ニテモ出動シ

得ル様準備シ得ルコト

七　非常用品ノ準備

（五〇）左記各項ニヨリ非常用品ヲ整備シ置クコト

（五一）品川程ヶ谷國府津山北沼津新宿各驛ニ配置セラレタル非常用車ニハ左記ノ應急材料ヲ搭載シ置クコト

記

一	四、五粍鐵線	五〇瓩
一	電話用二子撚**ラバー**線	一、〇〇〇米
一	綿**テープ**	五　巻
一	腕木八線用	一〇本
一	**シヨベル**	二　挺
一	鶴嘴	二　挺
一	**パンネル**	二　挺
一	張線器八吋	五　挺
一	鋸兩齒	二　挺
一	三、五粍鐵線	五〇瓩
一	麻繩徑五分	三〇米
一	同　三分	二〇米
一	玄能	二　挺

一	電話機	三　座
一	乾電池	六　個

（五二）御召列車運轉當日品川、川崎、横濱、大船、國府津、沼津、新宿、國分寺ニ**モーターカー**ヲ配置シ左記ノ應急材料ヲ搭載シ即時出發シ得ル様準備シ置クコト

記

一	四、五粍鐵線	二〇瓩
一	三、五粍鐵線	二〇瓩
一	腕木八線用	五　本
一	**シヨベル**	二　挺
一	**パンネル**	一　挺
一	張線器八吋	三　挺
一	電話機	一　座
一	電話用二子撚**ラバー**線	五〇〇米
一	綿**テープ**	二　巻
一	麻繩徑三分	二〇米
一	鶴嘴	二　挺
一	玄能	二　挺
一	鋸兩齒	二　挺
一	乾電池	二　個

(五三) 指導列車及特別仮装馬車輸送列車ニハ非常用品トシテ左記物品ヲ搭載シ乗務通信工手之ヲ保管ス

一	一	電話用二子撚ラバー線	三〇〇米
一	一	綿テープ	一巻
一	一	麻繩径三分	一五米

(五四) 通信匿助役閉塞機手及通信工手各詰所ニハ左記物品ヲ準備シ置クコト

一	一	携帯電話機	若干
一	一	電話用二子撚ラバー線	一五〇米

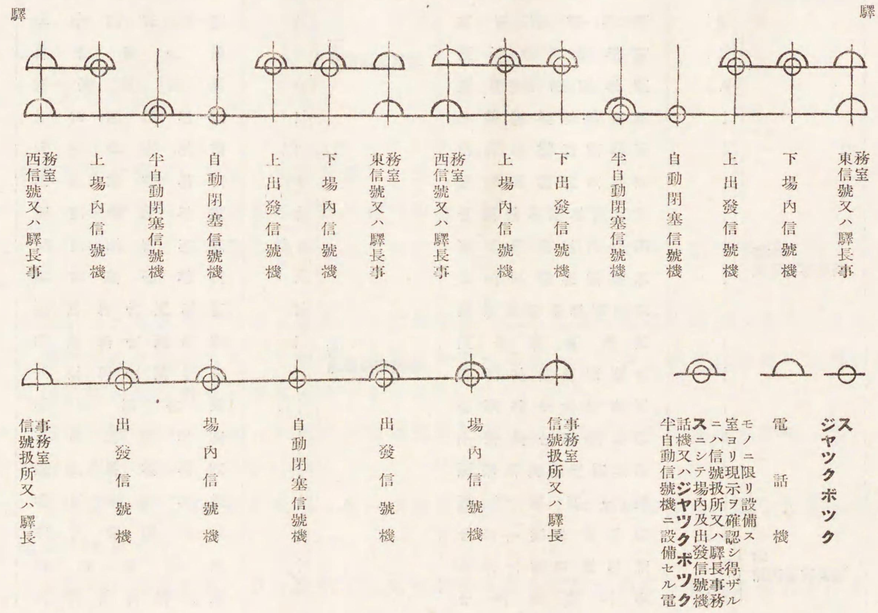
八　其ノ他警備上ノ注意事項

(五五) 通信係員ハ御大礼期間中ハ特ニ電氣通信信號保安設備ノ完全ヲ期スルタメ最善ノ注意ヲ拂ヒ出張外泊等ハ成可クノ之ヲ避ケ何時ニテモ應召シ得ル樣心掛クベシ

(五六) 省外通信線路ニ對シテモ關係箇所ニ照會シ整備シ遺憾ナカラシムルコト

(五七) 自動及半自動閉塞信號機ニ設置スベキ電話機ハ左圖ノ如キ接續トナスヲ基準トスルコト

御召列車警護自動信號打合電話標準圖



九　東鐵管內御召列車運轉區間ニ於ケル拂帶電話機ノ配備狀態

配備箇所	數量	記事
東京車掌駐在所	三〇	
新橋保線區	一	
汐留保線助役	一	
品川保線助役	一	
蒲田保線助役	一	
川崎保線助役	一	
品川電力區	二一	
東京電力區助役	二	新橋通信區所管
品川電力區助役	二	
蒲田電力區助役	二	
鶴見電力助役	二	
汐留通信助役	一七	
汐留自動助役	七	
品川通信助役	二九	
品川自動助役	一二	
本省通信助役	二	
新宿保線區	七	
新宿電力區	一七	新宿通信區所管
山手通信助役	六	
横濱通信助役詰所	一〇	
横濱自動助役詰所	一四	
中央通信助役	一六	
中央上部自動助役	三	新宿通信區所管
中央下部自動助役	一八	
國府津電力區	一	
國府津電力助役詰所	七	
平塚電力助役詰所	八	
御殿場東部信號所	一	
御殿場西部信號所	一	
國府津保線區	一	
國府津保線助役詰所	一	
山北保線助役詰所	一	國府津通信區所管
駿河保線助役詰所	一	
御殿場保線助役詰所	一	
裾野保線助役詰所	一	
沼津保線助役詰所	一	
平塚保線助役詰所	一	
國府津通信助役	一五	
國府津自動助役	一二	
沼津通信助役	一四	
東神奈川保線助手詰所	一	
大船保線助手詰所	一	
大船通信助役詰所	七	横濱通信區所管
大船自動助役詰所	一四	
横濱保線區	一	
大船保線區	一	
高島保線助手詰所	一	
藤澤保線助手詰所	一	
大船電力區	三	横濱通信區所管
東神奈川電力助役詰所	四	
程ケ谷電力助役詰所	二	
大船電力助役詰所	二	
辻堂電力助役詰所	二	

一〇　東鐵管内信號機看守者ノ手信號現示方法

十月二十日東鐵禮第一九號御召列車運轉及警護ニ關スル件第二十三項ニ依ル信號機看守者ニ於テ必要ニ應ジ現示スベキ代用手信號其他左記ニ依リ取扱フモノトス

(一)　信號現示ノ狀態ガ次ノ如キ場合ニハ御召列車ニ對シ代用ノ進行手信號ヲ現示スルコト

(イ)　指導列車ガ進入スルトキ受持ノ信號機ガ停止信號ニシテ同列車カ該區間ヲ通過シ終リタル後モ尙引續キ停止信號ヲ現示シ居レルトキ

(ロ)　指導列車ガ進入スルトキ受持ノ信號機ガ消燈シ居リ同列車ガ該區間ヲ通過シ終リタル後モ尙引續キ消燈シ居レルトキ

(ハ)　指導列車ガ閉塞區間ヲ通過シ終リ受持ノ信號機ニ一亘注意信號又ハ進行信號ヲ現示シタル後消燈シタルトキ

(二)　信號現示ノ狀態ガ次ノ如キ場合ニハ御召列車ニ對シ代理ノ進行手信號ヲ現示セザルコト

(イ)　指導列車ガ受持ノ信號機ノ正當現示ニ依リ進入シ該區間ヲ通過シ終リタル後モ停止信號現示(消燈ヲ含マズ)ノ儘ナルトキ

（ロ）指導列車ガ受持ノ信號機ノ正當現示ニ依リ進入シ停止信號現示ノ儘消燈シタルトキ

（三）前項ノ信號機ガ半自動ノ場内信號機出發信號機又ハ閉塞信號機ナルトキハ次ノ取扱ニ依ルコト

（イ）前項（イ）號ニ依リ受持ノ信號機ガ停止信號現示ノ爲御召列車ガ停止シタルトキハ機關手ニ其ノ要旨ヲ通告シタル上代用ノ進行手信號ヲ現示スルコト

（ロ）前項（ロ）號ニ依リ受持ノ信號機ガ停止信號現示中消燈シタルトキハ受持信號機ノ外方ニ於テ停止信號ヲ現示シ御召列車ヲ停止セシメ機關手ニ其ノ要旨ヲ通告シタル上代用ノ進行手信號ヲ現示スルコト

（四）前項ノ通告及進行手信號ヲ受ケタル御召列車ノ機關手ハ一時間十五粁ヲ超エザル速度ヲ以テ該區間ヲ注意運轉スルコト

（五）半自動ノ場内信號機又ハ出發信號機ニ電話機ヲ裝置セズ之ヲ驛本屋又ハ信號扱所等ニ設備シタル驛ニ在リテハ信號現示ノ狀態ヲ其ノ都度看守者ヲシテ確認セシメ尙代用手信號ノ現示ニ當リテハ特ニ聯絡ニ遺憾ナキヲ期シ萬一ノ場合齟齬ヲ來サザル樣驛長ニ於テ豫メ相當ノ手配ヲ爲シ置クコト

一一　橫斷電燈電力線路ニ對スル保守上ノ警告

昭和三年八月二日電氣課長及保線課長ノ連名ヲ以テ新橋國府津保事長及新橋電事長ニ對シ左記ノ依命通牒ヲナセリ

管内當省通信線路及軌道ヲ橫斷シテ施設セル電燈電力線路ニ對シテハ其ノ狀態ヲ檢査シ電氣工作物規程其他關係法規ニ抵觸スル箇所アルモノハ此際之ヲ改修セシメ又腐朽シタル電柱電線等アル場合ハ之ヲ取換又ハ補强セシムル等御召列車警備上萬遺漏ナキ樣當該電線路管理者ト充分打合手配スベシ

一二　自動信號用電源供給會社ニ對スル停電防止ニ關スル警告

右ニ關スル警告ハ御召列車運轉關係事務所長ニ於テ夫々各會社ニ對シ電話ヲ以テ警告セリ

（ハ）名鐵ニ於ケル通信信號關係警備事項附圖電第七圖參照）

一一一般警備事項

（イ）警備員ニハ特ニ指定スル者ノ外必ズ制服又ハ所定ノ法被ヲ着用セシメ尙閉塞機手、通信工手ニハ卷脚袢ヲ附セシムベシ

（ロ）警備員ハ外套ノ類ヲ着用スルコトヲ得ズ、但シ降雨又ハ降雪甚シキ場合ハ指定ノ雨衣ヲ着用スルコトヲ得、此ノ場合御召列車通過ノ際ハ之ヲ脫スベシ

（ハ）御召列車運轉線路ニ於ケル警備員（自動信號機ノ看手者ヲ除ク）ノ指定位置ニ在ル間ハ線路ニ向ツテ直立シ御召列車接近シ來ルトキハ姿勢ヲ正シ目迎目送スベシ

（ニ）通信區主任ハ警備員ノ配置場所、警備員ノ擔當區域、警備員職氏名、其ノ他必要ナル事項ヲ具シタル警備員配置表及圖面ヲ調製シ所屬事務所長ノ承認ヲ受クベシ

（ホ）前號ノ警備員配置表ハ御召列車運轉十五日前迄ニ電氣課長ニ提出スベシ

（ヘ）警備ノ爲驛所ニ出頭シタルトキハ其ノ旨驛長ニ通知シ自己ノ所在ヲ明カニシ相當連絡ヲ保ツベシ

（ト）關係從事員ハ大禮期間中ハ特ニ電氣設備ノ完全ヲ期スル爲何時ニテモ出務シ得ル樣心掛クベシ

（チ）驛所ニ於テ警備スル者ハ御召列車接近シ來ルトキハ其ノ位置ニ在リテ姿勢ヲ正シ居ルベシ

（リ）主任ハ御召列車ガ所管區域内ノ運轉三時間前ヨリ次ノ通信區管内ノ運轉ヲ了ル迄所定ノ場所ニ

在リテ係員ヲ指揮監督スベシ

(ヌ) 主任ハ適當ノ驛所ニ助役又ハ技術員ヲ配置シ所定區域ノ班長トシ所屬警備員ヲ指揮セシムベシ

(ル) 班長ハ警備員配置表、御召列車、指導列車及指導列車ニ先發スル直前ノ列車ノ著發時刻表、關係電話呼出符號表、關係通信信號回線圖等ヲ携帶スベシ

(ヲ) 主任ハ班長ヲシテ適當ナル列車ニ乘込マシメ指導列車ガ各助役受持區間ノ運轉一時間前迄ニ其ノ受持沿線ノ設備及警備ノ狀況ヲ監察セシムベシ

(ワ) 自動閉塞式施行區間ニ於テ指導列車ニ乘務スル助役ハ自動信號關係ノ本區助役ヲ以テ充ツベシ

(カ) 御召列車ニ乘務スル通信工手ハ一保線事務所管内ヲ通ジテ乘務シ指導列車及特別儀裝馬車輸送列車ニ乘務スル通信工手ハ一通信區管内ヲ通ジテ乘務スベシ

(ヨ) 主任ハ通信線故障ノ場合應急處置トシテ回線切換活用ヲ行フ必要アルモノニ對シテハ豫メ其ノ方法ヲ定メ各警備員ニ周知セシメ置クベシ

二　御召列車乘務通信工手警備方法

(イ) 携帶電話機、**ベンチ**、捻子廻竝當該區間ノ電話回線圖電話呼出符號表及電話線架涉位置圖ヲ携帶シ電話線路ノ位置等ヲ熟知シ置クコト

(ロ) 携帶スル電話機ニ對シ當日出發スル前自身ニ於テ通話及信號試驗ヲ爲シ置クコト

(ハ) 乘込位置ハ別ニ定ムル所ニ依リ服裝ハ法被ヲ著用セズ別ニ貸與スルモノヲ著用スルコト

(ニ) 電話機ヲ接續スル必要起リタルトキハ先ヅ携帶電話機ヲ可成車室内ニ裝置シ之ヲ兩隣接驛ヲ呼出シニ適當ナル回線ニ接續スルコト

(ホ) 前號ノ外局長又ハ運輸事務所長ノ命令アルトキハ前號ノ携帶電話機ヲ他ノ適當ナル電話回線ニ切換フル等其ノ他必要ナル手配ヲ爲スコト

(ヘ) 前號及前々號ニ使用スル**ラバー**線ハ車電手保管ノモノヲ使用スルコト

(ト) 電話機ノ接續ヲ了リタルトキハ常ニ電話機ニ附添ヒ障碍ヲ起サヌ樣手當ヲ爲スト共ニ呼出シ又ハ應答ノ任ニ當リ電話機ヲ有效ニ使用セシムル樣努力スルコト

三　指導列車及特別儀裝馬車輸送列車乘務通信工手ノ警備方法

(イ) 携帶電話機電話用二子撚**ラバー**線二百尺ヲ附ス)**ベンチ**捻子廻竝當該區間ノ電話回線圖電話呼出符號表及電話線架涉位置圖ヲ携帶シ電話線路ノ位置等ヲ熟知シ置クコト

(ロ) 其ノ他ハ御召列車ニ乘務スル通信工手ニ準ズルコト

四　自動閉塞信號機看守者ノ警備方法

自動及半自動ノ信號機ニハ通信係員ヲ又半自動ノ信號機ニハ驛員ヲ附シテ看守セシメ各看守者間ニ於テ指定列車ノ運轉通報又ハ必要ニ應シ當該信號機ノ代用手信號現示等左ノ各號ニ依リ取扱フベシ但シ場内及出發信號機ニ對スル電話機ハ驛本屋又ハ信號扱所ニ設備スベシ

(イ) 自動及半自動ノ閉塞信號機ノ看守者ハ御召列車、指導列車及指導列車ニ先發スル直前ノ列車ガ受持ノ信號機ヲ無事通過シ終リタルトキハ(當該信號機ガ停止信號現示トナリタルコトヲ確認スルコト)其ノ都度之ヲ次ノ後方看守者ニ通知スベシ但シ次ノ後方ガ半自動ノ出發信號機ナルトキハ信號掛(當該信號機ノ信號扱所ニ於ケル信號掛ヲ謂フ以下同ジ)ニ通知スベシ

(ロ) 御召列車、指導列車及指導列車ニ先發スル直前ノ列車ガ半自動ノ場合信號機ヲ無事通過シ終リタルトキハ(當該信號機カ停止信號現示トナリタルコトヲ確認スルコト)信號掛ニ於テ其ノ都度之ヲ次

ノ後ガ看守者ニ通知スベシ

(ハ) 信號掛ハ半自動ノ場内及出發信號機ノ看守者ニ對シ御召列車、指導列車及指導列車ニ先發スル直前ノ列車カ次ノ前方信號機ヲ無事通過シ終リタルトキ其ノ都度之ヲ電話又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ速報スヘシ

(ニ) 列車ガ無事通過シ終リタルコトノ通報ヲ受ケタル後方ノ看守者ハ受持ノ信號機ガ停止信號現示ノ儘ナルトキハ後續スル指導列車又ハ御召列車ニ對シ信號機不良ノ扱トシテ該箇所ニ於テ進行手信號ヲ現示スヘシ但シ指導列車ガ受持ノ信號機ノ正當現示ニ依リ通過シタル後前方ノ看守者又ハ信號掛ヨリ同列車無事通過ノ通報ヲ受ケタル場合ニ於テ受持ノ信號機ガ停止信號現示ノ儘ナルトキハ停電ニ因ルコト明カナル場合ヲ除クノ外御召列車ニ對シ代用手信號ヲ現示スベカラズ此ノ場合御召列車ハ成規ノ取扱ニ依リ當該信號機外ニ一旦停車ノ上速度低減進行スベシ

(ホ) 指導列車及御召列車ノ乘務員ハ前號ノ進行手信號現示ニ對シ豫メ通告ナキ場合ト雖該手信號ニ依リ進行スルコトヲ得

(ヘ) 看守者ハ指導列車ニ先發スル直前ノ列車ノ少クトモ後方停車場出發又ハ通過時刻ノ十分前迄ニハ指定ノ位置ニ就クベシ

(ト) 綠色手信號旗、携帶電話機接續用導線ヲ附ス)**フユーズ**、綿**テープ**、**ペンチ**、捻子廻、**スパナー**、警備員配置表、御召列車、指導列車其ノ他ノ關係列車ノ著發時刻表、關係電話呼出符號表及鞄ヲ携帶スルコト

(チ) 携帶電話機ハ當日出發前自身ニ於テ通話及信號試驗ヲ爲シ置クコト

(リ) 御召列車通過ノ約三時間前ニ現場ニ到著シ關係電氣信號設備ニ異狀ナキヤ否ヤヲ點檢シ指導列車ニ先發スル二箇列車ニ對シ信號機動作ノ正當ナルコトヲ確認スルコト但シ器具箱等ハ鎖錠シ置

クコト

(ヌ) 指定地ニ到著シタル後豫メ定メタル時刻ニ携帶電話機ヲ接續シ所要電話回線ノ通話及信號ヲ爲シ置クコト

(ル) 指導列車ニ先發スル直前ノ列車ノ少クトモ後方停車場出發又ハ通過時刻ノ十分前迄ニ次號ノ指定位置ニ就クコト

(ヲ) 信號機ノ存在スル側ニ在リテ其ノ前面信號機ノ高サニ等シキ距離ヲ隔テ列車ノ通過スル線路ニ向ツテ直立シ顏面ヲ信號機ニ向ケ之ヲ注視シ居ルコト但シ運轉通報其ノ他位置變更ノ必要アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

(ワ) 前號ノ位置ニアル間其ノ携帶セル電話機ハ右側足許ニ置キ、**フユーズ**、**テープ**、**ペンチ**、捻子廻及**スパナー**等ハ之ヲ鞄ニ納メ信號機ノ蔭ニ置キ手信號旗ハ之ヲ捲キ左手ヲ以テ竿ヲ水平ニ柄ヲ前ニシテ把持シ手信號現示ノ必要アルトキハ右手ヲ以テ現示スルコト

(カ) 御召列車接近シ來ルトキハ姿勢ヲ正シ機關車ガ當該信號機ヲ通過シタル後ハ正面ニ向ヒ列車ヲ目送シ然ル後再ビ信號機ヲ注視スルコト

(ヨ) 御召列車、指導列車及指導列車ニ先發スル直前ノ列車ガ受持ノ信號機ヲ無事通過シ終リタルトキハ(當該信號機ガ停止現示トナリタルコトヲ確認スルコト)之ヲ其ノ都度次ノ方ノ看守者又ハ信號掛ニ通報スルコト此ノ場合自己ノ信號機番號ヲ通知シ對手者ノ信號機番號又ハ驛名ヲ確メ且復唱ヲ求ムルコト而シテ通話終了後引續キ受話機ヲ耳ニ當テタル儘前方ヨリノ通報ヲ待ツコト

(タ) 前號ノ列車ガ次ノ前方ノ信號機ヲ通過スベキ豫定時刻ヲ經過スルモ前方ノ看守者又ハ信號掛ヨリ何等ノ通知ナキトキハ之ヲ問合スコト

若シ應答ナキトキハ其ノ次ノ看守者ニ問合スコト

(レ)　列車ガ無事ニ通過シ終リタルコトノ通報ヲ受ケタル後方ノ看守者ハ受持ノ信號機ガ停止信號現示ノ儘ナルトキハ後續スル前記指定ノ列車ニ對シ信號機ノ正當現示ニ依リテ通過シタル後前方ノ看守者ヨリ同列車無事通過ノ通報ヲ受ケタル場合ニ於テ受持ノ信號機ガ停止信號現示ノ儘ナルトキハ停電ニ因ルコト明カナル場合ヲ除クノ外御召列車ニ對シ代用ノ手信號ヲ現示セルコト

(ソ)　急ヲ要スル報告其ノ他打合ノ爲他ノ警備員ヨリ電話ノ使用ヲ要求セラレタルトキハ支障ナキ限リ之ニ應ジ其ノ便ヲ計ルコト

(ツ)　御召列車ガ停車場又ハ信號所通過後主任ノ指定シタル驛所ニ引上ゲ他ノ警備員ト共ニ警備スルコト

五　各驛所ニ警備スル通信係員ノ警備方法

(A)　各驛警備員ノ心得

(イ)　閉塞機手及通信工手ハ携帶電話機接續用導線ヲ附ス(應急修理器具材料、警備員配置表、御召列車、指導列車及指導列車ニ先發スル直前ノ列車ノ著發時刻表及關係電話呼出符號表等ヲ携帶スルコト

携帶電話機ハ當日出發前自身ニテ通話及信號試驗ヲ爲シ置クコト

(ロ)　御召列車ノ通過ノ約三時間前ニ指定ノ驛所ニ到著シ關係電氣通信信號保安設備ニ異狀ナキヤ否ヤヲ點檢シ整備シ置クコト

(ハ)　指導列車ノ通過十分前ヨリ御召列車ガ通過シ終ル迄夫々指定セラレタル信號扱所內閉塞器ノ

附近又ハ電話交換室ニ居ルコト

(ニ)　構內ノ電氣通信信號保安設備ニ故障アルコトヲ知リタルトキハ直ニ之ヲ修理シ隣接又ハ其ノ中間ニ於テ故障アルコトヲ知リタルトキハ之ガ修理ニ努力スルコト但シ御召列車ヲ支障スル故障ニ非ザルトキハ作業ヲ中止シ指導列車ヨリ御召列車通過迄前號ノ位置ニ就クコト若其ノ位置ニ到着シ能ハザルトキハ適當ノ位置ニ在リテ姿勢ヲ正シ居ルコト

(ホ)　電氣通信信號保安設備ニ故障アルコトヲ知リタルトキハ受持ノ如何ヲ問ハズ關係者ト協力シ最善ノ努力ヲ拂ヒ復舊ニ努ムルコト

(ヘ)　御召列車ノ通過スル電氣轉轍器ハ指導列車ニ先發スル直前ノ列車通過後電動機回路ヲ遮斷シ置キ御召列車通過後復舊スルコト

(ト)　御召列車ガ次ノ助役受持區域內運轉ヲ終ル迄其ノ驛所ニ在リテ警備シ其ノ後ハ主任ノ指定スル驛所ニ引上グルコト

(B)　通信區同助役詰所非常用車設備驛詰員、通信區所在驛詰回線試驗員ノ心得

(イ)　各驛所詰所ニハ携帶電話機若干個及應急修理ニ要スル機械器具材料ヲ非常用トシテ準備シ置クコト

(ロ)　必要ト認ムル警備員ニハ警備員配置表、御召列車、指導列車及指導列車ニ先發スル直前ノ列車ノ著發時刻表其ノ他必要ト認ムルモノヲ携帶セシムルコト

(ハ)　御召列車通過又ハ助役受持區域內運轉三時間前ニ指定ノ場所ニ到著スルコト

(ニ)　指導列車通過ノ十分前ヨリ御召列車ガ通過シ終ル迄夫々指定セラレタル驛所又ハ詰所內ニ居ルコト

（ホ）通信區及通信區助役詰所ニ於ケル警備員ハ主任又ハ助役ノ命ニ依リ何時ニテモ出動シ得ル樣準備シ居ルコト

（ヘ）御召列車ガ次ノ助役受持區域內ノ運轉ヲ終ル迄其ノ驛所又ハ詰所內ニアリテ警備シ其ノ後主任ノ指定スル驛所ニ引上グルコト

六　通信線路ノ軌道橫斷個所警備員ノ警備方法

（イ）御召列車通過ノ約三時間前ニ現場ニ到著シ軌道橫斷部分ノ通信線路施設物ニ異狀ナキヤ否ヤヲ點檢シタル後看視シ居ルコト

（ロ）携帶電話機接續用導線ヲ附ス）一八粍鐵線若干、**ペンチ**、警備員配置表、御召列車、指導列車其ノ他關係列車ノ著發時刻表及關係電話呼出符號表ヲ携帶スルコト

（ハ）指導列車ニ先發スル直前ノ列車ノ少クモ後方停車場出發又ハ通過時刻約十分前ニ指定ノ警備位置ニ就クコト

（ニ）警備位置ハ橫斷電線ノ直下ニシテ軌道ノ左側（列車運轉方向ニ依ル）トシテ保線從事員ノ合圖等ニ支障ナキ樣保線警備線ノ外方トスルコト而シテ携帶品ハ足許ニ置クコト

（ホ）御召列車接近シ來ルトキハ軌道ニ面シ姿勢ヲ正シ通過後ハ目送スルコト

（ヘ）他ノ警備員ヨリ急ヲ要スル報告其他打合ノ爲電話ノ使用ヲ要求セラレタルトキハ支障ナキ限リ之ニ應ジ其便ヲ計ルコト

（ト）御召列車ガ前方驛所通過後主任ノ指定シタル驛所ニ引上ゲ他ノ警備員ト共ニ警備スルコト

（チ）省外電線路ニシテ軌道橫斷又ハ線路ニ接近セルモノニ對シテモ關係箇所ニ照會シ警備ニ關シ遺憾ナカラシムベシ

七　橫斷電燈電力線路ニ對スル保守上ノ警告

名古屋鐵道局管內當省通信線路竝軌道ヲ橫斷シテ施設セル電燈電力線路ニ對シテハ保守上遺憾ナキヲ期スル樣各電氣事業者ニ七月中旬警告ヲ發シ不備ノ部分ハ各々加修セシメ更ニ十月上旬ヨリ下旬ニ亘リ電氣課員、通信區主任竝電氣事業者立會ノ上實地檢査ヲ行ヒ不良ト認ムルモノニ對シテハ直ニ改修セシメタリ

八　自動信號用電源供給會社ニ對スル停電防止ニ關スル警告

昭和三年十月十六日鐵道局長名ヲ以テ宇治川電氣株式會社、東邦電氣株式會社、矢作水電株式會社、東京電燈株式會社ニ對シ御召列車運轉期間中ハ保守竝取扱上尙一段ノ注意ヲ爲シ絕對ニ故障ヲ生ゼシメザル樣警告ヲ發セリ

九　名鐵管內御召列車運轉區間ニ於ケル携帶電話機ノ配備狀態

配備箇所	數量	配備箇所	數量
八王子通信區助役	九	鷲津保線手	三
八王子保線區	二	豐橋同上	三
靜岡通信區	九	蒲郡同上	四
同區助役	一六	岡崎同上	四
濱松通信區助役	一六	靜岡電力區	七
豐橋通信區助役	一三	名古屋通信區助役	一九
堀之內同上（自動）	五	岐阜同上	七
新居町同上（自動）	一四	米原同上	一二

岡崎	同上（自動）	二九	名古屋	同上（自動）
静岡保線區		一	大垣	同上（自動）
鈴川保線手		三	名古屋保線區	
蒲原	同上	三	大府保線手	
静岡	同上	二	熱田	同上
用宗	同上	三	名古屋	同上
濱松保線區		一	稻澤	同上
島田保線手		三	大垣保線區	
堀ノ内	同上	三	岐阜保線手	
袋井	同上	四	大垣	同上
濱松	同上	四	關ケ原	同上
舞坂	同上	二	米原	同上
豐橋保線區		一	名古屋電力區	

（ニ）大鐵ニ於ケル通信信號關係警備事項（附圖電第八圖參照）

一　一般警備事項

（イ）通信信號係員ハ御大禮期間中ハ特ニ通信信號設備ノ完璧ヲ期スルタメ隨時招集スルコトアルヲ以テ何時ニテモ之ニ應召シ得ル樣心掛クルコト

（ロ）助役又ハ特ニ指定シタル技術員ハ御召列車運轉三時間前迄ニ擔當區域內ヲ巡廻シタル後御召列車ガ受持區內ノ運轉ヲ終ル迄助役詰所ニ在リテ掛員ヲ監督シ萬一事故發生シタル場合ハ其手配ヲ遺憾ナカラシムルコト

（ハ）通信區主任ハ御召列車カ受持區內ノ運轉三時間前ヨリ次ノ通信區管內ノ運轉ヲ終ル迄所定ノ場所ニ在リテ掛員ヲ監督シ萬一事故發生シタル場合ニハ其手配ニ遺憾ナカラシムルコト

（ニ）御召列車ニ乘務スル通信工手ハ一保線事務所管內ヲ通シテ乘務シ指導列車及特別儀裝馬車輸送列車ニ乘務スル通信工手ハ一通信區管內ヲ通シテ乘務スルコト

（ホ）通信區主任ハ警備配置圖（姓名記入ノモノ）ヲ調製シ來ル十月二十日迄ニ保線事務所長經由電氣課長ニ提出ノコト

（ヘ）自動閉塞式施行區間ニ於ケル指導列車ニハ京都通信區助役乘務ノコト

二　通信區員ノ警備方法

（イ）自動及半自動ノ信號機ニハ電話機ヲ設備シ自動ノ信號機ニハ通信係員ヲ又半自動ノ信號機ニハ驛員ヲシテ看守セシメ各看守者間ニ於テ指定列車ノ運轉通報又ハ必要ニ應シ當該信號機ノ代用手信號現示等左ノ各項ニ依リ取扱フコト但シ場內信號機又ハ出發信號機ノ電話機ハ之ヲ驛本屋又ハ信號扱所ニ設備スルコトヲ得

（ロ）運轉通報ヲ爲サシムル列車ハ指導列車ニ先發スル直前ノ列車、指導列車及御召列車トス

（ハ）前項指定ノ列車毎ニ列車カ受持ノ信號機ヲ無事通過シ終リタルトキハ之ヲ次ノ後方ノ看守者ニ通報スルモノトス

（ニ）列車カ無事通過シ終リタルコトノ通報ヲ受ケタル後方ノ看守者ハ此ノ場合受持ノ信號機カ停止信號現示ノ儘ナルトキハ後續スル指定ノ列車ニ對シ信號機不良ノ取扱トシテ該箇所ニ於テ進行手信號ヲ現示スヘシ但シ指導列車カ受持信號機ノ正當現示ニヨリテ通過シタル後前方ノ看守者ヨリ同列車無事通過ノ通報ヲ受ケタル場合ニ於テ受持ノ信號機カ停止信號現示ノ儘ナルトキハ停電ニ

依ルコト明カナル場合ノ外御召列車ニ對シ代用ノ手信號ヲ現示スヘカラス此ノ場合御召列車ハ成規ノ取扱ニ依リ當該信號機外ニ一旦停止ノ上速度低減進行スルモノトス

(ホ)　指導列車及御召列車ノ乘務員ハ進行手信號現示ニ對シ豫メ通報ナキ場合ト雖モ該手信號ニ依リ進行スルコトヲ得ルモノトス

(ヘ)　看守者ハ指導列車カ先發スル直前ノ列車ノ少ナクモ後方停車場出發又ハ通過時刻ノ十分前迄ニハ指定ノ位置ニ就クモノトス

三　通信々號保安設備ノ檢査、整備

警備用携帶品及非常材料

(イ)　警備ニ從事スル通信工手ハ左ノ物品ヲ携帶スルコト

ペンチ一個、捻子廻シ一個、一四粍鐵線三疋、**ロープ**十米、携帶電話機電話用二子捻**ラバー**線六米ヲ附ス)

(ロ)　双信閉塞器式及通票閉塞器式施行區間警備ノ閉塞機手ハ左ノ物品ヲ携帶スルコト

ペンチ一個、捻子廻シ一個、小**スパナー**一個、鑢七本組ノモノ一組、時計型**メーター**一個、**ブユズー**若干帶品除**ナイフ**)ノ外左ノ物品ヲ携帶スルコト

(ハ)　自動信號機看守閉塞機通又ハ通信工手ハ自動閉塞信號裝置竝電氣機聯動裝置保守心得ニ據ル携絲色手信號機半自動信號機看守者ヲ除ク)一本、携帶電話機一個、列車運行圖表、警備員配置圖

(ニ)　左記驛ニハ車輛保線、通信用非常用品ヲ搭載シタル貨物緩急車ヲ準備スルコトニナリ居ルヲ以テ左記物品ヲ搭載シ置クコト

十一月七日 同十九日	京都驛	山田驛
同廿二日 同廿三日 同廿五日 同廿六日		
十一月十九日 同廿二日	龜山、	
十一月廿三日	奈良	王寺驛

草津通信區助役詰所ニハ本項ニ準ジ非常用品ヲ準備シ置クコト

自動信號關係

	數量
電壓計(〇―一二〇**ヴオルト**)	一個
同　(〇―一一五**ヴオルト**)	一個
ボンドテスター	二個
軌道繼電器(二元三位)	一個
同　(二元二位)	一個
緩動繼電器	一個
線條繼電器	一個
轉轍器用表示繼電器	二個

軌道變壓器	一個
點燈用變壓器	一個
穿孔器(**レールボンド**用)	一個
ドリル(11/32時・22)	一〇個
ラツチスパナー(七五封度用)	一個
モンキーレンチ(十吋)	一挺
手**ハンマー**(二封度)	一挺
タガネ	一挺
ポンチ	一挺
鑢(丸荒八吋)	三挺
赤手信號旗	六個
電球(一二〇**ヴオルト**一〇燭光)	六個
同（同　三六燭光）	五挺
電球(一二〇**ヴオルト**五〇燭光)	一挺
同（照明軌道盤用）	一挺
同（三〇**ヴオルト**四〇**ワツト**）	一挺
フユーズ(一・三・五・一〇・二〇**アムペア**)	一〇個
ゴムテープ	一本
磨布(〇番)	一〇個
	五〇米
	一〇個
	一五個
	一〇個
	一〇個
	五挺
	六個
	六個
	三挺
	一挺
	一挺
	一〇個
	一個
	一個
	一個
	1/10瓲宛
	一卷
	五枚

布**バケツ**	二個
ラバー線(一・二粍二子撚)	五〇米
第二種銅絶緣線(二九粍)	五〇米
ボンドピン(小)	五〇個
同　（中）	五〇〇個
第四種銅絶緣線(一・六粍一二子撚)	五〇米
銅鐵**ボンド**	二五〇個
軌條絶緣裝置(三七・五〇瓲日沙型)	二組
通信關係	數量
電話器	二個
四・五粍鐵線	一〇〇〇瓲
二粍硬銅線	五〇瓲
一・二粍二ケ撚被覆線	五〇〇米
張線器	四挺
布**バケツ**	三個
ロープ(十米ノモノ)	三本
スパナー	三挺
碍子	一〇個
シヨベル	三挺

鶴嘴　一挺
鋸　一挺
カケヤ　一挺
赤手信號旗　一本

(ホ) 各驛所ニハ左記物品ヲ準備シ置クコト

張線器二挺、**スパナー**一挺、四五粍鐵線一疋、一八粍鐵線一〇疋、二子撚**ラバー**線一五米、電話機一個、乾電池二個、布**パケツ**一個、電話機修理材料一式

四　警備員ノ警備心得

(イ) 通信關係警備員ハ特ニ指定セラレタルモノノ外御召列車受持區域内通過三時間前迄ニ指定地ニ到著シ、驛々間警備ノ者ハ受持區域内ヲ巡廻シテ電氣通信信號保安設備ヲ整備シ指導列車ノ直前ノ列車ヨリ御召列車ガ受持區域ヲ通過スル迄指定位置ニ就キ居ルコト尚自動信號機看守者ニ在リテハ指導列車ニ先發スル二箇列車ニ對シ信號機動作ノ正當ナルコトヲ確認スルコト

(ロ) 自動閉塞信號機看守ノ通信係員ハ其任務終了後通信區主任ノ指定シタル驛ニ引上ゲ他ノ警備ニ當リ其他ノ警備員ハ御召列車ガ次ノ通信區助役管内ヲ通過シ終ル迄指定ノ驛ニ滯留スルコト

(ハ) 御召列車接近シ來ルトキハ運轉通報其他運轉ニ直接必要ナル用務ヲ執行スル場合ノ外姿勢ヲ正シ居ルコト

(ニ) 携帶スル電話機ハ當日出發前自身ニ於テ充分通話試驗ヲナシ置クコト

(ホ) 携帶スル時計ハ當日出發前整正セシメ置クコト

(ヘ) 自動信號機看守者ハ左記各項ニ注意スルコト

(ト) 停立位置及方向　電燈式信號機ハ約十米腕木式信號機ハ約五米ノ距離ヲ隔テ信號機ノ前面列車ノ通過スル線路ニ向ツテ直立シ顏面ヲ信號機ニ向ケテ之ヲ注視シ居ルコト

(チ) 御召列車及指導列車通過ノ場合ノ姿勢　御召列車接近シ來ルトキハ看守者ハ姿勢ヲ正シ機關車ガ該信號機ヲ通過シタル後顏ヲ列車ノ方ニ向ケテ目送スルコト但シ運轉通報其他ノタメ必要ナル場合ハ此ノ限ニアラズ

(リ) 旗ノ持方　旗ヲ柄ニ卷キ付ケ左手ヲ以テ水平ニ柄ヲ前ニシテ把持シ手信號現示ノ必要アルトキハ右手ヲ以テ其位置ニ於テ現示スルコト

(ヌ) 電話機及鞄ノ置場所　電話機ハ看守者ノ右側足許ニ置キ器具材料ハ鞄ニ納メテ信號機ノ蔭ニ置クコト

(ル) 電話ノ扱方及用語　御召列車指導列車及指導列車ニ先發スル直前ノ列車ガ受持ノ信號機ヲ無事通過シ終リタルトキハ該信號機ガ停止信號トナレルコトヲ確認シタル後之ヲ後方ノ看守者又ハ信號掛ニ通報スルコト此ノ場合自己ノ信號機番號ヲ通知シ對手者ノ信號機番號又ハ驛名ヲ確メ且ツ復唱ヲ求ムルコト

前項ノ通知ヲ受ケタル後看守者ハ受話機ヲ其儘耳ニ當テ前方信號機看守者ヨリノ通報ヲ待ツコト

(ヲ) 指導列車ノ直前ノ列車ノ通過後ハ繼電器函ノ扉ノ開放ヲ嚴禁スルコト

(ワ) 相當時間經過スルモ前方ノ看守者ヨリ何等ノ通知ナキトキハ問合ハスコト若シ應答ナキトキハ其次ノ看守者ニ問合ハスコト

(カ) 看守者ハ特ニ指定セラレタルモノノ外繼電器函内ノ修理ヲナサザルコト若シ開函ノ必要起リタ

ルトキハ指定者ニ通知スルコト

(ヨ) 指定地ニ到著シタルトキハ豫メ定メラレタル時刻ニ所要電話回線ノ通話試驗ヲナシ置クコト

(タ) 各驛ニ配置スル閉塞機手及通信工手ハ左記ニ注意シ統一ヲ計ルコト

(レ) 警備員ハ指導列車運轉ノ十分前ヨリ御召列車通過シ終ル迄夫々信號扱所內閉塞機ノ附近又ハ電話交換室ニ居ルコト

(ソ) 構內ノ電氣通信々號保安設備ニ故障アルコトヲ知リタルトキハ直ニ之ヲ修理シ隣接驛又ハ其中間ニ於テ故障アルコトヲ知リタルトキハ之カ修理ニ努力スルコト但シ御召列車ニ支障スル故障ニアラザルトキハ指導列車ヨリ御召列車通過迄ハ作業ヲ中止シ前項ノ位置ニ就クコト若シ其位置ニ到著シ能ハザルトキハ不敬ニ亙ラザル位置ニ在リテ姿勢ヲ正シ居ルコト

(ツ) 警備員ハ指定シタル腕章ヲ附着スルコト

(ネ) 看守ニ當ル閉塞機手及通信工手ハ制服制帽法被脚絆地下足袋ノコト

(ナ) 看守者ハ外套ノ類ヲ着用セザルコト但シ降雨又ハ降雪甚ダシキ場合ニハ指定ノ雨衣ヲ着用スルコトヲ得ルモ御召列車通過ノ際ハ之ヲ脫スルコト

五　御召列車乘務通信工手ノ警備方法

(イ) 御召列車ニ乘務スル通信工手ハ左記各項ニ注意スルコト

(ロ) 通信工手ハ携帶電話機**ペンチ**竝當該區間ノ電話回線圖電話呼出符號表及電話線架涉位置圖ヲ携帶シ電話線路ノ位置圖等ヲ熟知シ置クコト

(ハ) 通信工手ハ携帶スル電話機ニ對シ當日出發前ニ於テ通話試驗ヲナシ置クコト

(ニ) 通信工手ノ乘込位置ハ別ニ定ムル所ニヨリ服裝ハ制服制帽トシ靴ヲ穿ツコト

(ホ) 電話機ヲ接續スル必要起リタルトキハ先ヅ携帶電話機ヲ車室內ニ裝置シ之ヲ兩隣接驛ヲ呼出シニ適當ナル回線ニ接續スルコト

(ヘ) 前項ノ外局長又ハ運輸事務所長ノ命アルトキハ携帶電話機ヲ他ノ適當ナル電話回線ニ切換ヘル等其他必要ナル手配ヲナスコト

(ト) 前二項ニ使用スル**ラバー**線ハ車電手保管ノモノヲ使用スルコト(參考携帶電話機用トシテ二子撚**ラバー**線二〇〇尺ノモノ二把ヲ備付ケ通信工手ノ乘込ム側ノ車電手之ヲ保管スルコトニナリ居レリ)

(チ) 通信工手ハ電話機ノ接續ヲ終リタルトキニ常ニ電話機ニ附添ヒ障碍ヲ起サヌ樣手當ヲナスト共ニ呼出又ハ應答ノ任ニ當リ電話機ヲ有效ニ使用セシムル樣努力スルコト

六　指導列車及特別儀裝馬車輸送列車乘務通信工手警備方法

(イ) 指導列車及特別儀裝馬車輸送列車ニ乘務スル通信工手ハ左記各項ニ注意スルコト

(ロ) 通信工手ハ携帶電話機電話用二子撚**ラバー**線二〇〇尺ヲ附ス)**ペンチ**竝當該區間ノ電話回線圖電話呼出符號表及電話線架涉位置圖ヲ携帶シ電話線路ノ位置等ヲ熟知シ置クコト

(ハ) 通信工手ハ制服法被脚絆地下足袋ノコト

(ニ) 前各項ノ外御召列車ニ乘務スル通信工手ニ準ズルコト

七　大鐵管內御召列車運轉區間ニ於ケル携帶電話機ノ配備狀態

配置箇所	數量	配置箇所	數量
京都保線助手	一	梅小路保線助手	一

大津同	二	草津保線區	一
草津同	一	近江八幡保線助手	二
能登川同	一	彦根同	二
貴生川同	一	奈良保線區	一
奈良同	一	木幡保線助手	一
玉水同	一	櫻井同	一
龜山保線區	一	加谷線路丁場	一
龜山第一保線助手	一	龜山第二保線助手	一
關同	一	祐植同	一
津同	一	松阪保線區	一
相可口同	一	山口保線助手	一
京都通信區	四七	湊町通信區	三六

通信區ハ列車乘務ノモノ詰所備付ノモノ及警備員携帶ノモノ全部ニシテ御召列車運轉區間ノ異ナルコトニ依リ適當配布スルモノトス

八　自動信號用電源供給會社ニ對スル停電防止ニ關スル警告

昭和三年十月三十一日鐵道局長名ヲ以テ京都電燈株式會社、宇治川電氣株式會社ニ對シ御召列車運轉期間中ハ保守竝取扱上尚一段ノ注意ヲ爲シ絕對ニ故障ヲ生ゼシメザル樣夫々警告ヲ發セリ

九　橫斷電燈電力線路ニ對スル保守上ノ警告

昭和三年七月六日電氣課長名ヲ以テ大阪湊町兩保事長ニ對シ左記ノ依命通牒ヲナセリ

御召列車運轉區間內ニ於ケル軌道橫斷他所屬電線路竝之ニ準ズベキ近接施設物ハ相當事前ニ臨時檢査ヲ施行シ當該施設物管理者ヲシテ改修セシムベシ

第二　警備員ノ配置

御召列車運轉其他各種警備事務ノ命令、打合セ等ニ最モ必要缺クベカラザル電信、電話並御召列車運轉保安上重要ナル自動閉塞信號機電氣聯動裝置其他電氣ニ依ル信號、保安設備ノ警備ニ關シ關係各局ニ於ケル警備員配置ノ狀態ヲ擧グレバ左ノ如シ

(イ)　東京鐵道局ニ於ケル配置狀態

警備員配置ニ關スル一般事項

一　自動閉塞信號機ニハ看守ノタメ閉塞機手(閉塞機助手ヲ含ム以下同ジ)又ハ通信工手一名宛ヲ配置セリ

二　御召列車ノ運轉ニ關係アル信號扱所ニシテ自動閉塞式施行區間ニ在ルモノニハ技術員又ハ閉塞機手一名以上宛其ノ他ノ區間ニ在ル重要ナル信號扱所ニハ閉塞機手又ハ通信工手各一名宛又通票閉塞機設置箇所及重要ナル双信閉塞機設置箇所ニハ閉塞機手又ハ通信工手一名宛ヲ配置シ警備セシメタリ

三　電話交換機設置數五座席以內ノ驛ニハ通信工手二名宛六座席以上ノ驛ニハ同三名宛ヲ配置シ警備セシメタリ

四　宮內省鐵道電話設置箇所主要驛長室又ハ驛長事務室其ノ他ノ重要ナル電話器設置箇所、配線小屋、電信室、電源室竝非常用車**モーターカー**配置箇所及隣接電話交換機設置驛相互間三〇粁以上ナルトキハ三〇粁毎ニ中間適當ノ驛ニ通信工手一名以上ヲ配置警備セシム

五　通信區助役閉塞機手及通信工手ノ各詰所ニハ閉塞機手又ハ通信工手若干名ヲ配置シ警備セシメタリ

六　搬送式電話ヲ裝置セル箇所ニハ技術員及通信工手各一名ヲ配置シ警備セシメタリ
七　東京通信所、新宿、横濱、國府津各交換室ニハ通信回線試驗員一名宛ヲ配置シ警備セシム
八　前各項ノ箇所ニハ必要ニ應ジ技術員ヲ配置シ警備セシメタリ
九　警備員ノ助勤派遣ハ之ヲ行ハズ

（東海道本線）

新橋通信區	通信關係	九八名
	自動信號關係	五九名
横濱通信區	通信關係	六二名
	自動信號關係	六八名
國府津通信區	通信關係	五六名
	自動信號關係	二二名
御召列車乘務員（東京、靜岡間）		二名
指導列車乘務員（東京、沼津間）		六名
特別儀裝馬車輸送列車乘務員（汐留、沼津間）		三名
非常用車乘務員（東京、沼津間）		二一名

（中央線）

新橋通信區	通信關係	六四名
新宿通信區	通信關係	七九名
	自動信號關係	八五名
御召列車乘務員（原宿、淺川間）		一名
指導列車乘務員（〃　〃）		一名
非常用車乘務員（〃　〃）		一名

（ロ）名古屋鐵道局ニ於ケル配置狀態

警備員配置ニ關スル一般事項

一　自動閉塞信號機看守者トシテ閉塞機手（含閉塞機助手、以下同ジ）一名
二　電氣機聯動裝置電氣轉轍器、通票閉塞器及電氣鎖錠器ヲ設備シタル驛ニハ各驛ニ、其他ハ少クトモ一驛隔ニ閉塞機手一名
三　前號以外ノ驛所ニハ通信工手一名
四　電話交換機五座席以内ノ驛ニハ通信工手二名
　六座席以上ノ驛ニハ同三名
五　通信區及通信區助役詰所ニ閉塞機手又ハ通信工手若干名
六　搬送式電話裝置ノ端局及中繼局裝置箇所ニ適任者一名
七　通信區所在驛ニ通信回線試驗員一名
八　非常用者設備驛ニハ之ニ乘込マシムル爲豫備員トシテ通信工手二名
九　通信線路ノ幹線ガ軌道ヲ横斷セル箇所ニハ通信工手一名
一〇　警備員ノ助勤派遣

左表ノ通

警備日附	助勤事務所名	被助勤事務所名	助勤者職名	助勤者數	記事
第一日及第四日	名古屋	靜岡	閉塞機手又ハ同助手	一	通信關係
〃	名古屋	〃	通信區助役又ハ技術員	三 〃	
〃	甲府	〃	閉塞機手又ハ同助手	二 〃	
〃	長野	〃	通信區助役又ハ技術員	一 〃	
〃	金澤	〃	閉塞機手又ハ同助手	三 〃	
第二日及第三日	靜岡	名古屋	〃	四 〃	
				三一	自動信號關係

（東海道本線）

名古屋通信區（通信關係　一二九名
　　（自動信號關係　六六名
靜岡通信區（通信關係　一一二名
　　（自動信號關係　六六名
御召列車乘務員（沼津、米原間）　三名
指導列車乘務員（沼津、名古屋間）　三名
特別儀裝馬車輸送列車乘務員（沼津米原間）　三名
非常用車乘務員（〃　）一二名
（中央線）
甲府通信區　通信關係　二四名

御召列車乘務員（原宿淺川間）　一名
指導列車乘務員（〃　）　一名
非常用車乘務員（〃　）　二名

（八）大阪鐵道局ニ於ケル配置狀態

警備員配置ニ關スル一般事項

一　双信閉塞器式、通票閉塞器式施行區間ニ於ケル各驛ニハ閉塞機手（閉塞機助手ヲ含ム以下同ジ）一名、驛間ニハ通信工手一名宛配置スルコト

二　電話交換機五座席以内ノ驛ニハ通信工手二名六座席以上ノ驛ニハ通信工手三名宛ヲ配置スルコト

三　晴鴨樓、戸田屋詰所ニハ通信工手一名宛ヲ配置スルコト

四　電線路ノ鐵道線路横斷箇所ニハ適當ニ通信工手ヲ配置スルコト

五　通信區及通信區助役詰所ニハ閉塞機手二名及通信工手三名閉塞機手詰所ニハ閉塞機手一名宛ヲ配置スルコト

六　大阪通信所ニハ通信回線試驗員二名及通信工手二名ヲ配置スルコト

七　京都驛龜山驛又ハ奈良驛ニハ通信回線試驗員一名通信工手二名宛ヲ配置スルコト

八　自動及半自動信號機停車場信號機ヲ除ク電氣信號機竝各驛信號扱所信號扱所ナキ驛ハ驛長室ニハ看守ノ爲閉塞機手又ハ通信工手一名宛ヲ配置シ尙各驛ニ閉塞機手又ハ通信工手一名宛ヲ豫備員トシテ配置スルコト

九　警備員ノ助勤派遣ニ付採リタル方法

（イ）大阪保事

特ニ他ヨリ警備員ノ助勤ヲ受ケズ

（ロ）湊町保事

十一月十八日ヨリ十一月廿五日迄左ノ通リ助勤ヲ受ケタリ

福知山保事ヨリ	閉塞機手	二名
	閉塞機助手	三名
岡山保事ヨリ	閉塞機助手	二名

（東海道本線）

大阪通信區	通信關係	三名
京都通信區	通信關係	一〇八名
	自動信號關係	七四名
大阪通信區	通信關係	四名
京都通信區	通信關係	八八名
	自動信號關係	二一名
神戸通信區	通信關係	一名
湊町通信區	通信關係	八七名

（奈良線及櫻井線）

大阪通信區	通信關係	二名
京都通信區	同　上	二八名

湊町通信區	同　上	八〇名

（十一月廿四日東海道本線）

京都通信區	通信關係	二五名

（十一月廿五日奈良線）

大阪通信區	通信關係	四名
京都通信區	通信關係	三一名
湊町通信區	同　上	二四名

（十一月廿六日東海道本線ノ警備ハ十一月七日ノ警備ニ同ジ）

御召列車乘務員	米原、京都間	一名
	京都、山田間	二名
	京都、畝傍間	一名
	京都、桃山間	一名
指導列車乘務員	米原、京都間	二名
	京都、山田間	四名
	京都、畝傍間	一名
	京都、桃山間	一名
特別儀裝馬車輸送乘務員（米原、梅小路間）		一名
	米原、京都間	五名
	京都、山田間	九名

非常用車乘務員｛京都、畝傍間　七名
　　｛京都、桃山間　二名

第三　點檢其ノ他

通信信號保安關係ノ諸設備其ノ他ニ關シ豫メ點檢ヲ行フト共ニ整備ノ完璧ヲ期シ以テ御召列車ノ運轉上遺憾ナキコトヲ保全スル爲各鐵道局共通ニ執行スベキ事項トシテ本省ヨリ指示シタル要項次ノ如シ

本省指示ノ通信信號保安設備ノ工事檢査竝整備

一　通信區主任ハ電氣課員立會ノ上御召列車運轉十日前ヨリ其ノ前日迄ニ受持管內ヲ巡視シ電氣通信信號保安設備ノ狀態、非常用材料ノ整備、工事ノ殘片付警備員ノ携帶品等ヲ檢査シ完備シ置クコト

二　御召列車運轉線路ニ接近シテ施行スル工事ハ前項ノ主任檢査豫定ノ前日迄ニ完了又ハ中止シ其ノ後ハ障碍修理ノ外工事ヲ施行セザルコト工事ヲ中止シタル工事ニ對シテハ其ノ現場竝工事材料ハ右前日迄ニ適當ニ始末シ置クコト

三　御召列車運轉區間ニ於ケル電氣通信信號線路、電氣信號機電氣聯動機電氣轉轍機閉塞機踏切警報機其ノ他ノ電氣信號保安設備竝電話交換機、電話機、電信機其ノ他御召列車運轉ニ關係アル電氣通信信號保安設備ハ各受持助役ニ於テ主任檢査豫定ノ前日迄ニ其ノ狀態ヲ檢査シ充分修理シ完全ニ整備シ置クコト

四　非常用材料、警備員ノ携帶品及其ノ他ノ警備用機械器具材料ハ主任檢査豫定ノ前日迄ニ整備シ置クコト

五　通信區主任ハ列車乘務員、驛、機關庫、保線區、電力區、通信區其ノ他ニ常備シ又ハ其ノ携帶スル携帶電話機ニ對シ御召列車運轉ノ前日迄ニ可成其ノ近クノ日ニ於テ檢査整備シ置クコト

第四　御召列車試運轉ノ際ノ警備豫行

東鐵ニ於ケル御召列車ノ試運轉ノ警備ハ左記ニ依リ豫行セリ

東海道本線

第一回警備豫行

十月十三日　東京　原間
十月十九日　原　東京間

警備員ノ配置方ハ左記ニ依ル

（イ）大體一事務所管內ニ於テ一區內又ハ一箇所ニ選ビ宿泊ヲ要セザル範圍ニ於テ人繰ヲ爲シ御召列車運轉ノ際ト同樣ニ人員ヲ配置セリ

（ロ）其ノ他ノ箇所ニ於テハ他ヨリ出張セシムルコトナク所屬員ノミヲ配置シ警備ノ配置ヲ缺ク位置ニハ適當ノ目標ヲ建テ之ヲ表示セリ

（ハ）御召列車乘務員ハ凡テ東京靜岡間ヲ乘車セリ

（ニ）本課員ハ通信掛長乘務セリ

第二回警備豫行

十月二十二日　東京　原間
十月二十八日　原　東京間

今回ノ警備豫行ハ御召列車運轉當日ト同樣ノ警備ヲ爲セリ但シ本課員ハ電氣課長及技師二名乘務セリ

中央本線

第一回警備豫行

十月三十一日　原宿　東淺川間
警備關係ハ東海道線第一回ニ同ジ

第二回警備豫行

十一月一日　原宿　東淺川間
警備關係ハ東海道線第二回ニ同ジ

名鐵ニ於ケル御召列車試運轉ノ警備ハ試運轉列車ノ外適當ナル列車ヲモ利用シテ左記ノ通リ警備豫行ヲナシタリ

施行月日	施行區間
十月十四日	關ケ原米原間
〃　十九日	島田堀ノ內間
〃　廿二日	由比　江尻 鷲津　豐橋間 舞坂名古屋
〃　廿三日	名古屋米原間
〃　廿七日	名古屋米原間
〃　廿八日	靜岡　燒津 大府名古屋間 濱松驛構內

〃　三十日　豐田　淺川間

十一月一日　豐田　淺川間

〃　五日　沼津名古屋間

〃　六日　關ケ原米原間

〃　廿四日　大府名古屋間

〃　廿五日　名古屋米原間

右ハ御召列車運轉當日ト同樣ノ警備ニヨリ施行セリ但シ事務員ノ警備ハ御召列車運轉ノ前日ニ行ヒタル警備豫行ニノミ配置セリ

大鐵ニ於ケル第一回及第二回御召列車試運轉ニ際シ左記區間ヲ指定シ大鐵通信信號關係警備事項ニ定メタル方法ヲ以テ警備員ヲ配置シ其ノ豫行ヲ演習セリ

第一回試運轉當日

自十月十四日	米原　京都間
至十月十八日	木津　玉水間 龜山一身田間

第二回試運轉當日

自十月廿三日	米原　京都間
	木津　長池間
至十月廿七日	龜山一身田間
	六軒相可口間

前記第一回及第二回御召列車試運轉ニ際シ電氣通信關係者添乘セリ

尙御召列車模型試運轉列車運轉ニ際シ大阪保線事務所管內ニ於テハ同列車ニ京都通信區主任若ハ同通信區助役一名又湊町保線事務所管內ニ於テハ湊町通信區主任、同通信區助役及通信工手長各一名電話機一箇ヲ携帶シテ乘務セリ

本試運轉列車運轉ニ際シテハ警備ノ豫行ヲ行ハズ

前記ノ外十一月十六日米原京都間ニ於テ第五一一列車ヲ御召列車ト看做シ警備豫行ノ演習ヲ施行セリ

第二項　電力ニ關スル警備

第一　警備方法

御召列車ノ警備方法ニ關シテハ本省ニ於ケル關係各局聯合協議會ノ打合セ事項ニ基キ夫々各局長達ニ依リ實施セラレタリ

御召列車警護ニ關スル電氣運轉關係事項

警備者關係事項

一　御召列車運轉區間ニ於ケル架空電車線、饋電線、配電線、送電線、其他電氣設備ヲ警備スルタメ沿線必要ナル位置ニ電力工手ヲ配置スベシ(電力事務所長)

二　監視者ハ線路亘長五〇〇**メートル**ニ付一人トス

三　土地線路及電氣設備ノ狀況ニヨリ前項ノ距離ハ之ヲ伸縮スベシ

四　警備者ハ御召列車通過ノ約三時間前ニ現場ニ到著シ受持區間ヲ巡廻シ關係電氣設備ノ各部ニ異狀ナキヤ否ヤヲ點檢シ且列車通過ノ際ニ於ケル架空電車線ノ狀況ヲ注視スベシ

五　警備者ハ指導列車ニ先發スル直前ノ列車ノ通過時刻迄ニ次ノ二項ニヨル指定位置ニ就キ事故等ノ手配ヲナス場合ノ外其位置ヲ離ルベカラズ

六　警備者ノ位置ハ列車ノ左側トス但シ地勢及線路ノ狀況ニヨリ右側トスルコトヲ得

七　電力事務所長ハ警備者ノ就クベキ位置ヲ豫メ選定シ木杭ヲ以テ之ヲ標示スベシ

八　前項ノ標杭ハ餘リ目立タザル大サノモノトシ一定ノ着色ヲ施シ以テ他ノ標杭ト區別シ之ニ文字ヲ記入セザルモノトス

九　標杭打込ハ御召列車運轉ノ二日前ニ之ヲ完了スベシ

一〇　警備者ハ指定ノ位置ニアル間ハ線路ニ向ツテ直立シ御召列車接近シ來ルトキハ姿勢ヲ正シ目迎目送スベシ

一一　警備者ハ手信號旗(赤旗一本)**ペンチ**、**ナイフ**、**スパナー**各一箇、十六番鐵線若干、警備者配置表、列車時刻表ヲ携帶スベシ(**ペンチ**乃至鐵線ハ袋ニ入レ不體裁ナラザル樣携帶スベシ)

一二　警備者ハ指定ノ位置ニアル間手信號旗ヲ絞リタル儘左手ヲ以テ竿ヲ水平ニ柄ヲ前ニシテ把持シ、手信號現示ノ必要アル時ハ右手ニ取リ之ヲ現示スベシ

一三　電力區主任ハ警備者二人ニツキ一箇宛梯子及**ロープ**ヲ沿線適當ノ位置ニ備付ケ置クベシ

一四　電力區主任ハ都合シ得ル限リ携帶電話機ヲ警備者ニ携帶セシムベシ

一五　警備者ハ制帽、法被、脚絆、地下足袋及白手袋ヲ着用シ外套ノ類ヲ着用スルコトヲ得ズ、但シ降雨又ハ降雪甚シキ場合ニハ指定ノ雨衣ヲ着用スルコトヲ得

一六　警備者ノ雨具ヲ着用スル場合ニ御召列車通過ノ際ハ之ヲ脫スベシ

一七　警備者ハ常ニ沿線警備ノ保線係員ト連絡ヲ保持シ必要アル場合ニハ共同動作ヲナスベシ

一八　御召列車運轉當日ハ關係電力區主任ハ區員ト共ニ左ノ各項ニヨリ警備スベシ

一九　電力區主任ハ其區詰所ニ在リテ係員ヲ監督シ萬一事故等發生シタル場合ニハ其手配ヲ遺憾ナカラシムベシ

二〇　指定サレタル電力區助役ハ指導列車ニ乘務シ沿線ノ電氣設備ヲ注視シ御召列車運轉ニ支障ナキコトヲ確認スベシ

二一　指定サレタル助役又ハ技術員ハ指導列車ニ先行スル直前ノ列車及御召列車ヨリ約一時間前ニ出發スル列車ニ乘込ミ沿線電氣設備及警備ノ狀況ヲ監察スベシ

二二　電力區擔當助役ハ其詰所ニ在リテ擔當區域ノ警備ニ從事スベシ

二三　主任ハ指定サレタル驛又ハ詰所ニ技術員及電力工手(工手長ヲ含ム以下同ジ)若干名ヲ配置シ驛員等ト連絡ヲ保チ電氣設備ノ警備ニ從事セシムベシ

例　新橋、田町、大森、川崎、子安、横濱等

二四　詰所及驛ニテ警備ニ從事スル電力係員ハ御召列車通過ノ約三時間前ニ指定ノ詰所又ハ驛ニ到著シ其構內其ノ他ノ電力設備ヲ巡廻點檢シ指導列車通過十分前ヨリ指定ノ詰所又ハ驛舍內ニ詰メ必要アル場合ノ外乘降場ニ入リ又ハ詰所外ニ出ツベカラズ

二五　電力事務所長ハ前各項ノ外必要アル箇所ヲ指定シ電力係員ヲ配置スベシ

例　東京驛貴賓室電燈用分線盤ニ電力工手一名
　　原宿驛電燈其他警備ノタメ小荷物扱所ニ電力係員
　　神田、有樂町、大井町、蒲田、鶴見等ノ各驛ニ電力係員

二六　助役詰所ニハ應急用**モーターカー**(又ハ**トロリー**)ヲ配備シ何時ニテモ直チニ出發シ得ル樣準備ヲナシ置クベシ

二七　前項ノ**モーターカー**ニハ左ノ材料及器具ヲ積込ミ置クベシ

セビ	六分綱付	一組
ターンバツクル		一丁
バイス	一四吋	一丁
金切	大	二丁
	小	各一丁
シールド		一組
ゴム板		一枚
クランプ		三ケ
ゴム靴		一組
ゴム手袋		一組
手信號旗(赤、綠)		一組
携帶電話機		一個
ペンチ		若干
ナイフ		若干
スパナー		若干
碍子井型		四個
トロリー線		約三〇米
補助線		約三〇米

鐵線	四粍七子撚	約三〇米
鐵線	四粍	若干
鐵線	二粍	若干
ダブルイヤー		一〇個
ワイヤークリツプ		一〇個
ロープ		若干
繩		若干

二八　事故種類及狀況ニヨリ必要ナルベキ前項以外ノ材料及器具ハ直ニ之ヲ追加積込ミ得ル樣手近ニ之ヲ準備シ置クベシ

二九　第二六項ニヨリ驛又ハ詰所ニ配置サレタル電力係員ハ左ノ材料及器具ヲ準備シ置クベシ

鐵線	八番	約二〇米
鐵線	十六番	若干
ワイヤークリツプ	六番七子撚用	若干
シールド		一組
セビ	五分綱付	一組
バイス	十二吋又ハ十四吋	二丁
ボールトクリツパー	二十四吋又ハ三十六吋一丁	若干
ロープ	兩口三分四分	一丁
スパナー		

〃	五分六分	一丁
手信號旗		一組
携帶電話機		一個
ゴム手袋		一組

三〇　先發列車ニ乘務スル電力係員ハ左ノ材料及器具ヲ携帶スベシ

鐵線	八番	若干
鐵線	十四番	若干
曲線引金具		一組
ダブルイヤー		三個
ハンガーイヤー(コムバウンド)		五個
井型碍子	小	四個
ゴム手袋		一組
セビ		一組
ターンバツクル	三六吋	一丁
パラフイン打紐	二分ノ一吋	若干
信號旗		一組
ペンチ		若干
スパナー		若干
ナイフ		若干

事故關係事項

三一　御召列車及指導列車ハ蒸氣運轉ナルヲ以テ架線ニ故障ヲ生ジタル時ハ左ノ各號ニヨリ處置スベシ

イ　饋電可能ナラシムベシ(先發列車ヲ停車セシメザルタメ)

ロ　蒸汽列車運轉ニ支障ナキ程度ニ速ニ修理スベシ

三二　指導列車通過前ニ故障ヲ發見シタル場合ニハ

イ　輕微ナル場合ニハ直ニ修理シ指導列車ヲ通過セシムベシ

ロ　指導列車通過ニ支障ヲ及ボスベキ故障ナルトキハ直ニ主任ニ電話シ指揮ヲ待ツベシ若シ餘裕ナキトキハ指導列車ニ手配ヲナシ乘込事務所技師及助役ノ指揮ヲ待ツベシ

三三　指導列車通過後故障ヲ發見シタル場合ニハ

イ　輕微ニシテ蒸汽運轉ニ支障ナキ時ハ其儘ト爲シ置クベシ

ロ　御召列車通過ニ危險ト認メタル時ハ直ニ主任ニ通報シ保線係員ノ應援ヲ求メ出來得ル限リ**ロー**ブ及八番線等ニテ蒸汽運轉ニ支障ナキ程度ニ修理シ御召列車ヲ通過セシムベシ

ハ　前號ノ修理ガ御召列車通過前ニ完了スル見込ナキ場合ニハ保線係員ト共ニ停車手配ヲトルベシ

御召列車警護ニ關スル電燈電力關係打合事項

一　御召列車運轉ニ關係アル發變電所及開閉所(變電室開閉室ヲ含ム)ニシテ工事中ノモノハ御召列車運轉ノ二日前マデニ工事ヲ中止シ十日前ヨリ前日マデニ當該主任ニ於テ所內各設備ノ檢査ヲ施行シ絕緣抵抗竝ニ御召列車運轉當日ノ最大豫想負荷ノ試驗ヲ施行シテ安全ヲ確認シ且何時ニテモ切替ニ差支ナキ樣整備シ置シベシ

二　御召列車運轉線路ニ接近セル高壓配電線其他電氣工作物ニシテ工事中ノモノハ御召列車運轉ノ二日前マデニ工事ヲ中止シ十日前ヨリ前日マデニ絕緣抵抗及該施設物ノ御召列車運轉當日ノ最大豫想負荷ノ試驗ヲ施行シ電線變壓器可熔片等ノ安全ヲ確認スベシ尙配線復雜セル箇所其ノ他重要ナル箇所ニハ當日電力係員ヲ配置スベシ

三　貴賓室ハ御召列車運轉ノ十日以前ヨリ五日前迄ニ配線燈具電熱器等ノ絕緣抵抗ノ測定其他ヲ檢査シ且御召列車運轉當日ノ最大豫想負荷ノ試驗ヲ施行シ電線燈具電熱器可溶片其他器具ノ狀態ヲ檢査シ安全ヲ確認スベシ尙當日適當ナル箇所ニ電力係員ヲ配置スベシ

四　奈良**ホテル**ニ就テハ第二及第三項ニ準ジ手配スベシ

五　御召列車運轉線路ヲ橫斷又ハ之ニ接近スル省外ノ電線路其他工作物ノ取締方ハ鐵道局ニ於テ關係ノ向ニ照會シ萬遺憾ナカラシムベシ

上記省外電線路ニシテ工事ヲ施行スルモノハ御召列車運轉五日前迄ニ該工事ヲ終了スル樣取計ヒ若シ間ニ合ハザルトキハ鐵道局ニ於テ應急ノ處理ヲナスベシ

六　御召列車運轉當日ハ電力區主任及指定セラレタル助役ハ御召列車ガ受持區間ヲ運轉スル三時間前ニ所定ノ場所及電話番號ハ豫メ關係ノ向ニ明示シ置クベシ

七　電氣運轉區間以外ノ警備ニ從事スル電力工事ハ手信號族ヲ携帶セザルモノトス、手信號現示ノ必要アル場合ハ保線係員ニ依賴スベシ

八　線路ニ沿フテ電力設備ノ警備ニ從事スル電力係員ハ御召列車運轉ノ約三時間前ヨリ受持區間ヲ巡視警戒シ指導列車通過十分前ニ所定ノ位置ニ就クベシ

九　警備ニ從事スル電力工手ハ**ペンチ**ヲ携帶スベシ

（イ）東京鐵道局電力關係從事員警備心得

第一　一般警備ニ關スル事項

一　御召列車運轉當日該區間ノ停車場線路其ノ他ノ警備ニ從事スル係員又ハ警備區域内ニ勤務若ハ出入スルコトヲ要スル者ニ對シテハ別ニ定ムル腕章ヲ附セシムベシ

二　指導列車ニハ電氣運轉區間ニ限リ左記指定ノ職員ヲ乘組マシムベシ

電力事務所技師又ハ技手　一名

電力區助役　一名

電力工手　一名

三　御召列車運轉當日警備員ハ御召列車ガ受持區間ヲ運轉スル三時間前ニ所定ノ位置ニ著キ其ノ場所及電話番號ヲ豫メ關係ノ向ニ明示シ置クベシ

四　警備ノ解除ハ新橋電力事務所長ノ定ムル時限ニ依ルベシ

五　御召列車運轉ニ關係アル發變電所及開閉所(變電室開閉室ヲ含ム)ニシテ工事中ノモノハ御召列車運轉ノ二日前迄ニ工事ヲ中止シ十日前ヨリ前日迄ニ當該主任ニ於テ所内各設備ノ檢査ヲ施行シ絶緣抵抗ヲ測定シ御召列車運轉當日ノ最大負荷ニ對シ安全ヲ確認シ且何時ニテモ切換ニ差支ナキ樣整備シ置クベシ

六　御召列車運轉線路ニ接近セル電力線路其ノ他ノ電氣工作物ニシテ工事中ノモノハ御召列車運轉ノ二日前迄ニ工事ヲ中止シ十日前ヨリ前日迄ニ全設備ノ絶緣抵抗ヲ測定シ電線碍子、變壓器、可熔片等施設物ガ御召列車運轉當日ノ最大負荷ニ對シ安全ナルコトヲ確認スベシ

七　貴賓室ハ御召列車運轉ノ十日以前ヨリ五日前迄ニ配線燈具、電熱器等ノ絶緣抵抗ヲ測定シ各部ヲ檢

查シ且御召列車運轉當日ノ最大負荷ニ對シ電線燈具電熱器可熔片其ノ他ノ器具ガ安全ナルコトヲ確認スベシ

八　前三項ニ依リ測定シタル絶緣抵抗値ハ之ヲ記錄シ其ノ寫ヲ電力事務所長ニ提出スベシ

九　御召列車運轉線路ヲ橫斷又ハ之ニ接近スル省外ノ電線路其ノ他ノ工作物ノ取締方ハ關係ノ向ニ照會シ萬遺憾ナカラシムベシ上記省外電線路ニシテ工事ヲ施行スルモノハ御召列車運轉五日前迄ニ該工事ヲ修了スル樣取計ヒ若シ間ニ合ハザルトキハ應急ノ處置ヲ爲スベシ

一〇　御召列車運轉線路ニ接近スル事務室其ノ他ノ建物ハ窓硝子ヲ閉ツベシ殊ニ御召列車ヲ見下シ得ル箇所ニ對シテハ御召列車通過前相當時刻ヨリ窓掛又ハ覆アルモノハ之ヲ垂レ見透シ得ザル樣手配スベシ

一一　官舍合宿所居住者又ハ其ノ家族ニ在リテハ高見又ハ覗視等不敬ノ處爲ナキ樣注意スベシ尙御召列車運轉線路ヨリ望見シ得ベキ官舍合宿所ノ椽先又ハ物干場ニハ見苦シキ物ヲ掛ケ置クベカラズ

一二　事務室詰所、發變電所其ノ他ノ建造物ニ火災ノ起ラザル樣留意スルト共ニ豫メ防具ノ調整試演等ヲ行ヒ置キ突差ノ際違算ナカラシムベシ

一三　電力事務所長ハ豫メ電力供給者ト打合セ御召列車運轉當日ニ於ケル配電計畫ヲ定メ御召列車運轉ニ支障ナキヲ期スベシ

一四　電力事務所長ハ各所配給盤ノ指示ト開閉器開閉ノ實際ト相違スルガ如キコトナキ樣豫メ調査確認シ置キ御召列車運轉當日送電上ニ遺漏ナキヲ期スベシ

一五　電力事務所長ハ御召列車運轉當日重要ナル場所ニ掛員ヲ配置シ事故ニ際シ切換其ノ他送電上遺漏ナカラシムベシ

第二編　第十一章　警備及取締

一六　發變電所主任ハ御召列車運轉當日ノ從事員トシテ適任者相當數(二直分ヲ選定シ各員ノ部署ヲ指定シ送電ノ安全ヲ期スベシ

一七　發變電所構內ニハ無用ノ者出入セザル樣警戒スベシ

一八　御召列車ノ運轉ニ關シ特ニ緊急ヲ要スル電話ヲ爲サムトスル場合當該回線使用中ナルトキハ「御召列車」下通告シ他ノ通話ノ中止ヲ要求シ又要求ヲ受ケタルトキハ直ニ之ニ應ジ通話ニ支障ナカラシムベシ

一九　御召列車運轉當日ハ關係長、主任ニ於テ適當ノ者ヲ選ミ必要ト認ムル電話機設置箇所ニ配置シ通話ノ取扱ヲ爲サシムベシ

第二　電力線路警備ニ關スル事項

二〇　電力事務所長ハ御召列車運轉區間ニ於ケル架空電車線、饋電線、配電線、送電線其ノ他ノ電氣設備ヲ警備スル爲沿線必要ナル位置ニ電力工手ヲ配置スベシ

二一　沿線警備者(以下單ニ警備者ト稱ス)ハ線路亙長五〇〇**メートル**ニ付一人トス但シ電氣運轉區間以外ハ此ノ限ニ在ラズ

二二　土地線路及電氣設備ノ狀況ニ依リ前項ノ距離ハ之ヲ伸縮スベシ

二三　警備者ハ御召列車通過ノ約三時間前ニ現場ニ到著シ受持區間ヲ巡廻シ關係電氣設備ノ各部ニ異狀ナキヤ否ヤヲ點檢シ且列車通過ノ際ニ於ケル架空電車線ノ狀況ヲ注視スベシ

二四　警備者ハ指導列車ニ先發スル直前ノ列車ノ通過時刻前迄ニ次ノ二項ニヨル指定位置ニ著キ事故等ノ手配ヲ爲ス場合ノ外其ノ位置ヲ離ルベカラズ

二五　警備者ノ位置ハ列車ノ左側トス但シ地勢及線路ノ狀況ニ依リ右側トスルコトヲ得

二六　**電力事務所長ハ警備者ノ著クベキ位置ヲ豫メ選定シ木杭ヲ以テ之ヲ標示スベシ**

二七　前項ノ標杭ハ餘リ目立タザル大サノモノトシ一定ノ著色ヲ施シ以テ他ノ標杭ト區別シ之ニ文字ヲ記入セザルモノトス

二八　標杭打込ハ御召列車運轉ノ二日前ニ之ヲ完了スベシ

二九　警備者ハ指定ノ位置ニ在ル間ハ線路ニ向ツテ直立シ御召列車接近シ來ルトキハ姿勢ヲ正シ目迎目送スベシ

三〇　警備者ハ手信號旗(赤旗一本、**ペンチ**、**スパナー**各一個、一六粍鐵線若干)警備者配置表、列車時刻表ヲ携帶スベシ(**ペンチ**乃至鐵線ハ袋ニ入レ不體裁ナラザル樣携帶スベシ)

三一　警備者ハ指定ノ位置ニ在ル間手信號旗ヲ捲キタル儘左手ヲ以テ竿ヲ水平ニ柄ヲ前ニシテ把持シ、手信號現示ノ必要アル時ハ右手ニ取リ之ヲ現示スベシ

三二　電氣運轉區間以外ノ警備ニ從事スル電力工手ハ**ペンチ**ヲ携帶シ手信號旗ヲ携帶スベカラズ

三三　電力區主任ハ警備者二人ニ付一個宛梯子及**ロープ**ヲ沿線適當ノ位置ニ備付ケ置クベシ

三四　電力區主任ハ都合シ得ル限リ携帶電話機ヲ警備者ニ携帶セシムベシ

三五　警備者ハ制帽、法被、脚絆、地下足袋ヲ着用シ外套ノ類ヲ着用スベカラズ但シ降雨又ハ降雪甚シキ場合ニハ指定ノ雨衣ヲ着用スルコトヲ得

三六　警備者雨衣ヲ着用スル場合ハ御召列車通過ノ約十分前ヨリ之ヲ脫スベシ

三七　警備者ハ常ニ沿線警備ノ保線係員ト連絡ヲ保持シ必要アル場合ニハ共同動作ヲ爲スベシ

三八　御召列車運轉當日ハ關係電力區主任ハ區員ト共ニ左ノ各項ニ依リ警備スベシ

三九　電力區主任ハ其ノ區詰所ニ在リテ係員ヲ監督シ萬一事故等發生シタル場合ニハ其ノ手配ニ遺憾

ナカラシムベシ

四〇　指定セラレタル電力區助役ハ指導列車ニ乘務シ沿線ノ電氣設備ヲ注視シ御召列車運轉ニ支障ナキコトヲ確認スベシ

四一　指定セラレタル助役又ハ技術員ハ指導列車ニ先行スル直前ノ列車及御召列車ヨリ約一時間前ニ出發スル列車ニ乘込ミ沿線電氣設備及警備ノ狀況ヲ監察スベシ

四二　電力區擔當助役ハ其ノ詰所ニ在リテ擔當區域ノ警備ニ從事スベシ

四三　電力事務所長ハ驛又ハ詰所ヲ指定シ技術員及電力工手(工手長ヲ含ム以下同ジ)ヲ配置シ驛係員等ト連絡ヲ保チ電氣運轉區間ニ於ケル電力設備ノ警備ニ從事セシムベシ

四四　電力事務所長ハ前項ノ外必要ナル箇所ヲ指定シ電力係員ヲ配置シ電燈其ノ他ノ設備ニ從事セシムベシ

例　東京驛貴賓室電燈用分線盤ニ電力工手一名
　　原宿驛小荷物取扱所ニ電力係員
　　神田、有樂町、大井町、浦田、鶴見等ノ各驛ニ電力係員

四五　詰所及驛ニテ警備ニ從事スル電力係員ハ御召列車通過ノ約三時間前ニ指定ノ詰所又ハ驛ニ到著シ其ノ構內其ノ他ノ電力設備ヲ巡廻點檢シ指導列車通過十分前ヨリ指定ノ詰所又ハ驛舍內ニ詰メ必要アル場合ノ外乘降場ニ入リ又ハ詰所外ニ出ツベカラズ

四六　助役詰所ニハ應急用**モーターカー**(**トロリー**)ヲ配備シ何時ニテモ直ニ出發シ得ル樣準備ヲ爲シ置クベシ

四七　前項ノ**モーターカー**ニハ左ノ材料及器具ヲ積込ミ置クベシ

セビ	六分綱付	一組
ターンバツクル		一丁
バイス	一四吋	一丁
	大小	二丁
シールド		各一丁
ゴム板		一組
クランプ		一枚
ゴム靴		三ケ
ゴム手袋		一組
手信號旗(赤、綠)		一組
携帶電話機		一組
ペンチ		一ケ
ナイフ		若干
スパナー		若干
碍子井型		若干
トロリー線		四個
補助線		約三〇米
鐵線	四粍七子撚	約三〇米
〃	四粍	約三〇米
		若干

〃	二粍	若干
ダブルイヤー		六個
ハンガーイヤー		一〇個
ワイヤークリツプ		一〇個
ロープ		若干
繩		若干

四八　事故ノ種類及狀況ニ依リ必要ナルベキ前項以外ノ材料器具ハ直ニ之ヲ追加積込ミ得ル樣手近ニ準備シ置クベシ

四九　第四三項ニ依リ驛又ハ詰所ニ配置セラレタル電力係員ハ左ノ材料及器具ヲ準備シ置クベシ

鐵線	四粍	約二〇米
〃	一・六粍	若干
ワイヤークリツプ	五粍七子撚用	若干
シールド		一組
セビ	五分綱付	一組
バイス	十二吋又ハ十四吋	二丁
ボールトクリツパー	二十四吋又ハ三十六吋	一丁
ロープ		若干
スパナー	兩口三分四分	一丁
〃	五分六分	一丁

手信號旗		一組
携帶電話機		一組
ゴム手袋		一組

五〇　先發列車ニ乘務スル電力係員ハ左ノ材料及器具ヲ携帶スベシ

鐵線	四粍	若干
〃	二・三粍	若干
曲線引金具		一組
ダブルイヤー		三ケ
ハンガーイヤー(コムバウンド)		五ケ
井型碍子	小	四ケ
ゴム手袋		一組
シールド		一組
セビ		一組
ターンバツクル	三六吋	一丁
バイス	一二吋	二丁
パラフイン打紐	二分ノ一吋	若干
手信號旗		一組
ペンチ		若干
スパナー		若干

ナイフ　若干
五一　指導列車ニハ非常用品搭載ノ爲**ボギー**三等荷物緩急車一輛ヲ連結シ(已)ムヲ得ザル場合ハ本編成中ノ緩急車ヲ使用ス)アルニ付左ノ材料及器具ヲ積込ムベシ
鐵　線　四粍　若干
〃　二・三粍　若干
曲線引金具　一組
ダブルイヤー　三個
ハンガーイヤー(コムパウンド)　五ケ
井型碍子　小　四ケ
ゴム手袋　一組
ゴム靴　一組
シールド　一組
セ　ビ　三六吋　一組
ターンバックル　一二吋　一丁
バイス　一丁
パラフイン打紐　二分ノ一吋　若干
手信號旗　一組
ペンチ　若干
スパナー　若干

ナイフ　若干
五二　御召列車運轉當日品川程ケ谷國府津新宿ノ各驛ニ配置セル非常用車ニ左記材料及器具ヲ搭載シ即時出發ノ準備ヲ爲シ置クベシ
トロリー線　約三〇米
補助線　約三〇米
鐵　線　四粍七子撚　約三〇米
〃　四粍　若干
〃　二粍　若干
井型碍子　若干
ダブルイヤー　四個
ハンガーイヤー　六個
ワイヤークリップ　一〇個
ロープ　一〇個
繩　若干
クランプ　若干
ゴム靴　若干
ゴム手袋　三個
ゴム板　一組
シールド　一組
一組　一枚
一組

セビ　六分綱付　一組
ターンバツクル　一丁
バイス　一四吋　二丁
金切鋏　大小　各一丁
手信號旗(赤,綠)　一組
携帶用電話機　一個
ペンチ　若干
スパナー　若干
ナイフ　若干

五三　國分寺,立川間ニ於ケル警備ハ電氣運轉區間ニ準ジ施行スベシ

第三　事故關係事項

五四　御召列車及指導列車ハ蒸氣運轉ナルヲ以テ架線ニ故障ヲ生ジタル時ハ左ノ各號ニヨリ處置スベシ

イ　饋電可能ナラシムベシ(先發列車ヲ停電セシメザル爲)

ロ　蒸汽列車運轉ニ支障ナキ程度ニ速ニ修理スベシ

五五　指導列車通過前ニ故障ヲ發見シタル場合ニハ

イ　輕微ナル場合ニハ直ニ修理シ指導列車ヲ通過セシムベシ

ロ　指導列車通過ニ支障ヲ及ボスベキ故障ナルトキハ直ニ主任ニ電話シ指揮ヲ待ツベシ若シ其ノ餘裕ナキトキハ指導列車ニ手配ヲ爲シ乘込事務所技師及助役ノ指揮ヲ待ツベシ

五六　指導列車通過後故障ヲ發見シタル場合ニハ

イ　輕微ニシテ蒸汽運轉ニ支障ナキ時ハ其ノ儘ト爲シ置クベシ

ロ　御召列車通過ニ危險ト認メタル時ハ直ニ主任ニ通報シ保線係員ノ應援ヲ求メ出來得ル限リロープ及四粍線等ニテ蒸汽運轉ニ支障ナキ程度ニ修理シ御召列車ヲ通過セシムベシ

ハ　前號ノ修理ガ御召列車通過前ニ完了スル見込ナキ場合ニハ保線係員ト共ニ停車手配ヲ取ルベシ

（ロ）名古屋鐵道局管內御召列車運轉及警護其ノ他ニ關スル取扱方

第一　一般關係

一　警備員ニハ特ニ指定スル者ノ外必ズ制服又ハ所定ノ法被ヲ着用セシメ閉塞機手,通信工手,電力工手ニ卷脚袢ヲ附セシムベシ

二　警備員ハ外套ノ類ヲ着用スルコトヲ得ズ,但シ降雨又ハ降雪甚シキ場合ハ指定ノ雨衣ヲ着用スルコトヲ得,此ノ場合御召列車通過ノ場合之レヲ脫スベシ

三　御召列車運轉線路ニ於ケル警備員(自動信號ノ監視者ヲ除ク)ノ指定位置ニアル間ハ線路ニ向ツテ直立シ御召列車接近シ來ルトキハ姿勢ヲ正シ目迎目送スベシ

四　通信區主任,車電所主任,開閉所主任ハ警備員ノ配置場所,警備員擔當區域,警備職員氏名其ノ他必要ナル事項ヲ具シタル警備員配置表及圖面ヲ調製シ所屬事務所長ノ承認ヲ受クベシ

五　前號ノ警備員配置表ハ御召列車運轉十五日迄ニ電氣課長ニ提出スベシ

六　警備ノタメ驛所ニ出頭シタルトキハ其ノ旨驛長ニ通知シ自己ノ所在ヲ明カニシ相當連絡ヲ保ツベシ

七　關係從事員ハ大禮期間中ハ特ニ電氣設備ノ完全ヲ期スル爲メ何時ニテモ出務シ得ル樣心掛クベシ

八　驛所ニ於テ警備スル者ハ御召列車接近シ來ルトキハ其ノ位置ニ在リテ姿勢ヲ正シ居ルベシ

第二　通信關係省略

第三　車電關係省略

第四　電力關係

一　御召列車運轉線路ニ接近セル高壓配電線其ノ他電氣工作物ニシテ工事中ノモノハ御召列車運轉ノ二日前迄ニ工事ヲ中止シ十日前ヨリ前日迄ニ巡廻精細ニ點檢シ尙絕緣抵抗及該施設物ノ御召列車運轉當日ノ最大豫想負荷ノ試驗ヲ施行シ電線變壓器可熔片等ノ安全ヲ確認スベシ

檢査終了セシ箇所ニ對シテハ障害修理ノ外工事ヲ施行スベカラズ

高壓配電線路ノ本線横斷箇所、油入開閉器ノ設置箇所、配線複雜セル箇所其ノ他重要ナル箇所ニハ當日電力係員ヲ配置スベシ

二　貴賓室ハ御召列車運轉ノ十日前ヨリ五日前迄ニ配線、燈具、電熱器、電氣湯沸器等ノ絕緣抵抗ノ測定其ノ他精細檢査シ且御召列車運轉當日ニ最大負荷ノ試驗ヲ施行シ電線、燈具、電熱器可熔片其ノ他器具ノ狀態ヲ檢査シ安全ヲ確認スベシ

尙當日適當ナル箇所ニ電力係員ヲ配置スベシ

三　御召列車運轉當日ハ電力區主任、指定サレタル助役及技術員ハ御召列車ガ受持區間ヲ運轉スル三時間前迄ニ所定ノ場所ニ就クベシ而シテ所定ノ場所及其ノ電話番號ハ豫メ關係ノ向ニ明示シ置クベシ

四　警備ニ從事スル電力工手ハ手信號旗ヲ携帶セザルモノトス

手信號現示ノ必要アル場合ハ保線係員ニ依頼スルモノトス

五　警備ニ從事スル電力工手ニハ**ペンチ**警備員配置表御召列車及指導列車時刻表等ヲ携帶セシムベシ

六　線路ニ沿フテ電力設備警備ニ從事スル電力係員ハ御召列車運轉ノ約三時間前ヨリ受持區間ヲ巡視警戒シ指導列車通過十分前迄ニ所定ノ位置ニ就クベシ

七　前號警備員ニシテ各驛所ノ中間警備ニ從事スル者ハ御召列車ガ自驛通過後主任ノ指定セル驛所ニ引上ゲ他ノ警備員ト共ニ警備シ驛所ニ於テ油入開閉器其ノ他ノ警備ニ從事スル者ハ御召列車ガ次ノ開閉所(室)所在驛通過後迄其ノ驛所ニ在リテ警戒スベシ

八　電力區主任ハ前號ニ必要ナル材料及器具類ノ保管場所竝數量ヲ定メ警備員ニ通知セシムベシ

第五　開閉關係

一　御召列車運轉ニ關係アル開閉所(室)ニシテ工事中ノモノハ御召列車運轉ノ二日前迄ニ工事ヲ中止シ十日前ヨリ前日迄ニ當該主任又ハ管理者ニ於テ所內各設備精細檢査シ絕緣抵抗竝御召列車運轉當日ノ最大豫想負荷ノ試驗ヲ施行シテ安全ヲ確認シ且何時ニテモ切替ニ差支ナキ樣整備シ置クベシ

檢査終了セシ箇所ニ對シテハ障害修理ノ外工事ヲ施行スベカラズ

二　開閉所(室)從事員ハ御召列車運轉當日ニ於テ其ノ配電區域及隣接開閉所(室)配電區域通過中ハ特ニ其ノ電氣設備ヲ嚴重監視スベシ

三　當該主任又ハ管理者ハ設備故障ノ場合ニ於ケル措置方法ヲ豫メ關係箇所ト打合セ其ノ旨關係職員ニ熟知セシムベシ

警備心得

一　警備者ハ必ズ制服又ハ所定ノ法被ヲ着用スルコト但シ電力工手ハ卷脚袢ヲ着用スルコト

二　警備者ハ外套ノ類ヲ着用セザルコト但降雨甚シキ場合ハ指定ノ雨衣ヲ着用スルコトヲ得レドモ御召

列車通過ノ際ハ之ヲ脫スルコト

三　御召列車運轉線路ニ於ケル警備員ノ指定位置ニアル間線路ニ向テ直立シ御召列車接近シ來ル時ハ姿勢ヲ正シ目迎目送スルコト

四　警備員驛所ニ出頭シタル時ハ其旨驛長ニ通告シ自己ノ所在ヲ明カニシ相互連絡ヲ保ツ樣取計フコト

五　警備員ハ受持場所ニ御召列車通過三時間前ニ到著シ擔當場所ノ支障ナキコトヲ確認スルコト

六　警備ニ從事スル電力工手ハ所定ノ器具以外ノ物品ヲ携帶セザルコト

七　開閉所(室)從事員ハ御召列車運轉當日其配電區域及隣接開閉所(室)配電區域通過中特ニ配電狀態ヲ嚴重ニ監視スルコト

八　御召列車運轉當日ハ濱松(豐橋)岡崎ニ**モーターカー**ヲ用意シ何時ニテモ出動シ得ル樣整備シ置クコト

九　應急材料ハ靜岡(濱松)豐橋岡崎ニ分割配置シアルニ付豫メ承知シ置クコト

非常時ニ於ケル電話取扱方ノ件

非常時ノ場合ハ適當ノ處理ヲナシタル後最寄ノ保線區又ハ通信區ニテ取付ノ電話又ハ驛ニテ左記ニ電話スベシ

左記

原掛川間(掛川ヲ除ク)　靜岡電力區

掛川鷲津間(鷲津ヲ除ク)　濱松開閉室

鷲津蒲郡間(蒲郡ヲ除ク)　豐橋開閉室

蒲郡名古屋境界間　岡崎開閉室

注意事項

横斷警備者ハ標板ノ指定位置ニ開閉室所在地ハ開閉室ニ其他ノ個所ハ驛長ト打合セノ上適當ノ場所ニテ萬遺漏ナキ樣ナスベシ

警備員ノ引上ゲハ左記ニ依ルベシ

一　原濱松間(濱松ヲ除ク)ノ警備員ハ御召列車次驛通過後トス

一　自動信號施行區間ノ開閉室及驛警備員ハ御召列車次開閉室所在驛通過後トス

一　横斷及境界警備者ハ保線區通信區ノ警備解除ト同時ニ引上グルモノトス

(ハ)　大阪鐵道局ニ於ケル電氣關係御召列車警護ニ關スル件

電燈、電力、車電關係

警備事項

一　電燈、電力、車電係員ハ御大禮期間中ハ特ニ電燈、電力、車電設備ノ完璧ヲ期スル爲隨時招集スルコトアルヲ以テ何時ニテモ之ニ應召シ得ル樣心掛クルコト

二　電力區助役又ハ特ニ指定シタル技術員ハ御召列車運轉三時間前迄ニ擔當區域ヲ巡廻シタル後御召列車及指導列車ガ受持區內ヲ運轉スル間助役詰所ニ在リテ掛員ヲ監督シ萬一事故生ジタル場合ハ其ノ手配ニ遺憾ナカラシムルコト

三　電力區主任、電力區助役、車電所主任及車電所助役又ハ特ニ指定シタル技術員ハ御召列車及指導列車ガ受持區內ノ運轉三時間前ヨリ所定ノ場所ニ在リテ係員ヲ監督シ萬一事故發生シタル場合ハ其ノ手配ニ遺憾ナカラシムルコト尙詰所及其ノ電話番號ヲ豫メ關係ノ向ニ通知シ置クコト

四　電力區主任、車電所主任ハ警備配置圖(姓名記入ノモノ)ヲ調製シ來ル十月二十日迄ニ運輸事務所長經由電氣課長ニ提出ノコト

五　自動信號配電線路用油入開閉器着手ノ爲該設備一箇所毎ニ電力工手一名宛配置スルコト

六　發電所、開閉所、開閉室ヲ含ム以下同ジ、貴賓室竝其ノ他配線複雜ナル箇所又ハ重要ナル箇所ニハ御召列車運轉當日電力係員ヲ一名若ハ二名宛配置スルコト

七　電力區助役詰所ニハ電力工手二名宛ヲ配置スルコト但シ自動信號區間助役詰所ニハ電力工手四名トス

電力設備ノ檢査整備

八　自動信號及貴賓室ニ關係アル發電所及開閉所ハ御召列車運轉十日前ヨリ其ノ前日迄ニ電氣課員立會ノ上所內各設備ノ檢査ヲ爲シ絕緣抵抗竝御召列車運轉當日ノ最大豫想負荷試驗ヲ行ヒ安全ヲ確認シ何時ニテモ切替ニ差支ナキ樣整備シ置クコト

九　自動信號用配電線路ニ送電スル電源ハ豫備電源ト切替試驗ヲ御召列車運轉十日前迄ニ二回之ヲ施行スルコト

一〇　御召列車運轉線路ニ接近セル高壓配電線路其ノ他電氣工作物ハ御召列車運轉十日前ヨリ其ノ前日迄ニ絕緣抵抗及該施設物ノ御召列車運轉當日ノ最大豫想負荷試驗ヲ行ヒ電線變壓器、可熔片等ノ安全ヲ確認スルコト

一一　貴賓室ハ御召列車運轉十日前ヨリ其ノ五日前迄ニ配線燈具、電熱器等ノ絕緣抵抗ノ測定其ノ他ヲ檢査シ且御召列車運轉當日ノ最大豫想負荷試驗ヲ行ヒ電線燈具、電熱器、可熔片其ノ他器具ノ狀態ヲ檢査シ安全ヲ確認スルコト

一二　貴賓室ニ設備ノ電熱器ハ豫メ適當ナル場所ニ於テ試用シ各部ヲ檢査スルト共ニ特ニ發散臭氣除去ニ注意シ裝置後ノ暖房狀態ニ關シ溫度上昇竝之ニ要スル時間等ヲ試驗シ置クコト

一三　奈良**ホテル**ニ對シテハ第一〇項及一一項ニ準ジ檢査取扱ヲ爲スコト

一四　御召列車運轉線路ニ接近シテ施行スル工事ハ御召列車運轉前日迄ニ完了又ハ中止シ適當ニ後始末ヲ爲シ其ノ後ハ障碍修理ノ外工事ヲ施行セザルコト

携帶品及非常材料

一五　警備ニ從事スル電力工手ハ**ペンチ**ヲ携帶スルコト

一六　應急修理スル左記機械器具、材料ヲ電力區助役詰所ニ準備シ置クコト

品名	單位	京都	草津	近江八幡	奈良	龜山	山田
手袋**ゴム**（自動信號高壓用）	對	一	一	一	○	○	○
クロツパー（自動信號用）	ケ	一	一	一	○	○	○
絕緣**ペンチ**（〃）	ケ	二	二	二	○	○	○
メガー（〃）	ケ	一	一	一	○	○	○
ナイフ	ケ	六	四	二	○	○	○
脚（大）	ケ	二	一	一	○	○	○
脚（小）	ケ	一	一	一	○	○	○
捻子廻シ	挺	四	二	二	○	○	○
被覆線第二種二・六粍七本撚（自動信號用）	米	五〇	五〇	五〇	○	○	○
同（同）右一・六	米	五〇	五〇	五〇	○	○	○
右							
錆止鐵針金三・二粍（〃）	卷	四	三	二	○	○	○
ボンド							
テープ（**ゴム**）（**フリクシヨン**）	〃	四	三	二	○	○	○

油入開閉器（自動信號用）	ケ	一	一	一	一	一	一	○	○	○	○
ピン碍子高壓（〃）	〃	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	○	○	○	○
フユーズ各種（貴賓室用）	〃	一〇宛	○	○	○	○	○	○	○	○	○
電燈球各種（〃）	〃	一〇宛	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ソケツト（〃）	〃	五	○	○	○	○	○	○	○	○	○
セードホルダー（〃）	〃	五	○	○	○	○	○	○	○	○	○
セード　各種	〃	一〇宛	五宛	○	五宛	五宛	一〇宛	五	○	○	○
被覆線第一種一・二耗	米	四〇	二〇	○	二〇	二〇	四〇	五	○	○	○
〃　第四種二・〇〃	〃	六〇	三〇	○	三〇	三〇	六〇	一	○	○	○
フユーズ　三A	**ポンド**	一	一	○	一	一	一	一	○	○	○

電力警備員ノ警備心得

一七　線路ニ沿フテ電力設備ノ警備ニ從事スル電力係員ハ御召列車受持區域内通過三時間前迄ニ指定地ニ到著シ受持區域内ヲ巡視警戒シ指導列車通過十分前迄ニ所定ノ位置ニ就クコト

一八　油入開閉器看守者ハ同開閉器裝置柱ヨリ五米附近ノ位置ニテ線路ニ向ヒ直立シ油入開閉器ニ注意シ居リ御召列車接近シ來ルトキハ姿勢ヲ正シ目送スルコト

一九　警備ニ從事スル電力工手ハ手信號旗ヲ携帶セズ手信號現示ノ必要アルトキハ保線係員ニ依頼スルコト

二〇　自動信號用配電線路竝開閉所等ノ看守ニ從事スル者ハ御召列車ガ配電區域内ヲ通過スル迄所定ノ位置ニ滯留スルコト

二一　警備員ハ指定シタル腕章ヲ附着スルコト

二二　警備ニ從事スル電力工手ハ制帽、法被、股引、卷脚袢、地下足袋ノコト

（ニ）列車電燈ニ關スル警備ノ方法

御召列車ニハ東京車電所々屬車電手二名列車前部及後部ニ一名宛全區間ヲ通ジテ乘務セリ、又乘務車電手ノ豫備員トシテ車電手一名ヲ派遣シ御召列車ニ先行スル列車ニ乘込ミ本務車電手ニ故障ヲ生ジタルトキ之レニ交替ヲ易カラシメタリ、停車驛ニハ車電所助役及車電手ヲ配置シテ御召列車電氣設備ノ狀態ヲ注意シ乘組車電手ノ需ニ依リ應援助力セシメタリ

第二　警備員ノ配置

御召列車運轉區間ニ於ケル發、變電所、架空電車線、送電線及配電線、其ノ他電氣設備ヲ警備スル爲當日各現場ニ於ケル電力關係警備員ノ配置狀態ヲ擧グレバ次ノ如シ

東京鐵道局管内電力關係警備員ノ配置

（イ）發、變電所及開閉所ニ於ケル警備員ノ配置

警備人員ノ配置ハ第一表ノ通ニシテ各所孰レモ二直分ノ人員ヲ以テ之レニ當リ主任、正副助役、電氣手及技工トシ正助役ヲ通話責任者ト定メ外ニ電話番トシテ電氣手一名ヲ電話室ニ配置セリ、尙當時ノ勤務狀態左ノ如シ

（往　路）

前日第二直（前日午後三時ヨリ當日午前七時マデ）
前日第三直（前日午後十時ヨリ當日警戒解除時マデ）
當日第一直（當日午前五時ヨリ午後三時マデ）

（復　路）

當日第一直（前日午後十時ヨリ當日警戒解除時マデ）
當日第二直（當日午前八時ヨリ午後十時マデ）
中央線御召列車運轉當日ノ勤務狀態
當日第一直（前日午前十時ヨリ當日警戒解除時マデ）
當日第二直（當日午前八時ヨリ午後十時マデ）

所名	人員
赤羽發電所	四三名
王子變電所	一〇名
上野變電所	一三名
汐留變電所	一二名
大井町變電所	一一名
川崎變電所	九名
神奈川變電所	一〇名
大船變電所	九名
二宮變電所	一一名
湯河原變電所	一三名
大井町開閉所	六名

尙東海道線及中央線ニ於ケル御召列車運轉當日警備ヲ行ヒタル發電所、變電所及開閉所ハ左ノ如シ

前記ノ場所以外ニ於ケル高壓配電用變電室及開閉室ニ於ケル警備員ノ配置ハ電力區警備員中ニ之ヲ含ム

所名	人員
目黒變電所	八名
池袋變電所	五名
飯田町變電所	九名
大久保變電所	一一名
東中野變電所	一四名
武藏境變電所	一四名
田端變電所	六名
永樂町變電所	五名
神田開閉所	五名
大井町開閉所	六名

東海道線御召列車運轉當日

發電所　赤羽
變電所　王子、上野、池袋、大久保、飯田町、永樂町、汐留、目黒、大井町、川崎、神奈川、大船、二宮、湯河原
開閉所　田端、神田、大久保、大井町
中央線御召列車運轉當日
發電所　赤羽
變電所　王子、上野、池袋、大久保、飯田町、東中野、武藏境、目黒、汐留、永樂町
開閉所　田端、神田、大久保、大井町

（ロ）電力區ニ於ケル警備員ノ配置

（東海道本線）

品川電力區	（神田、横濱間）
大船電力區	（横濱、茅ヶ崎間）
國府津電力區	（茅ヶ崎、沼津間）
（中央線）	
新宿電力區	（原宿、八王子間）
名古屋鐵道局管內電力關係警備員ノ配置	
（東海道本線）	
靜岡電力區	（沼津、大府間）
名古屋電力區	（大府、米原間）

二〇五名	
一二九名	
一〇八名	
一五七名	
五九名	
六四名	

（中　央　線）

甲府電力區　（八王子淺川間）　一一名

大阪鐵道局管內電力關係警備員ノ配置

（東海道本線）

大阪電力區　（米原京都間）　一三七名

（關　西　線）

湊町電力區　（京都桃山山田間）　三六名

列車電燈ニ關スル警備員ノ配置

御召列車運轉當日御召列車御停車驛ニ於ケル列車電燈警備員ノ配置ハ次表ノ如ク車電所主任助役又ハ技術員及車電手ヲ配置シテ警備ノ完全ヲ期シタリ

東京鐵道局管內

東京驛	六名	山北驛	二名
沼津驛	二名	原宿驛	二名

名古屋鐵道局管內

靜岡驛	四名	濱松驛	三名
名古屋驛	四名	大垣驛	三名
米原驛	三名	東淺川驛	三名

大阪鐵道局管內

京都驛	五名	柘植驛	三名
津驛	三名	山田驛	三名
畝傍驛	四名	桃山驛	四名

第三　點檢其ノ他

御召列車運轉ニ際シ本省施設ノ電氣工作物ハ勿論省外施設ノモノト雖モ御召列車運轉區間ニ關係ヲ有スルモノニ對シテハ特ニ嚴密ナル點檢修理ヲ爲スノ要アルヲ以テ各鐵道局ヲ通ジ前揭電力警備ニ關スル令達ニ基キ恒例ニ依ル定期檢査ノ期日ヲ繰上ゲ御召列車運轉二日前迄ニ之レヲ施行セリ而シテ他所屬電氣工作物ニ對シテハ御召列車運轉線路ニ接近又ハ之レト交叉シ施設セラレタルモノハ孰モ電氣工作物規程ニ依ル適當ナル保護裝置或ハ保安設備ノ新設又ハ改修等ヲ爲サシメ工事完了ノ上ハ關係區所主任立會檢査ヲ爲シ萬遺漏ナキヲ期セシメタリ

尙東海道線刈谷驛構內ニ施設セル三河鐵道株式會社及畝傍驛構內ニ施設セル吉野鐵道株式會社ノ架空電車線ニ對シテハ御召列車運轉當日使用停止時間中適當ノ距離ニ於テ電路ヲ遮斷シテ無電壓トナスベク通牒ヲ發シ之ヲ實施セシメタリ

第四　送電、饋電及配電系統

御召列車運轉當日ニ於ケル送電、饋電及配電系統ニ關シテハ別表ノ通施行セリ

（1）赤羽發電所電源

赤羽發電所電源ハ電車運轉用變電所ノ內池袋、目黑變電所、列車線用變電所ノ內大井町變電所（水銀整流器竝自動信號機用高壓電燈動力用高壓電源トシテ田端開閉所及大井町舊變電所ニ使用シタル外大井工場構內變電所ニ送電シテ構內電燈ニ供給シタリ（附圖電第九圖參照）

（2）東京電燈會社受電々源

東京電燈會社ヨリノ受電々源ハ猪苗代、甲信及早川ノ各系統ヲ常用電源トシ八ツ澤、金井兩系統ヲ豫備トシテ前者ヲ淀橋ニ後者ヲ東京電燈會社川崎第一變電所ニ加壓セシム

尚送電ノ完全ヲ期スルタメ早川系ト東京汽力發電所トヲ並列運轉ヲナサシメタリ

(3)　饋電系統

電車線側及列車線側ニ於ケル饋電系統ハ別表及電第十圖ノ通リトス

1. 列車側

變電所	饋電區域	電源並機器運轉狀況				饋電方式	記事
		常用電源(系統)	運轉臺數	豫備電源(系統)	運轉臺數		
大井町	東京戸塚間	赤羽	水銀2組	川崎第二(早川系東火並列)		神奈川變ト並列	戸塚セクシヨン　午前2時
神奈川	同上	子安(早川系東火並列)	2組	内輪線(猪苗代系)	1組	大井町變ト並列	40分ヨリ
大船	戸塚小田原大船横須賀間	戸塚(甲信系)	2臺	大船分岐(早川系東火並列)	1臺	二宮變ト並列	11月6日午前9時40分
二宮	同上	二宮分岐(早川系東火並列)	2臺	二宮(甲信系)		大船變ト並列	11月27日午後3時40分
湯河原	熱海小田原間	二宮(甲信系)		二宮分岐(早川系東火並列)		單獨	迄トス

應急處置

饋電不能變電所	變更變電所	變更饋電區域	負荷狀況		記事
			變電所	負荷	
大井町	汐留、神奈川並列	東京戸塚間	汐留	A 3000	汐留變電車側饋電ノ儘母線分離ノ上第5,6號機ニヨリ列車側ニ饋電ス
			神奈川	3500	
神奈川	大井町、大船、二宮並列	東京小田原間 大船横須賀	大井町	4000	戸塚ヲ投入シ大船二宮ヲ並列トシ列車運轉ノ狀況ニ依リ川崎變ヲ電車側饋電ノ儘列車側ニモ饋電ス
			大船	4300	
			二宮	2600	
大船	大井町、神奈川、二宮並列	同上	大井町	3600	戸塚ヲ投入シ二宮變ヲ並列トス
			神奈川	3800	尚列車運轉ノ狀況ニヨリ小田原ヲ投入湯河原變ヲ並列トス
			二宮	3700	
二宮	大船、湯河原並列	戸塚熱海間 大船横須賀	大船	4000	小田原ヲ投入シ湯河原變ヲ並列トス
			湯河原	2400	
湯河原	大船、二宮並列	同上	大船	3000	二宮變ニテ二機並列ノ上小田原熱海間延長饋電ス
			二宮	3600	

2. 電車側

變電所	饋電區域	電線		饋電方式	記事
		常用電源(系統)	豫備電源(系統)		
王子	赤羽田端池袋上野間	田端(猪苗代系)	※淀橋(甲信系)	單獨	※印ハ無加壓
上野	東京上野間	同上	同上	同上	
汐留	東京品川間	同上	川崎第二(早川系東火並列)	同上	
飯田町	東京代々木間	淀橋(甲信系)	田端(猪苗代系)	同上	
東中野	代々木荻窪間	同上	※内輪線(甲信系)	同上	飯田町變ノ赤羽電源切替ハ從來通リトス 但シ御還幸日ニ限リ午後三時三十分ノ切替ハ午後二時零分トス
武蔵境	荻窪國分寺間	同上	※同上	同上	
池袋	赤羽池袋新宿間	赤羽	淀橋(甲信系)	同上	
目黒	品川新宿間	同上	内輪線(甲信系)	同上	
川崎	品川櫻木町間	内輪線(甲信系)	川崎第二(早川系東火並列)	同上	

應急處置

停電不能變電所名	變更變電所	變更饋電區域	負荷狀況	記事
王子	上野	東京田端赤羽間	9100	上野變ハ上野—田端—赤羽間延長饋電
	池袋	赤羽池袋新宿田端池袋間	6100	池袋變ハ池袋—田端間延長饋電
上野	王子	東京田端赤羽間	8900	王子變ハ池袋—田端間短縮ノ上上野—東京間延長饋電
	池袋	赤羽池袋新宿田端池袋間	6100	池袋變ハ池袋—田端間延長饋電
汐留	飯田町	牛込田町間	9100	飯田町變ハ代々木—牛込間短縮ノ上東京—田端間延長饋電
	目黒	田町恵比壽間	4900	目黒變ハ新宿—恵比壽間短縮ノ上品川—田町間延長饋電
	東中野	中野牛込間	8400	東中野變ハ荻窪—中野間短縮ノ上代々木—牛込間延長饋電
	武藏境	國分寺中野間	5200	武藏境變ハ荻窪—中野間延長饋電
	池袋	赤羽池袋恵比壽間	5900	池袋變ハ新宿—恵比壽間延長饋電
飯田町	東中野	中野牛込間	8400	東中野變ハ中野荻窪間短縮ノ上代々木—牛込間延長饋電
	上野	上野東京牛込間	9900	上野變ハ東京—牛込間延長饋電
	武藏境	中野國分寺間	5200	武藏境變ハ荻窪—中野間延長饋電
東中野	武藏境	國分寺代々木間	8400	武藏境變ハ荻窪—代々木間延長饋電
武藏境	東中野	同上	8400	東中野變ハ荻窪—國分寺間延長饋電

池袋	目黒	品川新宿池袋間	7200	目黒變ハ新宿—池袋間延長饋電
	王子	赤羽田端上野池袋赤羽間	7700	王子變ハ池袋—赤羽間延長饋電
目黒	汐留	東京品川恵比壽間	10500	汐留變ハ品川—恵比壽間延長饋電
	池袋	赤羽池袋恵比壽間	5900	池袋變ハ新宿—恵比壽間延長饋電
川崎	大井町神奈川變並列	品川櫻木町間	10600	大井町、神奈川變列車側饋電ノ儘電車側ニモ並列饋電トス

3. 自動信號及動力照明用高壓配電線

發變電所開閉所	配電區域 自動高壓	配電區域 電燈高壓	電源 常用	電源 豫備	記事
大久保	國分寺牛込間 大久保大崎間	國分寺大久保間 大久保品川間	赤羽	淀橋(甲信系)	
赤羽		赤羽池袋大久保間	同上	※同上	※印ハ無加壓トス
田端	大宮赤羽田端 大久保東京間 池袋赤羽	田端王子北千住間 池袋田端上野	同上	田端(猪苗代系)	
神田		上野東京 東京大久保間 秋葉原構内	田端(猪苗代系)	淀橋(甲信系)	
永樂町		東京大井町間	淀橋(甲信系)	田端(猪苗代系)	

大井町舊	牛込東京櫻木町間 品川大崎	大井町川崎間	赤羽	內輪線(甲信系)	
川崎		川崎東横濱間 横濱入江間	內輪線(甲信系)	川崎第二(早川系)	
横濱變室	横濱大船横須賀間	横濱構內	程ケ谷(甲信系)	※電燈(早川系) 自働(赤羽)	※ヲ附シタルハ加壓セズ
大船開室			鎌倉(甲信系)	程ケ谷(甲信系)	
國府津開室	大船小田原間	横濱大船横須賀間	足柄(日本電力)	熱海(箱根系)	
東京開室			丸ノ內(甲信系)	汐留變(早川系)	
大宮工變室		東京構內南北變室及本省	大成變(上信系)	川越變(秩父系)	大宮工場變電室ヨリハ常時配電セズ
汐留			川崎第二(早川系)	田端(猪苗代系)	永樂町變ヲ豫備トシ東京大井町間配電スルコトアルベシ

自働信號及東京驛構內動力照明用高壓配電應急處置

配電不能所、室名	變更所室名	配電區域變更狀態	負荷狀態	記事
大久保	田端	大宮 赤羽 田端 赤羽 池袋間 東京田端 大久保 大崎 牛込 大久保 國分寺	A 44	
田端	赤羽	大宮 赤羽 田端 赤羽 池袋間 東京 田端 大久保	16	
大井町舊	大久保	牛込 東京 櫻木町 牛込 大久保 國分寺間 品川 大久保	51	
横濱變室	大井町舊	牛込 東京 櫻木町 品川 大崎及横濱 大船間	33	電源停電ノ場合ハ大井町舊變ヨリ延長スルモノトス(大船横須賀間ハ配電停止ノ儘)
國府津開室	大船開室	横濱 小田原間	32	電源停電ノ場合ハ大井町舊變ヨリ大船開閉室電壓調整器ヲ使用配電スベシ(大船横須賀間ハ同上)
東京開室	汐留變或ハ永樂町變	東京驛構內及南北變電室	40	

4. 自動信號機用高壓配電線

發變電所 開閉室	配電區域 自動高壓	電燈高壓	電源 常用	豫備	記事
大井町	牛込東京横濱		赤羽	大久保(赤羽) 横濱(東電程ケ谷)	
横濱	横濱大船横須賀		東電程ケ谷(甲信系)	大井町(赤羽) 大船(東電鎌倉)	
國府津	大船國府津小田原		日電足柄(日電系)	大船(東電鎌倉)	
濱松	濱松豐橋		東電		
豐橋	豐橋岡崎		東邦電力		
岡崎	岡崎名古屋		矢作電力		
名古屋	名古屋大垣		東邦電力	大垣(東邦電力)	
米原	大垣米原		宇治川電力	大垣(東邦電力)	
京都	米原京都		京都電燈	近江八幡(宇治川電力)	
吹田	京都明石		吹田	神戸(神戸市電) 明石(宇治川電力)	

第五　御召列車試運轉ノ際ノ警備豫行

御大禮御召列車ノ試運轉ハ左記ノ通施行セリ

十　月十一日　東京　山田間
同　二十六日　原宿　東淺川間
同　二十八日　原宿　東淺川間
十一月二十七日　鶴見　横濱港間

右各區間ニ於ケル試運轉ニ際シテハ其ノ警備方法警備員ノ配置竝給電系統等ハ總テ御召列車運轉ノ場合ト全ク同一ナル方法順序ニ據リ執行シタリ

第六節　行違待避列車及電車關係

御召列車ノ運轉ニ當リ其ノ運轉線路ニハ御召列車ノ運轉時刻約三時間前ヨリ通過後迄貨物列車ヲ運轉セシメザルコトトシ尙複線區間ニ於テハ線路ノ途中ニ於テ指導列車ト行違運轉ヲ爲サザルコトトナセルモ旅客列車及電車ニ在リテハ貨物列車ノ如ク取扱ヒ得ザル關係アリ自然御召列車ト線路ノ途中ニ於テ行違運轉ヲ爲スコトトナリタル結果之等ノ列車及電車ニ對シ相當ノ警備取締ヲ要スルニ至レリ卽チ此ノ種ノ列車及電車ニ對シテハ各客車毎ニ鐵道職員一名ヲ乘込マシメ尙關係官廳ト打合ノ上警察官ヲ乘込マシメ該列車ガ御召列車ト近接スル時刻ヲ見計ヒ旅客ニ其ノ旨ヲ通告シ御召列車運轉線路側ノ窓硝子ヲ閉チ且其ノ線路側ノ便所ヲ閉鎖シ又旅客ヲシテ乘降臺ニ佇立セシメザルコトトナセリ

運轉中途中驛ニ於テ御召列車ト行違フ列車、電車ニ對シテハ前述ノ如ク窓硝子ヲ閉ツルノ外鎧戸ヲ閉チ若ハ窓掛ヲ垂レ見透ヲ遮ラシメタリ

今如上ノ警備取締實行ノ爲列車電車ニ乘込マシメタル鐵道職員數ヲ擧グレバ左ノ如シ

東京鐵道局管內

十一月六日(京都ニ行幸ノ儀)

東海道線旅客列車		一七三名
同　電車		一四八
山手線　電車		三七
計		三五八

十一月二十七日(東京ニ還幸ノ儀)

東海道線旅客列車		一一五
同　電車		八二
山手線　電車		二一
計		二一八

十一月二十九日(大正天皇御陵親謁ノ儀)

中央線旅客列車		一三
同　電車		五七
山手線　電車		八六
計		九五

十二月四日(觀艦式行幸ノ際)

東海道線旅客列車		九五

同　電車	二一二	
山手線　電車	四八	
計	三五五	
名古屋鐵道局管内		
十一月六日(京都ニ行幸ノ儀)		
東海道線	八〇	
十一月七日(京都ニ行幸ノ儀)		
東海道線	六四	
十一月二十六日(東京ニ還幸ノ儀)		
東海道線	二六	
十一月二十七日(東京ニ還幸ノ儀)		
東海道線	六五	
大阪鐵道局内		
十一月　七日(京都行幸ノ儀)	二九	
十一月十九日(神宮親謁ノ儀)	八八	
十一月廿二日(山田ヨリ京都ニ還幸)	六一	
十一月廿三日(神武天皇山陵親謁ノ儀)	九〇	
十一月廿五日(明治天皇山陵親謁ノ儀)	二〇	
十一月廿六日(東京ニ還幸ノ儀)	三八	

第七節　一般旅客取扱制限

御召列車ノ發著又ハ通過スル關係停車場ニ於ケル列車、電車旅客取扱方ニ付テハ第六章第二節第六節所載
御召列車運轉及警護ニ關スル件別表掲載ノ時間内ニ於テハ當該乘降場又ハ線路ニ於テハ旅客ノ取扱ヲ爲シ
又ハ一般列車(含電車)ノ發著ヲ禁止シタルガ其ノ取扱方ヲ示セバ左ノ如シ

東京驛

△列車關係

十一月六日(京都ニ行幸ノ儀)

(一)　東京驛ニ於テハ初列車ヨリ御召列車御發迄一般乘降客ノ取扱ヲ爲サズ同時間内ノ各列車ハ東京
新橋間空車トシテ運轉ス但シ東京著午前五時三十分(四〇列車)、同六時(四二列車)、同六時二十五分(二八
列車)ノ列車ニ限リ御召列車關係鐵道職員ニ限リ東京驛迄乘車セシム
(二)　横須賀發海軍儀仗兵ノ乘車シタル臨時一箇列車午前五時五分ニ東京驛ニ到著ス
(三)　下リハ東京發午前七時二分上リハ同著午前七時十五分ヲ最後トシ御召列車御發迄東京驛ニ於ケ
ル列車ノ發著ヲ停止ス

十一月二十七日(東京ニ還幸ノ儀)

(一)　東京驛ニ於テハ下リ午前十一時三十二分發上リ午前十一時四十九分著ノ列車限リ御召列車御著
鹵簿御發迄一般乘降客ノ取扱ヲ停止シ同時間内ノ各列車ハ東京新橋間空車トシテ運轉ス

（二）横須賀發儀仗兵ノ乘車シタル臨時一箇列車午後一時十三分ニ東京驛ニ到著ス

△電車關係

十一月六日（京都ニ行幸ノ儀）

（一）京濱線

初電車ヨリ東京午前六時五十四分三十秒發迄ノ上下各電車ハ旅客ヲ乘車セシメタル儘東京及有樂町驛ヲ通過セシメ爾後御召列車東京驛發車迄ノ各電車ハ上リハ有樂町驛下リハ神田驛ニテ折返シ運轉トス但シ有樂町驛ニテ折返ス電車ハ新橋驛ニテ乘客全部ヲ下車セシメ新橋有樂町間ハ空車廻送トス又有樂町驛午前六時五十六分著ノ電車ハ空車ノ儘東京驛迄運轉シ同驛神田寄中線ニ收容シ置クモノトス

（二）山手線

京濱線電車同樣初電車ヨリ東京驛午前六時五十三分三十秒迄ノ上下各電車ハ東京及有樂町驛ヲ通過セシメ爾後御召列車發車迄ノ各電車ハ上リハ田町驛下リハ上野又ハ神田驛ニテ折返シ運轉トス

（三）中央線

初電車ヨリ神田驛午前七時四分迄ノ上リ電車ハ乘客全部ヲ神田驛ニテ下車セシメ下リ電車ハ東京驛ニテ旅客ノ取扱ヲ爲サズ神田驛ヨリ乘車セシメ東京神田間ハ空車廻送トシ爾後御召列車東京驛發車迄ノ各電車ハ神田驛ニテ折返シ運轉トス

十一月二十七日（還幸ノ場合）

（一）京濱線

東京驛正午ヨリ午後二時五十五分三十秒迄ノ上下各電車ハ旅客ヲ乘車セシメタル儘東京及有樂町驛ヲ通過セシメ爾後鳳輦東京驛御發迄ノ各電車ハ上リハ有樂町驛下リハ神田驛ニテ折返シ運轉トス但シ有樂町驛折返シ電車ハ新橋驛ニテ乘客全部ヲ下車セシメ新橋有樂町間ハ空車廻送トス又有樂町驛午後二時五十四分著ノ電車ハ空車ノ儘東京驛迄運轉シテ同驛神田寄中線ニ收容シ置クモノトス

（二）山手線

京濱線電車同樣正午ヨリ午後二時五十三分三十秒迄ノ上下各電車ハ旅客ヲ乘車セシメタル儘東京及有樂町驛ヲ通過セシメ爾後鳳輦東京驛御發迄ノ各電車ハ上リハ田町驛下リハ上野又ハ神田驛ニテ折返シ運轉トス

（三）中央線

神田驛正午ヨリ午後三時四分迄ノ上リ電車ハ乘客全部ヲ同驛ニテ下車セシメ下リ電車ハ東京驛ニテ旅客ノ取扱ヲ爲サズ神田驛ヨリ乘車セシメ東京神田間ハ空車廻送トシ爾後鳳輦東京驛御發迄ノ各電車ハ神田驛ニテ折返シ運轉トス

名古屋驛

十一月六日（京都ニ行幸ノ儀）

（一）東海道線

（イ）第四列車（午後一時三十八分發）熱田驛ニ臨時停車シ旅客ノ取扱ヲ爲ス

（ロ）第七一五列車(午後二時四十五分發)及第七三六列車(午後二時三十五分)ハ名古屋驛ヲ通過セシム

（ハ）第九列車午後三時十一分發)ハ指導列車ニ充當セルヲ以テ熱田驛ニ一分間停車セシメ名古屋驛ニテハ旅客ノ取扱ヲ爲サズ

（ニ）第七〇八列車(午後三時三十六分發)ハ桃杷島驛ニテ御著輦ヲ待合ス

（二）關西線

（イ）第一〇五列車午後二時十分發)ハ名古屋派出所ニ停車シ旅客ノ取扱ヲ爲ス

（ロ）第二〇八列車午後三時七分著)ハ四日市驛ヨリ時刻ヲ變更シ四日市午後二時二十五分發名古屋同四時五分著トス

（ハ）第二〇七列車(午後三時二十五分發)ハ名古屋驛ヲ約二十五分繰上ゲ八田迄空車廻送トス

（三）中央線

（イ）第八二一列車(午後三時十二分發)ハ名古屋驛ヲ早發セシメ鶴舞公園迄空車廻送トス

（ロ）第八一八號列車(午後三時二十二分著)ハ古渡驛ニテ御著輦ヲ待合ス

十一月七日(京都ニ行幸ノ儀)

（一）東海道線

（イ）第一〇列車(午前十一時十二分發)ハ枇杷島驛ニテ御發車ヲ待合ス

（ロ）第七一一列車(午前十一時二十分發)ハ熱田驛ニテ御發車ヲ待合ス

（二）關西線

（イ）第二〇三列車(午前九時五十八分發)ハ名古屋派出所ニ停車シ旅客ノ取扱ヲ爲ス

（ロ）第二〇六列車(午前十時四十五分著)ハ八田驛ニテ御發車ヲ待合ス

（三）中央線

（イ）第六三四列車(午前九時四分著)ハ當日多治見名古屋間ノ運轉ヲ休止ス

（ロ）第八一七列車(午前九時五十八分發)ハ名古屋驛ヲ早發シ鶴舞公園迄空車廻送トス

（ハ）第六三六列車(午前十一時二分著)ハ古渡驛ニテ御發車ヲ待合ス

十一月二十六日(東京ニ還幸ノ儀)

（一）東海道線

（イ）第二列車午後一時八分發)ハ熱田驛ニ臨時停車シ旅客ノ取扱ヲ爲ス

（ロ）第四列車午後一時三十八分發)ハ指導列車ニ充當セルヲ以テ熱田驛ニ臨時停車シ名古屋驛ニテハ旅客ノ取扱ヲ中止シ一分間停車トス

（二）關西線

（イ）第二〇五列車(午後一時發)ハ名古屋派出所ニ停車シ旅客ノ取扱ヲ爲ス

（ロ）第一〇二列車(午後二時八分著)ハ八田驛ニテ御著車ヲ待合ス

（ハ）第一〇五列車(午後二時十分發)ハ名古屋驛ヲ早發シ八田驛迄空車廻送トス

（三）中央線

（イ）第八一九列車(午後一時十分發)ハ名古屋驛ヲ早發シ鶴舞公園迄空車廻送トス

（ロ）第六三八列車(午後二時六分著)ハ古渡驛ニテ御著車ヲ待合ス

十一月二十七日(東京ニ還幸ノ儀)

（一）東海道線

（イ）第七〇五列車(午前六時十五分發)ハ熱田驛迄延長運轉シ名古屋驛ニテハ旅客ノ取扱ヲ爲サズ

(ロ)　第七三二列車(午前六時四十分發)ハ名古屋驛ヲ早發シ熱田驛迄空車廻送トス

(ハ)　第三四列車(午前七時二十分發同上

(ニ)　第四〇一列車(午前七時三十分著)ハ熱田驛ニテ打切リ名古屋驛ヨリ別編成ニテ特發ス

(ホ)　第七三三列車(午前七時五十一分著)ハ熱田驛ニテ御發車ヲ待合ス

(ヘ)　第三六列車(午前七時五十分發)ハ枇杷島驛ニテ御發車ヲ待合ス

(二)　關西線

(イ)　第二〇一列車(午前七時發)ハ名古屋派出所ニ停車シ旅客ノ取扱ヲ爲ス

(ロ)　第二〇二列車(午前七時十六分著)ハ八田驛ニテ御發車ヲ待合ス

(ハ)　第一四六列車(午前七時五十五分著)ハ蟹江驛ニテ御發車ヲ待合ス

(ニ)　第一三一列車(午前七時五十七分發)ハ名古屋驛ヲ早發シ八田驛迄空車廻送トス

(三)　中央線

(イ)　第八一四列車(午前七時三十三分著)ハ古渡驛ニテ御發車ヲ待合ス

(ロ)　第八一五列車(午前八時發)ハ名古屋驛ヲ早發シ鶴舞公園迄空車廻送トス

京都驛

十一月七日(京都ニ行幸ノ儀)

(一)　東海道線

(イ)　第一一四列車(午後二時六分著)ハ向日町驛ニテ待合セ同驛午後二時二十五分發京都著午後二時四十分ニ變更ス

(ロ)　第一〇一列車(午後二時發)ハ約十五分繰上ゲ乘客ノ取扱ヲ停止ス

(二)　山陰線

第九〇二列車(午後二時十八分著)ハ御著輦迄信號機外ニテ待合ス

十一月十九日(神宮親謁ノ儀)

(三)　東海道線

(イ)　第四列車(午前十時三十五分著)ハ御發車迄信號機外ニテ待合ス

(ロ)　第一七列車(午前十時二十七分著)ハ御發車迄信號機外ニテ待合ス

(四)　奈良線

第六〇八列車(午前十時二十六分著)ハ御發車迄信號機外ニテ待合ス

十一月二十二日(山田ヨリ還幸)

(一)　東海道線

第一一四列車(午後二時六分著)ハ向日町驛ニテ待合セ京都著午後二時三十分ニ變更ス

(二)　奈良線

第六一四列車(午後二時三十一分著)ハ信號機外ニテ御著車ヲ待合ス

(三)　山陰線

第九〇二列車(午後二時十八分著)同上

十一月二十三日(神武天皇山陵親謁ノ儀)

(一)　東海道線

(イ)　第三〇八列車(午前九時二十分著)乘客ハ向日町驛ニテ下車第一〇六列車ニ乘換セシメ向日町京都間空車トス

（ロ）第一〇六列車(午前九時三十分著)第一三一列車(午前九時四十四分著)ハ信號機外ニテ御發車ヲ待合ス

（ハ）第四三列車午後二時三十三分著)ハ山科驛ニ待合セ御發輦後入驛セシム

（ニ）第四〇一列車(午後二時四十三分著)ハ大津驛ニテ待合セ第四三列車ノ續行トス

（ホ）第五一六列車(午後二時四十四分著)ハ信號機外ニテ御著車ヲ待合ス

（二）奈良線

第六〇七列車(午前九時十分發)第六一四列車(午後二時三十一分著)ハ御召列車ノ後發又ハ後著ニ時刻ヲ變更ス

十一月二十五日(明治天皇山陵親謁ノ儀)

（一）東海道線

（イ）第三〇八列車(午前九時二十分著)ハ信號機外第一〇六列車(午前九時三十分著)ハ梅小路ニテ何レモ待合ス

（ロ）第四一四列車(午前九時二十五分發)ハ時刻變更シ御召列車ノ後發トス

（ハ）第七〇五列車(午前十時五十二分著)ハ山科驛ニテ待合セ京都著午前十一時二十六分ニ變更ス

（ニ）第七〇八列車(午前十一時二分著)ハ向日町驛ニテ御著車ヲ待合ス

（二）奈良線

（イ）第六〇七列車(午前九時十分發)ハ御發輦後出發ニ時刻ヲ變更ス

（ロ）第六〇九列車(午前十一時十二分發)ハ御著車後出發ニ時刻變更ス

（三）山陰線

第二〇四列車(午前十一時二十四分著)ハ信號機外ニテ待合ス

十一月二十六日(東京ヘ還幸ノ儀)

（一）東海道線

第七〇五列車(午前十時五十二分著)第七〇八列車(午前十一時二分著)ハ信號機外ニテ御發車ヲ待合ス

山田驛

十一月十九日(神宮親謁ノ儀)

（一）第二〇三列車ハ山田驛通過トス

十一月二十二日(京都ニ還幸)

（二）第二四一列車ハ山田上口驛ニ臨時停車セシメ山田著旅客ヲ成ルベク同驛ニ下車セシム

畝傍驛

十一月二十三日(神武天皇山陵親謁ノ儀)

第七〇九、七一〇、七一一、七一二列車ハ畝傍驛通過トス

桃山驛

十一月二十五日(明治天皇山陵親謁ノ儀)

第六〇八列車ハ桃山驛通過トス

第八節　其ノ他

第一項　線路附近鹵簿御通過ノ場合ノ取締

泉山御陵及桃山御陵行幸ノ場合鹵簿其ノ他鐵道關係箇所御通過ニ關シ左ノ通宮內省主馬寮土岐事務官ヨリ通報アリタルニ付大鐵局長ニ對シ列車運轉上ノ注意方通牒セリ

十一月二十四日泉山御陵行幸ノ節

皇宮御出門　午前九時　山陵御著　午前九時四十分

山陵御出門　午前十一時　皇宮御著　午前十一時四十分

御道筋ノ鐵道線路ト交叉スル箇所

東海道本線京都山科間　大谷中學校東方寄新道交叉點

往ノ場合　午前九時二十五分ヨリ同九時三十五分迄ノ間ニ於テ通御

復ノ場合　午前十一時五分ヨリ同十一時十五分迄ノ間ニ於テ通御

鹵簿通御ノ際氣笛ヲ吹鳴スルトキハ御馬車ノ馬ヲ驚カシムルヲ以テ特ニ注意ヲ要ス

十一月二十五日桃山御陵行幸ノ節

御料馬車ノ廻送及御召列車ニ乘車セザル供奉員等ノ自動車ガ往復通過スル踏切

東海道本線京都山科間　師團街道交叉點

奈良線京都稻荷間　同

同　稻荷桃山間　桃山女子師範學校東方桓武天皇御陵前交叉點

御料馬車及諸員ノ自動車ハ皇宮ヲ午前七時出發桃山御陵へ同八時三十分到著又御陵午前十一時三十分出發皇宮ニ午後一時到著ス

列車ガ右踏切ヲ通過スル際馬車又ハ自動車ノ方ヲ待合ハサシムルコトハ勿論差支ヘナシ

道路及踏切ノ取締ハ京都府廳ニ於テ施行スルモ鐵道側ニ於テモ踏切ニ注意ヲ拂ハレタシ

右通牒ニ基キ大鐵局長ハ左ノ如ク運轉ノ取扱ヲ爲セリ

十一月二十四日泉山御陵行幸ノ際

今熊野跨線橋下現場ニ電話機ヲ設ケ京都驛ト接續シ列車ハ鹵簿ガ線路跨線橋通御後山科京都ヲ出發セシムルコトトセリ

十一月二十五日桃山行幸ノ節御馬車廻送ノ際

踏切道ニ對シテハ番人ヲ附シ列車ハ該踏切(京都稻荷間、京都山科間師團街道及稻荷桃山間桓武天皇山陵前踏切ノ三箇所)ニテハ氣笛ヲ吹鳴セザルコトトセリ

第二項　地方鐵道列車ノ運轉停止其ノ他

御召列車ノ運轉線路ヲ橫斷又ハ之ニ接近スル省外ノ電線路其ノ他工作物ノ取締方ハ監督局ニ於テ十月八日關係ノ向ニ左ノ如ク照會シ萬遺憾ナカラシメタリ

關係地方鐵道軌道代表者宛

依命通牒

京都ニ於テ今秋御擧行アラセラルベキ御大禮前後ニ於ケル御召列車運轉警護ニ關シテハ一般ニ萬遺漏ナキヲ期スルハ勿論ノ義ナルモ尙左記事項特ニ勵行可相成

記

一　御召列車運轉線路ヲ橫斷又ハ之ニ接近スル電線路其ノ他ノ工作物若ハ御召列車運轉線路ニ近ク並行又ハ接近スル線路ヲ運轉スル列車又ハ車輛ニ對スル取締ハ萬遺憾ナカラシムベク貴鐵道(又ハ軌道)ニ於テハ關係鐵道局竝地方廳ト打合セノ上充分ナル手配ヲ爲スベキコト

二　上下ニ於テ交叉スル線路ノ上方又ハ下方ニ御召列車ガ運轉スル場合ハ同時ニ他方ノ線路ニ列車又ハ車輛ヲ運轉セシメザルコトヲ要スルニ付貴鐵道(又ハ軌道ニ於テハ關係鐵道局竝地方廳ト打合セノ上充分ナル手配ヲ爲スベキコト

關係地方長官宛

依命通牒

京都ニ於テ今秋御擧行アラセラルベキ御大禮前後ニ於ケル御召列車運轉警護ニ關シ關係地方鐵道及軌道ニ對シ別紙寫ノ通通牒致置候條御了知相成度

(地方鐵道、軌道ニ發シタル通牒ノ寫ヲ添付ス)

東京、名古屋、大阪鐵道局長宛

通知

京都ニ於テ今秋御擧行アラセラルベキ御大禮前後ニ於ケル御召列車運轉警護ニ關シ關係地方鐵道及軌道ニ對シ別紙寫ノ通依命通牒致置候條右ニ關シ地方鐵道又ハ軌道ヨリ打合アリタル場合ハ可然御取計相成候樣致度尙右ノ旨ハ關係地方長官ヘモ同樣ニ通牒致置候間爲念及御通知候

超エテ十月二十五日鹵簿通過及廻送御物通過ニ當ル踏切道ニ責任者配置方ニ付左ノ通關係軌道會社ニ通牒スルト共ニ地方長官ニモ爲念其ノ旨通牒シタリ

依命通牒

今秋擧行アラセラルベキ御大禮前後ニ於ケル御召列車運轉警護ニ關シテハ曩ニ依命通牒致置候處尙鹵簿通御又ハ廻送御物ノ通路ニ當ル貴軌道踏切道ニ就テハ特ニ左記事項ニ關シ萬遺漏無之樣注意有之度

一　鹵簿通御及廻送御物通過ニ當ル踏切道ニ於テハ平素ニ於ケル踏切設備ノ有無ニ不拘當該時刻ニハ相當該責任者二名以上ヲ配置シ地方廳ト打合セノ上充分取締ヲ爲スコト

二　右踏切道ニ於ケル閉塞機ガ道路上ニ銳角ヲ爲セルモノ其他踏切箇所ニ於ケル施設物ガ通行ニ際シ障害ヲ及ボスノ虞アルモノ又ハ見苦シキモノ等アラバ豫メ地方廳ト打合セノ上相當手配ヲ爲スコト

第九節　鐵道部外警備概要

警備取締ニ關スル事項中鐵道構內ニ屬スル範圍ニ對シテハ固ヨリ專ラ鐵道省其ノ任ニ在リト雖尙鐵道部外ニ於ケル警備ト密接ナル關聯アルノミナラズ鐵道構內ニ屬スルモノト雖其ノ援助ニ俟ツモノ尠カラサルモノアリ、計畫實行共ニ相互ノ交涉連絡ヲ保特スルニ努メタルカ今之等鐵道部外ノ警備取締ニ任シタルモノノ內鐵道ト關聯ノ深カカリシモノニ就キ其ノ大要ヲ述ベントス

第一項　儀仗及堵列兵

御召列車御發着及御停車驛內ニハ特ニ大尉ノ指揮スル歩兵一小隊ヲ差遣シ儀仗及直接ノ警護ニ任セシメタリ

以上ノ外陸軍禮式ノ定ムル所ニ依リ御發着及御停車驛ニハ衞戍地ニ在リテハ儀仗隊トシテ聯隊長ノ指揮スル歩兵一大隊又ハ騎兵一中隊歩騎兵以外ノ部隊ニ於ケル編成ハ之ニ準スヲ差遣スルト共ニ所在軍隊悉ク停車場附近ヲ基點トシ道路ニ沿ヒ堵列シ尙御通過驛ニ在リテモ所在衞戍兵ハ悉ク堵列奉送迎スルモノトシ之ニ關シ陸軍次官ヨリ鐵道用地內立入方及便宜供與方照會アリタルヲ以テ此ノ旨鐵道局ニ通牒シ其ノ手配ヲ爲サシメタリ而シテ儀仗及警護ニ任スル儀仗小隊ノ服務要領ヲ示セハ左ノ如シ

御駐輦及御乘降停車場ニ於ケル儀仗小隊服務要領